



TAISHO
UNIVERSITY



大正大学履修要項2017

大正大学

TAISHO UNIVERSITY

Curriculum Guide
2017

大正大学
履修要項2017

履修要項2017

■T-Po	2
T-Poについて／T-Poへのログイン方法／履修登録	
■4年間の学びの流れ	4
■授業	6
セメスター／授業時間／休講／補講／欠席について 欠席事由証明について／緊急時における授業の取り扱い／ オフィスアワー	
■授業科目	9
授業科目の構成／授業科目の種類	
■履修登録	10
履修登録の注意事項／単位について／制限単位／ 単位の認定	
■試験	12
試験の流れ／試験日の変更／試験の受け方／不正行為／ レポート提出について	
■成績	14
G P A(学業平均値)制度について／ 成績評価基準について／G P Aの算出方法／ 評価への疑問等	
■進級／留年／退学・除籍	16
■転学部・転学科・転コース	17
■卒業	18
卒業・学位授与／学位／卒業の要件	
■卒業論文・卒業研究	19
卒業論文・卒業研究の流れ／卒業論文の体裁	
■留学・海外語学研修	20
■第I類科目	21
学びの窓口(文化・社会・自然・地域) 学びの技法(基礎科目・展開科目・留学生科目) 第I類科目学則別表	

■第II類科目[仏教学部]	31
●仏教学科	31-41
■第II類科目[人間学部]	43
●社会福祉学科	44-47
●人間環境学科	48-51
●教育人間学科	52-56
■第II類科目[心理社会学部]	57
●人間科学科	58-60
●臨床心理学科	61-63
■第II類科目[文学部]	65
●人文学科	67-71
●日本文学科	72-74
●歴史学科	75-80
■第II類科目[表現学部]	81
●表現文化学科	82-90
■第II類科目関連分野科目について	91
■第III類科目	93-100
第III類科目の履修方法／ 教職・諸資格に関する科目／資格の種類 社会・地域貢献に関する科目 キャリア育成支援に関する科目 自己研鑽に関する科目 第III類科目学則別表	
■資格登録	101
資格登録および登録料	
■証明書	102
証明書の取扱窓口	
■FAQ	103-106
■大正大学履修規程	107-112
■大正大学試験規程[抜粋]	113
■大正大学学則[抜粋]	113
あとがきに代えて	114
建学のことばより 初代学長 澤柳政太郎	

読むガイド

履修要項

「履修要項2017」は2017年度入学生を対象としたものです。
卒業するまで使用しますので、
大切に保管してください。

T-Poについて

T-Poはインターネットを通じて、履修登録を行ったり、休講情報など学内情報の検索ができるWebシステムです。このシステムは、大学生活を送る上での大切なツールです。毎日ログインし、最新情報を確認してください。

T-Poへのログイン方法

T-Poのログイン画面が表示されます。



個人に付与されているIDと
パスワードを入力します。

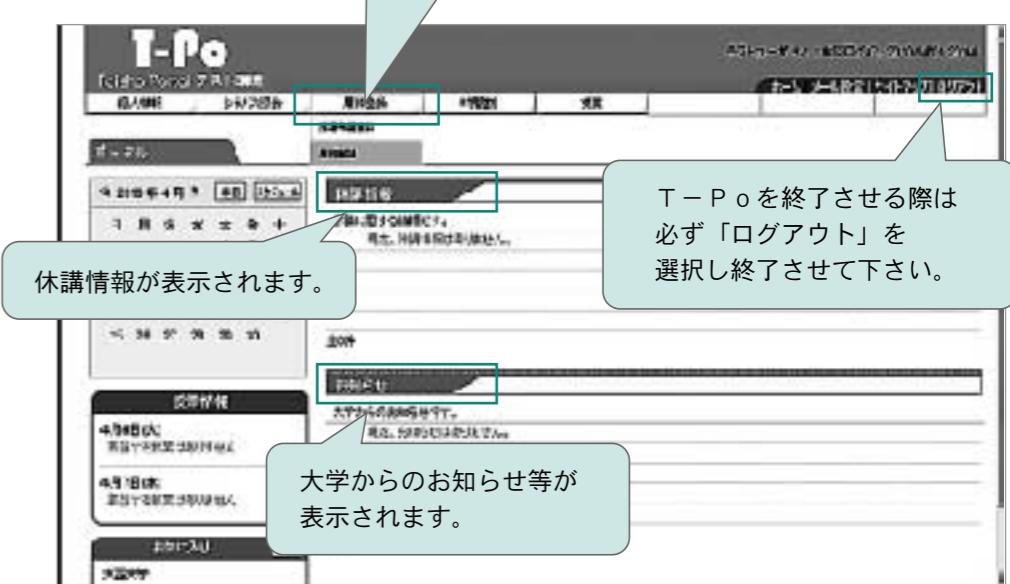
IDとパスワードを入力後
「ログイン」を選択します。

T-Poはインターネット環境があればどこからでも操作を行う
ことができます。

※ログインID、パスワードは入学式後のガイダンスで配布します。
卒業するまで使用するものですので配布後はなくさないようにしてください。

履修登録

「履修登録」は、ここから行ってください。
※履修登録期間のみボタンが表示されます



休講情報が表示されます。

T-Poを終了させる際は
必ず「ログアウト」を選択し終了させて下さい。

大学からのお知らせ等が
表示されます。

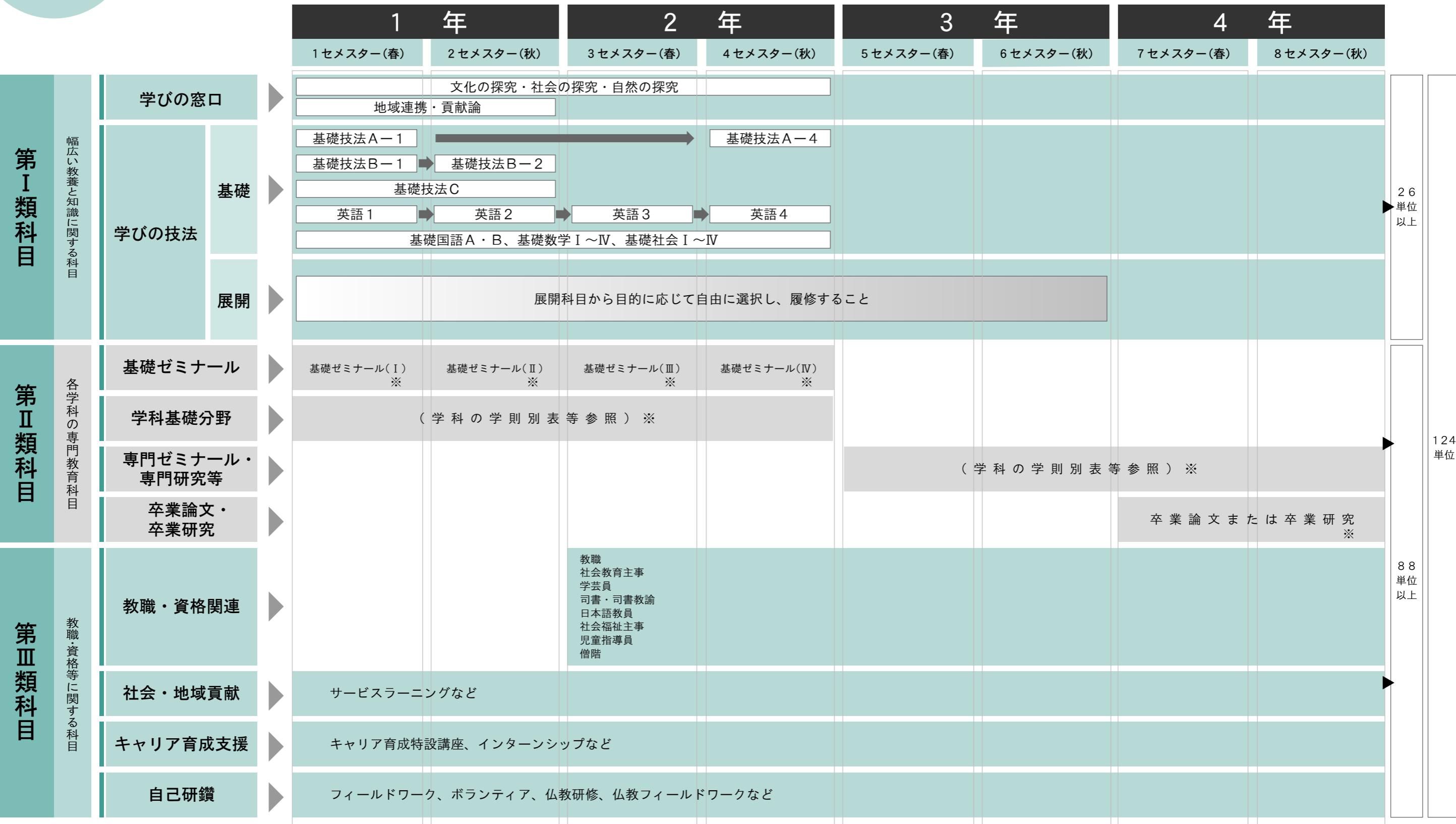
最後にT-Poの機能をいくつか紹介します。

- ・学生個人情報（住所や電話番号の変更手続き）
- ・履修登録（履修登録期間のみ登録可能）
- ・授業関連（開講科目のシラバスの検索・閲覧、出席情報確認）
- ・休講・補講情報
- ・授業教室
- ・レポート課題の提示、提出
- ・大学の各部署や教員からのお知らせ など

その他、詳しい機能については「T-Poマニュアル」を確認して下さい。

4年間の学びの流れ

学びの流れ



※印の科目の履修は、学科の指示にしたがうこと。

授業

授業について

4年間の履修計画を立て卒業までに必要な科目（単位）を修得してください。

セメスター

1年間の学修期間を2つの学期に分け、4年間で8つのセメスターを段階的に積み上げて学修し、卒業する制度です。

1年の前半（1、3、5、7セメスター）を「春学期」、後半（2、4、6、8セメスター）を「秋学期」と呼びます。

※ 学事日程、授業日程については、「ガイダンス資料」を確認してください。

欠席について

単位認定を受けるには、授業に毎回出席することが原則です。授業出席回数が3分の2に満たない場合は、規定により試験を受けることができません。
(大正大学履修規程第17条)

欠席事由証明について

欠席回数が成績評価に関係する場合があることから、以下に掲げる事由による欠席については大学がその事由を証明することができます。ただし、その取り扱いについては担当教員にゆだねられているので、担当教員の指示にしたがってください。

授業時間

授業時間について

1回の授業時間は、原則として90分を基準としています。春学期・秋学期の授業時間帯は以下のとおりです。集中講義は、別途お知らせします。

春学期・秋学期の授業時間帯

1時限	9:10～10:40
2時限	10:50～12:20
お昼休み	12:20～13:10
3時限	13:10～14:40
4時限	14:50～16:20
5時限	16:30～18:00
6時限	18:15～19:45

※ 授業は、原則として1時限から5時限の間で開講します。

※ 6時限は教職・資格に関する科目、補講、その他の科目を開講することがあります。

緊急時における授業の取り扱い

交通機関の運休や自然災害等が発生した際の授業の取り扱いは、次の通りです。

	午前6時段階	午前10時段階	午後2時段階
交通機関運行中止 (※1)	1・2限休講	3・4限休講	5・6・7限休講
気象警報等 (※2)	1・2限休講	3・4限休講	5・6・7限休講
大規模地震 (※3)	1・2限休講	3・4・5・6・7限休講	

(※1) 首都圏JR、首都圏大手私鉄各社、東京メトロ、都営地下鉄のうち3社が全面的に運行中止の場合。

(※2) 「暴風警報」「大雪警報」が東京23区東部もしくは西部に発令された場合。

(※3) 該当時間において、警戒宣言解除および判定会が解散されていない場合。

(注意) 路線バスは一般的に遅延証明書の発行を受けられません。交通機関の乱れが予測される場合は、遅れを見込んで早く家を出る等の自衛手段をとってください。

◆上記事態に伴う休講情報は大学ホームページでお知らせしますので、適宜確認してください◆

休講

授業担当教員が公務・病気等でやむを得ない理由により、授業が休講になることがあります。

◆休講の確認方法

T-Poの「休講情報」にアップします。

ただし、担当教員から教務課へ届出がなかった場合は、掲載されません。

また、急病等事前に告知できないときは、授業当日の掲載になる場合があります。

※休講の掲示がなく、授業開始後30分を過ぎても担当教員が教室に来ない場合は、教務課に申出て指示を受けてください。

補講

諸般の事情により休講が重なり、授業が予定どおりに進行できなくなった場合は、授業開講期間に補講が行われることがあります。

補講を行う場合は、T-Poでお知らせします。

授業科目

オフィスアワー

○ オフィスアワーとは

正課の授業とは別に、学生と教員のコミュニケーションを図る場として設けた時間帯のことです。それぞれの専任教員があらかじめ設定した時間帯に、研究室などに待機して学生からの質問や相談を受けやすくするための制度です。

オフィスアワーでは、授業内容に関する質問や、履修・学修の進め方などの相談のほか、レポート指導など学修に関することをはじめ、卒業後の進路、休学など個人的な相談をすることができます。

先生方は、学生の皆さんとの様々な相談に応じてくれますが、対処しきれない事柄については、他の専門の先生や、適切な関係者(組織)をご紹介くださるでしょう。

○ オフィスアワーの活用方法

専任教員のオフィスアワーを活用する際は、T-Poの「教員時間割表」に記載されているオフィスアワーの時間帯を確認し、研究室を訪問してください。予約が必要な場合がありますので、必ず事前に確認をしてから訪問してください。

なお、非常勤講師の先生方に関しては、オフィスアワーがありませんので、授業終了後の時間を利用してください。

授業科目の構成

授業科目の構成・種類

※ シラバスはT-Po上で公開しています。
<https://t-po.tais.ac.jp/>

第Ⅰ類科目 【共通科目】 幅広い教養と知識に関する科目	学びの窓口 基礎 展開
第Ⅱ類科目 【学科の専門科目】 各学科の専門教育科目	必修科目 選択科目(選択必修科目) 自由科目
第Ⅲ類科目 【共通科目】 教職・資格等に関する科目	教職・資格に関する科目 社会・地域貢献に関する科目 キャリア育成支援に関する科目 自己研鑽に関する科目

授業科目の種類

必修科目	卒業までに必ず履修(単位修得)しなければならない科目
選択科目 (選択必修科目)	指定された科目の中から選択し、所定の単位数を履修(単位修得)しなければならない科目(選択必修科目含む)
自由科目	開設された科目の中から自由に選択し、履修できるが卒業単位に含まない科目(必ずしも履修しなくてよい)

履修登録について

履修登録とは、シラバス・時間割を十分検討したうえで履修計画を立て、そのセメスターに履修しようとする科目をT-Po上から登録する手続きのことです。

履修登録上の注意事項

- 履修登録(科目の追加・削除含む)は、履修登録期間中に行ってください。
- 登録が完了後、必ず時間割を印刷してください。
正しく登録できていない(時間割に反映していない)科目は、単位認定されません。
- 教室の収容定員等の関係で、受講者数を制限する場合があります。
- すでに単位を修得した科目を再度履修することはできません。

単位の認定

単位認定の第一条件は履修登録です

科目を履修し、以下の条件を満たせば所定の単位が認定されます。

- 履修登録履修確認が行われていること。
- 授業を行った回数のうち最低3分の2以上出席していること。
- その科目的学修の評価試験・レポート)が合格点に達していること。

単位について

科目によって単位数が異なります

授業科目の単位数は、すべて学則に定められています。単位とは、授業科目の学習時間量のことです。この単位の算出方法は、その授業の種類・形態によって異なり、教室での授業の他に教室外での事前・事後学修の時間も含めて算出されています。
(1単位は45時間の学修が必要です。)

原則として以下の授業時間数をもって、それぞれの単位を認定します。

- 講義演習
 - 毎週2回(90分授業)×2)×15週=4単位認定
 - 毎週1回(90分授業) ×15週=2単位認定
- 実験実習・実技・外国語
 - 毎週1回(90分授業) ×15週=1単位認定

制限単位

学生のみなさんが無理なく単位を修得することができるよう、各学年・セメスターごとに履修できる単位数に上限を定めています。その対象となる履修科目は第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目とします。

なお、1週間の平均受講科目は10科目(1科目を2単位とした場合)です。

学年別制限単位数								
学年	1年次		2年次		3年次		4年次	
セメスター	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
制限単位 (第Ⅰ類・ 第Ⅱ類・ 第Ⅲ類学部共通)	24	24	24	24	24	24	24	24

制限単位の計算方法

- 通年科目の単位数は、春学期・秋学期に等分して計算してください。
例えば、通年4単位科目の場合、春学期2単位、秋学期2単位として計算してください。
- 通年、春学期、秋学期に開講される集中講義は、当該開講学期に計上してください。
- 第Ⅲ類科目は、制限単位の対象外とします。
- 夏期休業期間中の開講科目は、秋学期の制限単位に含めてください。

試験

試験の種類

履修科目的単位は、原則として試験の成績評価によって認定されます。

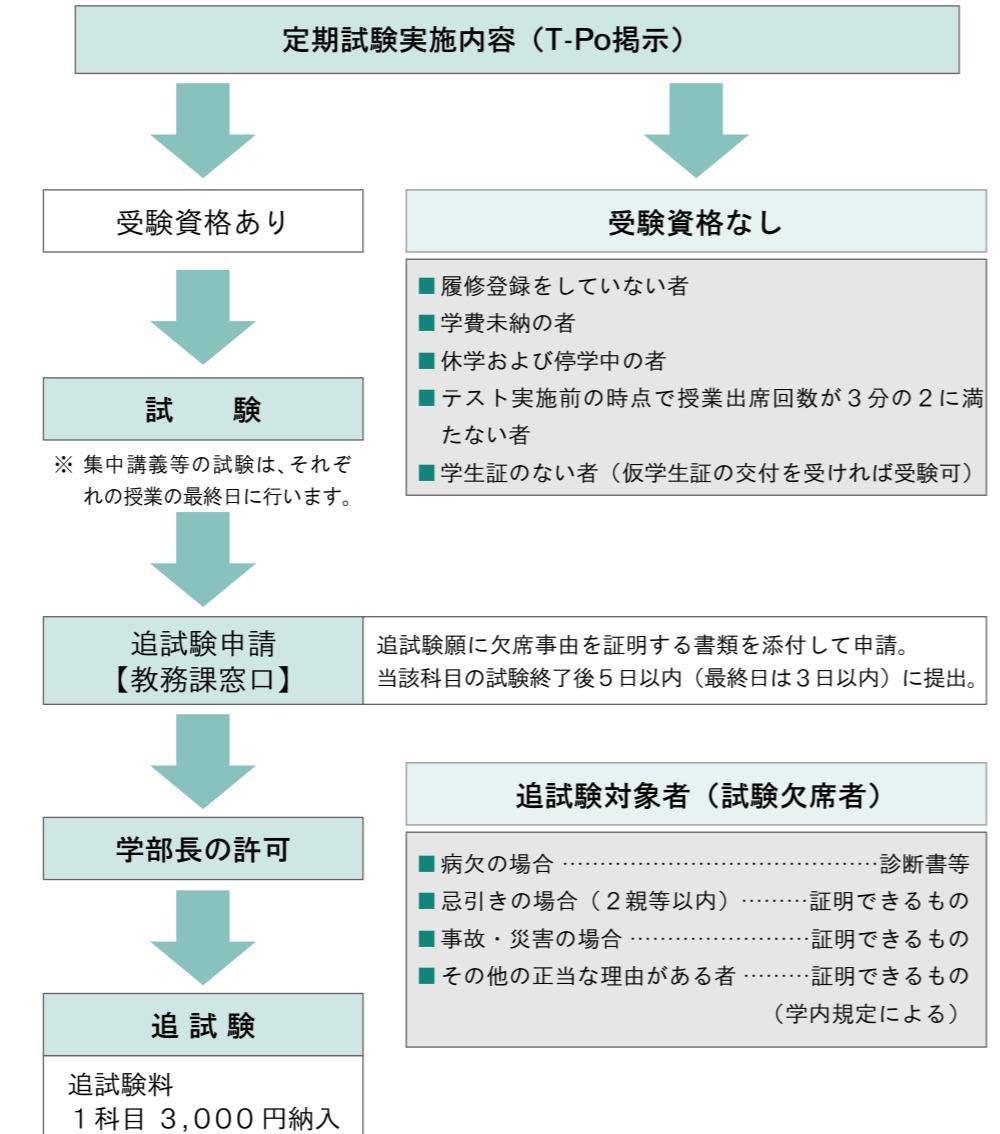
定期試験	…授業最終週の授業時間内で試験を実施します。
追試験	…やむを得ない理由により定期試験に出席できなかった場合に行います。 (所定の手続きがあります。)
再試験	…4年生最終セメスターの科目に限って行う場合があります。

試験の受け方

◆ 試験の心得

- ① 学生証は必ず顔写真が見えるようにして、机上に置いてください。
- ② 学生証を忘れた場合は、事前に学生課窓口で仮学生証の交付を受けてください(有料500円)。
- ③ 試験開始から20分以上遅刻すると受験できません。
- ④ 試験開始後30分経過するまで退室できません。
- ⑤ 答案用紙が配布され、試験監督より指示がありしだい、学籍番号・氏名等所定の事項を記入してから試験を開始してください(試験場から答案用紙を持ち出すことはできません)。
- ⑥ 携帯電話等の電源は必ず切ってください。
また、机上には許可された物以外は置くことができません。
- ⑦ 試験への持込みは、許可された物以外は一切認めません。
また、「ノート持込み可」の場合のノートとは自筆のノートのみとし、コピーしたものは一切認めません。

試験の流れ



不正行為

試験監督の注意・指示にしたがわない場合は、ただちに試験場から退場させ、その試験は無効とします。不正行為があった場合は、学部長に報告したのち、教授会の議を経て学則第61・62条(譴責、謹慎、停学、退学)により処分されます。

以下の行為があった場合、不正行為とみなします。

- 試験場において監督者の指示に従わないとき
- 持ち込み許可以外の物を使用したとき
- 他人の答案を盗み見等のカンニング行為をしたとき
- 他人の学生証で受験したとき(学生証を貸借した者両名)
- 未履修者が履修者と偽って受験したとき
- レポート試験にてコピー&ペーストをしたとき等

レポート提出について

レポートは、科目担当教員に直接提出してください。事務局は一切対応いたしません。レポート提出の指示があった場合は、必ず提出方法を確認し、指定期日に遅れないようにしてください。

- ① 郵送の場合：事前に宛先を担当教員に確認し、封筒に「レポート在中」と朱書きして「配達証明付」で送付してください。
(教務課では、担当教員の住所・電話番号等に関する問い合わせには一切お答えできません。)
- ② 直接提出する場合：事前に提出場所を確認し、指定期間内に提出してください。
- ③ T-Poで提出する場合：「T-Po利用マニュアル」を参照の上、提出してください。

なお、レポートの提出形式は特に定めていないので、担当教員の指示にしたがってください。

試験日の変更

交通機関の運行中止および台風等災害発生により試験が実施できなかった場合、その試験は原則として各セメスター最終日の翌日に行います。

成績

成績評価

授業の成績評価は、授業への取り組み・試験・レポート等を総合的に勘案して評価します。成績評価は、以下のとおりA AからC、およびTを合格、D・Zは不合格とします。

GPA(学業平均値)制度について

授業毎の成績評価に加え、GPA (Grade Point Average/学業平均値) を算出します。

GPAは、学生の学期（セメスター）または学年等、一定期間の履修と学習の状況を掌握することによって、個人別に適切できめ細やかな履修・学修アドバイスを可能とし、成績上位者を表彰する客観的なデータとして利用します。

GPAの算出方法

GPAは、下の算出例のとおりZ評価を含め、全ての履修科目を対象として算出しますので、履修登録を取り消す必要がある場合は、必ず修正登録期間中に修正してください。

[GPAの算出例]

2 単位の科目を 3 科目履修し、成績が<AA・A-・D>評価の場合のGPAと判定

$$\text{GPA} = \frac{\text{AA (4.0) } \times \text{単位数 (2) } + \text{A- (2.7) } \times \text{単位数 (2) } + \text{D (0) } \times \text{単位数 (2) }}{\text{登録総単位数 (不合格の科目の単位数も分母に加算)}}$$
$$= \frac{4.0 \times 2 + 2.7 \times 2 + 0 \times 2}{6} = 2.23 \quad \text{【判定: B】}$$

成績評価基準について

評価	ポイント	判定		基準
A A	4.0点	合 格 (最優秀)	A A	極めて優秀な成績
A +	3.5点			
A	3.0点	合 格 (優秀)	A	優秀な成績
A -	2.7点			
B +	2.4点			
B	2.0点	合 格 (良)	B	受講生の中では平均的な成績
B -	1.7点			
C +	1.4点			
C	1.0点	合 格 (可)	C	平均より劣るが、合格に値する成績
D	0.0点	不合格 (不可)	D	合格に達しない
Z	0.0点	不合格 (否)	Z	評価不能
T	—	本学の授業科目における合格判定(上記AA~Cを除く) および他大学等による単位認定		

※ Z評価はレポート未提出者、試験未受験者等を示します。

※ 成績通知表には、評価欄の評語を使用します。また、成績証明書には、判定欄の評語を使用します（成績証明書には、合格科目のみ記載されます）。

評価への疑問等

配付された前学期の成績表の評価が、不合格（D）（Z）となっている科目に対して疑問等がある場合は、指定期間に教務課窓口へ確認申請してください。
※ 日程はガイダンス資料を参照してください。



ただし、以下の場合は成績表に関する疑義および質問を一切受け付けないので注意してください。

- ◎ 教務課を通さずに、疑問点を直接教員に問い合わせ、その結果を教務課に届け出た場合
- ◎ 本人の都合による指定期間外での申請
- ◎ 出席回数が、授業回数の3分の2に満たない場合
- ◎ 成績表・時間割を持参していない場合

進級
留年
退学・除籍

進級・留年・退学・除籍について

転学部
転学科
転コース

転学部・転学科・転コースについて

他学部、他学科への転学、同一学科内の他コースへの転籍を希望する者（1・2年次のみ）は、当該学科・コースに欠員のある場合のみ、転学部・転学科・転コース試験を実施します。

進級

次の学年（1年生から2年生、2年生から3年生、3年生から4年生）へ進級するためには、当該学年に1年（2学期）以上在学し、かつ以下の基準を満たさなければなりません。

1年→2年

· 総修得単位数が20単位以上であること。

2年→3年

· 総修得単位数が62単位以上であること。

3年→4年

· 総修得単位数が90単位以上であること。

留年

進級基準を満たさない場合、留年となります。

留年となった場合には、半期（1学期）ずつ在学期間が延長されます。

退学・除籍

以下の場合は、大正大学学則第50条、履修規程第27条により退学となります。

- 第1学年、第2学年、第3学年の各学年において、2か年（4学期）在学してもなお、次学年に進級できない者
- 在学した直近3学期連続して、各学期のGPAが1.0未満の者（ただし、第4学年に在籍している者は除く）

以下の場合は、学則第51条により除籍となります。

- 休学期間が2年（4学期）を超えて復学できない者
- 8年（16学期）在学し、卒業できない者
編入学生は、4年（8学期）在学し、卒業できない者

転学部・転学科・転コース試験実施案内（T-Po）【11月上旬】



転学部・転学科・転コース申請受付



受験許可発表（受験料納付）



試験実施



試験結果発表



転籍（新年度より）

転学部・転学科◆受験資格◆

＜1年次＞
進級基準を満たしている者および満たす見込みの者
かつ、1年次春学期のGPAが3.2以上の者

＜2年次＞
進級基準を満たしている者および満たす見込みの者
かつ、2年次春学期までのGPAが3.2以上の者

転コース◆受験資格◆

進級基準をすでに満たしている者あるいは満たす見込みの者

卒業

卒業

卒業論文
・
卒業研究

卒業論文・卒業研究の体裁・提出手順

卒業・学位授与

本学に4年以上在学し、所定の授業科目（各学科の卒業要件を参照）124単位以上（卒業論文・卒業研究を含む）を修得した者は卒業となり、下表のとおり学士の学位を授与します。

学位

学部名	学科名	学位の名称
仏教学部	仏教学科	学士（仏教学）
人間学部	社会福祉学科	学士（社会福祉学）
	人間環境学科	学士（人間環境学）
	教育人間学科	学士（教育人間学）
心理社会学部	人間科学科	学士（人間科学）
	臨床心理学科	学士（臨床心理学）
文学部	人文学科	学士（人文学）
	日本文学科	学士（日本文学）
	歴史学科	学士（歴史学）
表現学部	表現文化学科	学士（表現文化）

18

卒業の要件

卒業に要する単位数を確認のうえ、修得もれのないようにしてください。
特に第Ⅰ類科目は、区分毎の必修24単位に加え、さらに2単位修得しなければならないので注意してください。

各学科共通	学びの窓口			学びの技法						第Ⅰ類科目 目計	第Ⅱ類科目		第Ⅲ類科目 目計	計			
	文化	社会	自然	地域	基礎科目			展開	基礎部門・専門部門		卒業論文 ・ 卒業研究						
					基礎A	基礎B	基礎C										
	各テーマ から2単位、 計6単位以上 選択必修	2単位 必修	4単位 必修	4単位 必修	2単位 必修	4単位 必修	2単位 必修	任 意	26単位 以上 選択 必修	学則別表および 学科の指導による ※1	原則 8単位 選択 必修 ※2	任 意	124 単位 以上 選択 必修				

※1、2 学科によって異なります。

※3 3年次から履修できる第Ⅱ類共通科目（オープン科目）は、30単位を超えない範囲で、第Ⅱ類科目の単位に充当することができます。

卒業論文の体裁

基本

表紙	手書き	ワープロ
規定枚数に含まない	・手書き:感熱紙不可 ・手書き:鉛筆書き不可	用紙 サイズ
目次	規定枚数に含まない	字詰め
序論 本論 結論 注釈	50枚 以上	書式 （下表、注意事項参照）
参考文献	13枚 以上	綴じ位置 例(1)

体裁

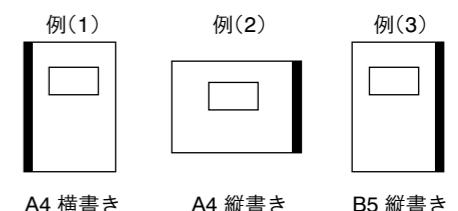
ワープロ:感熱紙不可 ・手書き:鉛筆書き不可	A 4	40字×40行	横書	例(1)
ワープロ:英語	A 4	指導教授の指示	横書	例(1)
ワープロ:日本語	A 4	40字×40行	縦書	例(2)
手書き・日本語	B 4	400字	縦書	例(3) 2つ折

※1頁の30行（手書きの場合は3分の2）以上あるものを1枚とする

※小説・詩等の場合は指導教授の指示にしたがうこと

1. 本文に必ず頁数を記入すること。
2. 目次の各タイトルにそれぞれの頁を記入すること。
3. 図表・グラフなどは、本文中に入れるのではなく、章や節の末尾にまとめるこ。
4. 綴じる際には右図の場所で綴じること。
紐綴じの場合は、解けないように中綴じすること。
・ ファイルなど、簡単に取り外せる状態のものは受け付けないので注意すること。
* 詳細は各学科に問い合わせること。

■ 綴じ位置の例



留学
・
海外語学研修

■ 留学・海外語学研修について

留学・海外語学研修には以下の種類があります。

幅広い教養と知識に関する科目

	協定留学	認定留学	海外語学研修
期間	半年あるいは1年	半年あるいは1年	1ヶ月程度
目的	交換留学	留学	大学主催の海外語学研修
形態	姉妹校(協定校)との協定により、相互に学費免除して相手校で学ぶ交換留学制度(一部例外あり)。	相手校との学費を自分で負担する以外、協定留学とほぼ同様。	大学主催の語学力向上を主な目的とした海外研修。
単位	単位認定	単位認定	単位認定
資格	留学先における言語の外国语資格検定試験 ドイツ語検定試験3級 中国語検定試験3級 HSK3級 韓国語能力試験3級 TOEFL試験BT68以上にて検定合格証明が必要。	留学先大学の入学許可書又は、受け入れ承諾書に加え、留学先の履修課程及び授業科目の詳細。	学部生が対象
その他	協定校での授業料の一部または全額の免除、および寮費の减免など(ただし上記留学形態条項にかかわらず各協定校の条件による)。	正規の高等教育機関で学位授与権を有する大学を留学先とし、留学先の授業料に减免はない。	春・夏休講期間中に協定校、交流校で開講される集中講座。
奨学金・奨励金	海外特別留学奨学金 協定留学先により藤井かよ奨学金あり。	海外特別留学奨励金	海外語学研修奨励金 海外語学研修先により藤井かよ奨学金あり。
留学先	アメリカ(ウェスタンミシガン大学・ハーバード大学・ハワイ大学マノア校)ドイツ(ミュンヘン大学)タイ(タマサート大学)中国(北京大学・河南大学・上海大学)韓国(東國大学校・東西大学校・金剛大学校)	学生本人による選定	・ハワイ大学 ・北京大学 ・ミュンヘン大学 ・東西大学校

第Ⅰ類科目

学びの窓口

学びの技法

第Ⅰ類科目

第Ⅰ類科目の履修について

大正大学の建学の精神と大学での学びとは何かを知り、学びたいことを学びやすい形で学ぶためのカリキュラムです。これからの大学教育の基礎、さらに社会人として生きていく力を養うことが目的で構成された科目です。

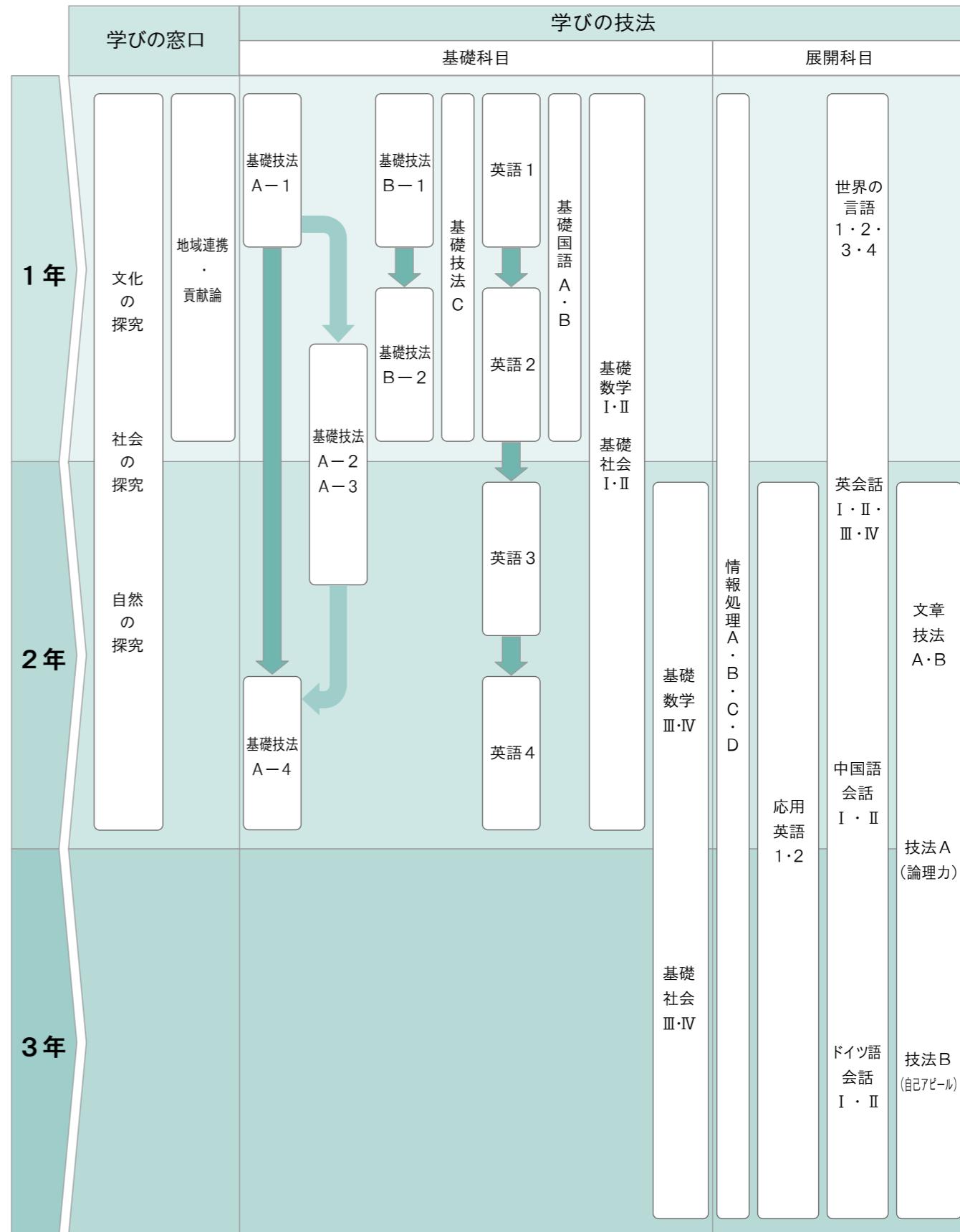
第Ⅰ類科目は、教養教育科目として26単位以上を選択必修としている。それは、教養教育が大学で学んでいく上で基礎となり、さらに社会人として生きていく力にもつながっていくという科目群のねらいもある。

■ 学びの窓口

文化・社会・自然および地域の各分野から学ぶことにより、人間としての生きる力を身につけ、かつ教養人として社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。

■ 学びの技法

専門分野を深く学ぶために必要な基礎技法を身につけることを目的として、「人格(キャリア)形成」「基礎的学習スキル」「情報リテラシー」「外国語」の4つの要素から構成されている。



第Ⅰ類科目

第Ⅰ類科目の構成

第Ⅰ類科目は、「学びの窓口」「学びの技法」から構成され、それぞれに教育目標が定められている。

26単位以上選択必修

学びの窓口

文化・社会・自然および地域の4つの分野から構成されている。

学びの技法

基礎科目・展開科目で構成されている。

学びの窓口

「学びの窓口」は、文化・社会・自然および地域の4分野で構成され、各分野から幅広く基礎を学び、専門分野への窓口として、学ぶ方法を身につけることを目的としている。

■履修方法

- ① 文化・社会・自然の各分野より2単位以上、計6単位以上選択必修とする。
- ② 地域の分野は「地域連携・貢献論」(2単位)を必修とする。
- ③ 「学びの窓口」科目の履修登録は抽選になります。

学びの窓口

テーマ	科目	備考
文化	考えるための哲学	文化の探究A
		文化の探究B
	歴史に学ぶ	文化の探究C
		文化の探究D
	ことばの不思議	文化の探究E
		文化の探究F
	慈悲と智慧の学び	文化の探究G
		文化の探究H
	〈世界〉に触れる方法	文化の探究I
社会	社会と家族	社会の探究A
		社会の探究B
	情報・メディア	社会の探究C
		社会の探究D
	世界の中の日本	社会の探究E
		社会の探究F
自然	社会と市民生活	社会の探究G
		社会の探究H
		社会の探究I
	数学の世界	自然の探究A
		自然の探究B
地域	生活と健康	自然の探究C
		自然の探究D
	自然と環境	自然の探究E
		自然の探究F
	科学の世界	自然の探究G
		自然の探究H
		自然の探究I
地域	地域連携・貢献論	2単位必修

6単位以上選択必修。
ただし、文化・社会・自然より
2単位以上選択必修。

学びの技法

「学びの技法」は、基礎科目と展開科目で構成される。大学での学びに必要とされる基礎的学習スキルを身につけることを目的としている。

■ 基礎科目

基礎科目のうち以下の①～④9科目14単位は必ず履修すること。

- ① 基礎技法A－1・4(4単位)
- ② 基礎技法B－1・2(4単位)
- ③ 基礎技法C(2単位)※
- ④ 英語1・2・3・4(4単位)※

※ ただし、特に認められた者については履修を免除する。

上記以外の基礎科目は選択科目です。必要に応じて履修すること。

■ 展開科目

展開科目は選択科目です。必要に応じて履修すること。

- ① 情報処理A・Bは1→2と段階的に履修することが望ましい。
- ② 外国語科目は1→2→3→4、I→II→III→IVと段階的に継続して学習することが望ましい。

■ 諸外国語の外国語検定試験による単位認定について

大学入学前および入学後にTOEICテスト、TOEFL ITPテスト、TOEFL iBTテストと中国語検定を受験した場合、点数に応じて単位を認定します。ただし、該当科目の単位を修得済みの場合は認定することができません。単位認定希望者は所定の手続きを取ってください。

◆ 対象者

- TOEICテスト450点以上取得者(TOEIC IPを含む)
- TOEFL ITPテスト453点以上取得者
- TOEFL iBTテスト46点以上取得者
- 中国語検定合格者

◆ 申請の流れ

書類を教務課窓口に提出

- ① TOEIC・TOEFL公開テストのスコアまたは中国語検定合格者書
(合格後2年以内のもの)
- ② 単位認定申請書(教務課窓口で配付)

大学で審査を実施

単位を認定(T認定)

申請した学期の学期末に認定されます

◆ 申請期間

ガイダンス資料でご確認ください。

◆ 認定単位科目

TOEICテスト

450点以上取得	英語1を認定
500点取得	英語1・2を認定
550点取得	英語1～3を認定
600点取得	英語1～4を認定

TOEFL ITPテスト

453点以上取得	英語1を認定
470点取得	英語1・2を認定
487点取得	英語1～3を認定
503点取得	英語1～4を認定

TOEFL iBTテスト

46点以上取得	英語1を認定
52点取得	英語1・2を認定
57点取得	英語1～3を認定
62点取得	英語1～4を認定

中国語検定

中国語検定4級合格	中国語12を認定
中国語検定3級合格	中国語1～4を認定

■ 基礎技法CのP検による単位認定について

大学入学以前および入学後に、以下の検定を受験し合格した場合、単位を認定します。
ただし、該当科目的単位を修得済みの場合は認定することができません。
単位認定希望者は所定の手続きを取ってください。

◆ 対象者(以下の検定取得者)

P検3級以上
ドットコムマスターべーシック
ITパスポート
日商PC検定3級以上

◆ 申請の流れ

書類を教務課に提出

- ①合格証明書(合格後2年以内のもの)
②単位認定申請書(教務課窓口で配布)

大学で審査を実施

単位を認定(T認定)

申請した学期の学期末に認定されます

◆ 申請期間

ガイダンス資料でご確認ください。

◆ 認定単位科目

基礎技法Cを認定

■ 入学準備学習について

AO入試で入学した学生は、第Ⅰ類科目に「入学準備学習」として1単位を認定します。

第Ⅰ類科目学則別表

群	テーマ	授業科目的名称			備考
		学部共通(第Ⅰ類科目)		履修年次	
文化	授業科目的概要	文化の探究A	1 2	2	2単位以上選択必修
		文化の探究B	1 2	2	
		文化の探究C	1 2	2	
		文化の探究D	1 2	2	
		文化の探究E	1 2	2	
		文化の探究F	1 2	2	
		文化の探究G	1 2	2	
		文化の探究H	1 2	2	
		文化の探究I	1 2	2	
社会	学びの窓口	社会の探究A	1 2	2	2単位以上選択必修
		社会の探究B	1 2	2	
		社会の探究C	1 2	2	
		社会の探究D	1 2	2	
		社会の探究E	1 2	2	
		社会の探究F	1 2	2	
		社会の探究G	1 2	2	
		社会の探究H	1 2	2	
		社会の探究I	1 2	2	
自然	自然	自然の探究A	1 2	2	2単位以上選択必修
		自然の探究B	1 2	2	
		自然の探究C	1 2	2	
		自然の探究D	1 2	2	
		自然の探究E	1 2	2	
		自然の探究F	1 2	2	
		自然の探究G	1 2	2	
		自然の探究H	1 2	2	
		自然の探究I	1 2	2	
地域	地域	地域連携・貢献論	1 2	2	2単位必修 2単位必修
		基礎技法A-1	1	2	
		基礎技法A-2	1	2	
		基礎技法A-3	2	2	
		基礎技法A-4	2	2	
		基礎技法B-1	1	2	
		基礎技法B-2	1	2	
		基礎技法C	1	2	
		英語1	1	1	
基礎科目	基礎科目	英語2	1	1	4単位必修 2単位必修 4単位必修
		英語3	2	1	
		英語4	2	1	
		基礎国語A	1	2	
		基礎国語B	1	2	
		基礎数学I	1 2	2	
		基礎数学II	1 2	2	
		基礎数学III	2 3	2	
		基礎数学IV	2 3	2	
		基礎社会I	1 2	2	選択科目
		基礎社会II	1 2	2	
		基礎社会III	2 3	2	
		基礎社会IV	2 3	2	

授業科目の概要

群	テーマ	授業科目の名称		履修年次	単位	備 考
		学部共通（第Ⅰ類科目）				
		情報処理A－1（ワード）	1 2 3	2		
		情報処理A－2（ワード）	1 2 3	2		
		情報処理B－1（エクセル）	1 2 3	2		
		情報処理B－2（エクセル）	1 2 3	2		
		情報処理C（プレゼンテーション）	1 2 3	2		
		情報処理D（データベース）	1 2 3	2		
		応用英語1	2 3	1		
		応用英語2	2 3	1		
		世界の言語（中国語）1	1 2	1		
		世界の言語（中国語）2	1 2	1		
		世界の言語（中国語）3	2 3	1		
		世界の言語（中国語）4	2 3	1		
		世界の言語（フランス語）1	1 2	1		
		世界の言語（フランス語）2	1 2	1		
		世界の言語（フランス語）3	2 3	1		
		世界の言語（フランス語）4	2 3	1		
		世界の言語（ドイツ語）1	1 2	1		
		世界の言語（ドイツ語）2	1 2	1		
		世界の言語（ドイツ語）3	2 3	1		
		世界の言語（ドイツ語）4	2 3	1		
		世界の言語（韓国語）1	1 2	1		
		世界の言語（韓国語）2	1 2	1		
		世界の言語（韓国語）3	2 3	1		
		世界の言語（韓国語）4	2 3	1		
		世界の言語（スペイン語）1	1 2	1		
		世界の言語（スペイン語）2	1 2	1		
		世界の言語（スペイン語）3	2 3	1		
		世界の言語（スペイン語）4	2 3	1		
		世界の言語（ヒンディ語）1	1 2	1		
		世界の言語（ヒンディ語）2	1 2	1		
		世界の言語（ヒンディ語）3	2 3	1		
		世界の言語（ヒンディ語）4	2 3	1		
		英会話 I	1 2	2		
		英会話 II	1 2	2		
		英会話 III	2 3	2		
		英会話 IV	2 3	2		
		中国語会話 I	1 2 3	2		
		中国語会話 II	1 2 3	2		
		ドイツ語会話 I	1 2 3	2		
		ドイツ語会話 II	1 2 3	2		
		文章技法A	2 3	2		
		文章技法B	2 3	2		
		技法A（論理力）	2 3	2		
		技法B（自己アピール）	2 3	2		
		日本語研究A		2		
		日本語研究B		2		
		日本語研究C		2		
		日本語研究D		2		
		日本語研究E		2		
		日本語研究F		2		
		日本語研究G		2		
		日本語研究H		2		
		日本語研究I		2		
		日本文化研修		2		

選択科目

留学生のみ
履修可能

第Ⅱ類科目は、各自が所属する学科の専門教育科目である。履修すべき総単位(124単位)のうち、各学科平均70単位を要することになっており、大学教育の根幹をなす科目群である。
その構成は学科によって異なるが、おおよそ以下のとおりである。

1. 基礎ゼミナール・プレップセミナー

1・2年生を対象としたコース別のゼミナール。少人数のクラス編成で、大学での学習全般に関するオリエンテーションをはじめ、各コースの基礎的な知識および上級学年で学ぶ専門科目の内容や学習方法について指導する。

また担当教員と学生生活や学習について話し合う場でもあり、有意義な4年間を送るための第一歩として受講する必修科目である。

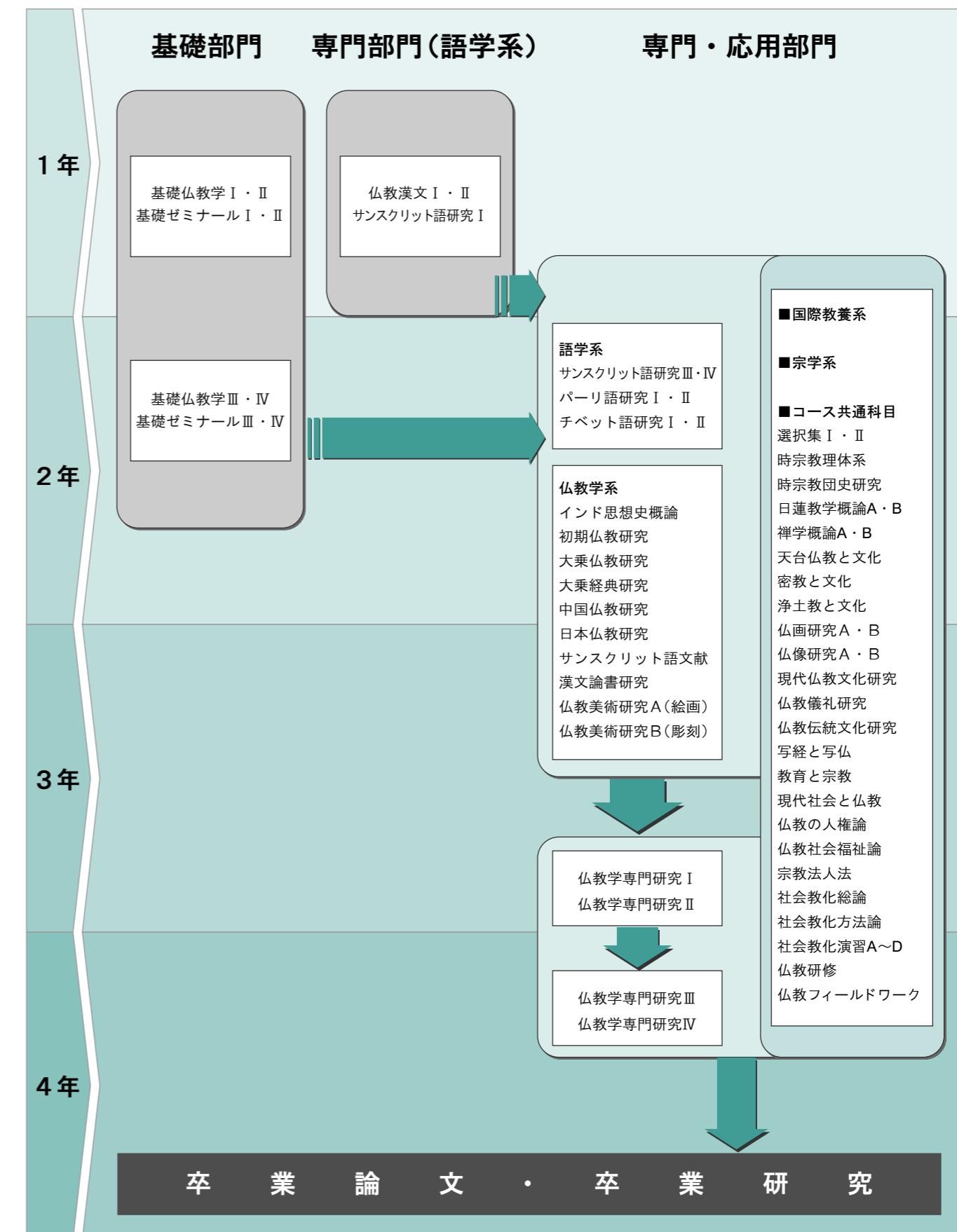
2. 基礎・専門・法儀部門

仏教学全般の基礎やコースの専門的学習をしながら、3年次の専門研究、4年次の卒業論文・卒業研究・フリー研究に展開していくための科目群である。コースの枠組みを超えて幅広い科目を学ぶことができるが、各自の研究目標にそった科目選択が望まれる。

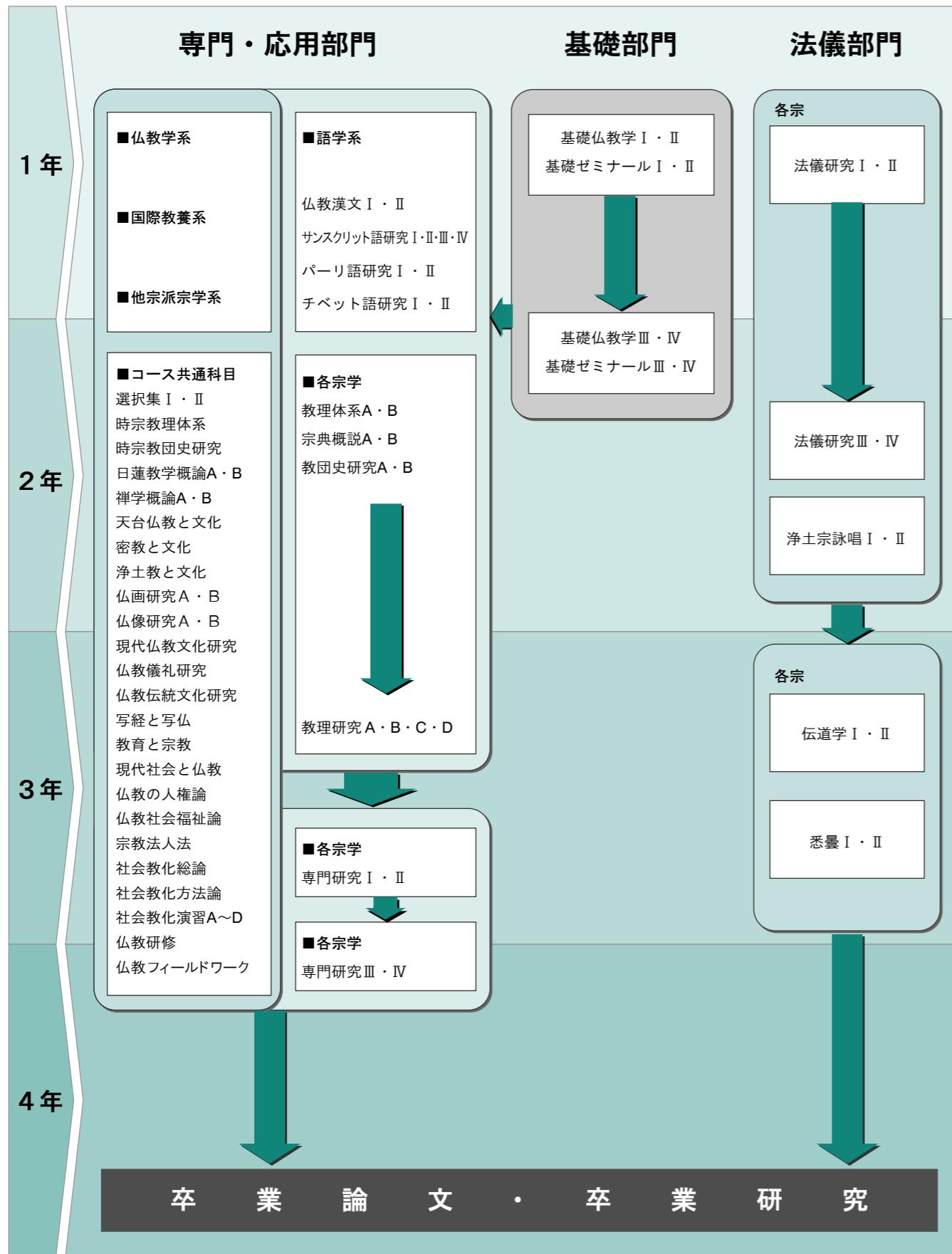
3. 専門研究、卒業論文・卒業研究・フリー研究

卒業論文・卒業研究・フリー研究は大学での学習の集大成である。3年次より専門研究でテーマの決定や資料収集など、担当教員より指導を受けながら卒業論文・卒業研究・フリー研究を完成させていく。

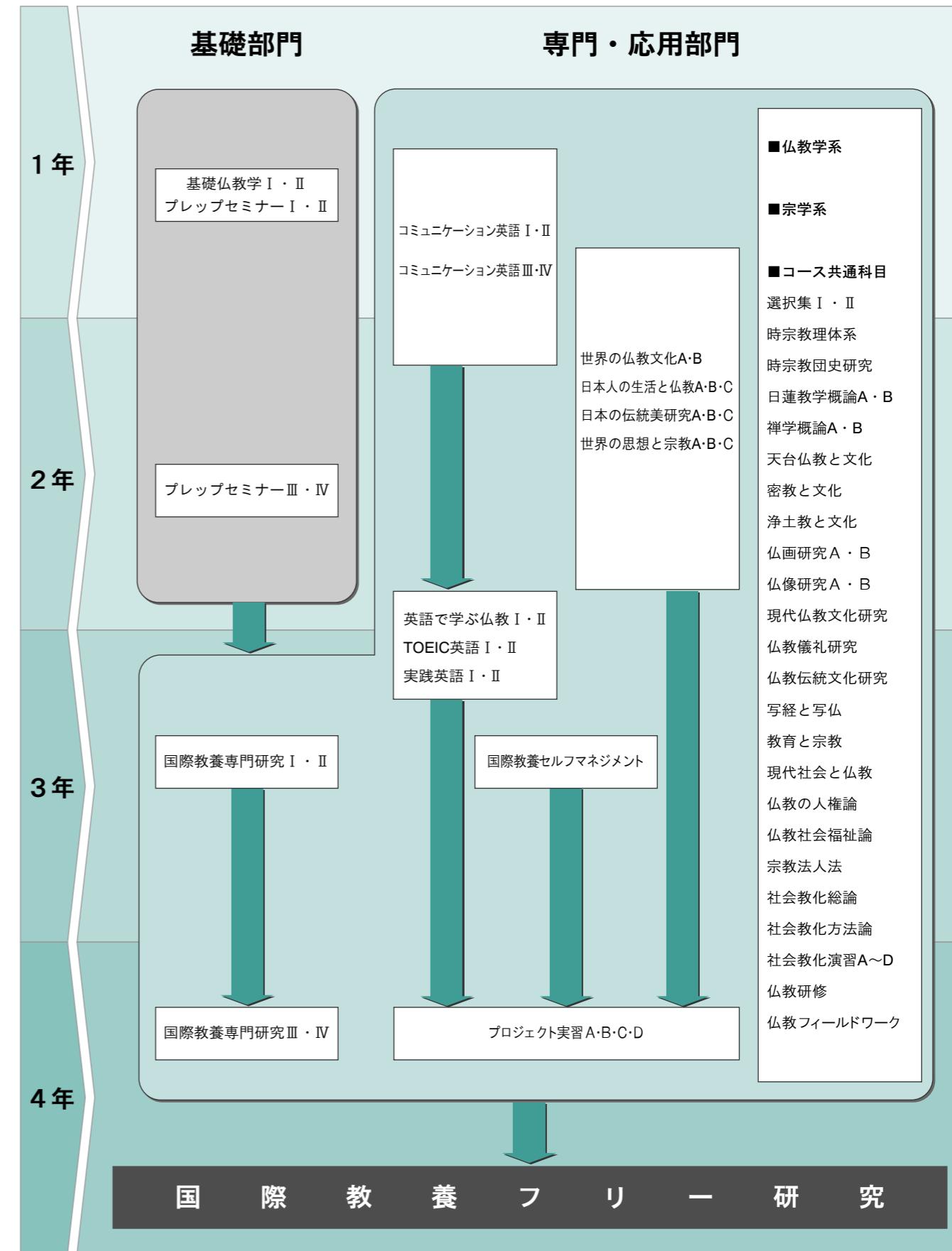
また、よりよい成果があげられるよう、1年生のうちから十分な基礎学習を積み上げることが大切である。



■ 仏教学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について



■ 仏教学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について



授業科目の名称		履修年次	単位	備 考
● 基礎部門	基礎部門	基礎仏教学Ⅰ(初期仏教)	1	4
		基礎仏教学Ⅱ(大乗仏教)	1	4
		基礎仏教学Ⅲ(東アジア仏教)	2	4
		基礎仏教学Ⅳ(日本仏教)	2	4
● 専門部門	語学系	基礎ゼミナールⅠ	1	2
		基礎ゼミナールⅡ	1	2
		基礎ゼミナールⅢ	2	2
		基礎ゼミナールⅣ	2	2
		プレップセミナーⅠ	1	2
		プレップセミナーⅡ	1	2
		プレップセミナーⅢ	2	2
		プレップセミナーⅣ	2	2
	専門部門	仏教漢文Ⅰ	1	2
		仏教漢文Ⅱ	1	2
		サンスクリット語研究Ⅰ	1	2
		サンスクリット語研究Ⅱ	1	2
		サンスクリット語研究Ⅲ	2	2
		サンスクリット語研究Ⅳ	2	2
	専門部門	ペーリ語研究Ⅰ	2	2
		ペーリ語研究Ⅱ	2	2
		チベット語研究Ⅰ	2	2
		チベット語研究Ⅱ	2	2
	専門部門	インド思想史概論	2	2
		初期仏教研究	2	2
		大乗仏教研究	2	2
		大乗經典研究	2	2
		中国仏教研究	2	2
		日本仏教研究	2	2
	専門部門	サンスクリット語文獻Ⅰ	2	2
		サンスクリット語文獻Ⅱ	2	2
		漢文論書研究	2	2
	専門部門	仏教美術史研究A(絵画)	2	2
		仏教美術史研究B(彫刻)	1	2
国際教養系	国際教養系	コミュニケーション英語Ⅰ	1	4
		コミュニケーション英語Ⅱ	1	4
		コミュニケーション英語Ⅲ	2	2
		コミュニケーション英語Ⅳ	2	2

次頁に続く

授業科目の名称		履修年次	単位	備 考
● 専門部門	国際教養系	英語で学ぶ仏教Ⅰ	2	2
		英語で学ぶ仏教Ⅱ	2	2
		TOEIC英語Ⅰ	3	2
		TOEIC英語Ⅱ	3	2
	専門部門	実践英語Ⅰ	3	2
		実践英語Ⅱ	3	2
		国際教養セルフマネジメントⅠ	3	2
		国際教養セルフマネジメントⅡ	3	2
	専門部門	世界の仏教文化A	1	2
		世界の仏教文化B	1	2
		日本人の生活と仏教A	1	2
		日本人の生活と仏教B	1	2
		日本人の生活と仏教C	1	2
	専門部門	日本の伝統美研究A	1	2
		日本の伝統美研究B	2	2
		日本の伝統美研究C	3	2
	専門部門	世界の思想と宗教A	2	2
		世界の思想と宗教B	2	2
		世界の思想と宗教C	2	2
	専門部門	プロジェクト実習A	3	2
		プロジェクト実習B	3	2
		プロジェクト実習C	3	2
		プロジェクト実習D	3	2
宗学系	宗学系	天台学教理体系A	2	2
		天台学教理体系B	2	2
		天台学宗典概説A	2	2
		天台学宗典概説B	2	2
		天台学教理研究A	3	2
		天台学教理研究B	3	2
		天台学教理研究C	3	2
		天台学教理研究D	3	2
		天台教団史研究A	2	2
		天台教団史研究B	2	2
		真言豊山学教理体系A	2	2
		真言豊山学教理体系B	2	2
		真言豊山学宗典概説A	2	2
		真言豊山学宗典概説B	2	2
		真言豊山学教理研究A	3	2
		真言豊山学教理研究B	3	2
		真言豊山学教理研究C	3	2
		真言豊山学教理研究D	3	2
		真言豊山教団史研究A	2	2
		真言豊山教団史研究B	2	2

次頁に続く

● 専門部門

授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
真言智山学教理体系 A	2	2	● 宗学系
真言智山学教理体系 B	2	2	
真言智山学宗典概説 A	2	2	
真言智山学宗典概説 B	2	2	
真言智山学教理研究 A	3	2	
真言智山学教理研究 B	3	2	
真言智山学教理研究 C	3	2	
真言智山学教理研究 D	3	2	
真言智山教団史研究 A	2	2	
真言智山教団史研究 B	2	2	
浄土学教理体系 A	2	2	
浄土学教理体系 B	2	2	
浄土学宗典概説 A	2	2	
浄土学宗典概説 B	2	2	
浄土学教理研究 A	3	2	
浄土学教理研究 B	3	2	
浄土学教理研究 C	3	2	
浄土学教理研究 D	3	2	
浄土教団史研究 A	2	2	
浄土教団史研究 B	2	2	
選択集 I	2 3	2	
選択集 II	2 3	2	
時宗教理体系	2 3 4	4	
時宗教団史研究	2 3 4	4	
日蓮教学概論 A	2 3 4	2	
日蓮教学概論 B	2 3 4	2	
禅学概論 A	2 3 4	2	
禅学概論 B	2 3 4	2	
天台佛教と文化	1 2 3 4	2	
密教と文化	1 2 3 4	2	
浄土教と文化	1 2 3 4	2	
仏画研究 A	2 3 4	2	
仏画研究 B	2 3 4	2	
仏像研究 A	2 3 4	2	
仏像研究 B	2 3 4	2	
現代仏教文化研究	2 3 4	2	
仏教儀礼研究	2 3 4	2	
仏教伝統文化研究	2 3 4	2	
写経と写仏	2 3 4	2	
教育と宗教	2 3 4	2	
現代社会と仏教	2 3 4	2	
仏教の人権論	2 3 4	2	
仏教社会福祉論	2 3 4	2	
宗教法人法	2 3 4	2	
社会教化総論	2 3 4	2	
社会教化方法論	2 3 4	2	
社会教化演習 A	2 3 4	2	
社会教化演習 B	2 3 4	2	
社会教化演習 C	2 3 4	2	
社会教化演習 D	2 3 4	2	
仏教研修(※)	1 2 3 4	2	
仏教フィールドワーク(※)	1 2 3 4	2	

—(※)同時履修、複数回履修可能
—(※)複数回履修可能

● 法儀部門

授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
天台宗法儀研究 I	1	2	● 法儀部門 僧階資格登録が必要
天台宗法儀研究 II	1	2	
天台宗法儀研究 III	2	2	
天台宗法儀研究 IV	2	2	
天台宗伝道学 I	3	2	
天台宗伝道学 II	3	2	
天台宗悉曇 I	3	2	
天台宗悉曇 II	3	2	
真言宗豊山法儀研究 I	1	2	
真言宗豊山法儀研究 II	1	2	
真言宗豊山法儀研究 III	2	2	
真言宗豊山法儀研究 IV	2	2	
真言宗豊山伝道学 I	3	2	
真言宗豊山伝道学 II	3	2	
真言宗豊山悉曇 I	3	2	
真言宗豊山悉曇 II	3	2	
真言宗智山法儀研究 I	1	2	
真言宗智山法儀研究 II	1	2	
真言宗智山法儀研究 III	2	2	
真言宗智山法儀研究 IV	2	2	
真言宗智山伝道学 I	3	2	
真言宗智山伝道学 II	3	2	
真言宗智山悉曇 I	3	2	
真言宗智山悉曇 II	3	2	
浄土宗法儀研究 I	1	2	
浄土宗法儀研究 II	1	2	
浄土宗法儀研究 III	2	2	
浄土宗法儀研究 IV	2	2	
浄土宗伝道学 I	3	2	
浄土宗伝道学 II	3	2	
浄土宗詠唱 I	2	2	
浄土宗詠唱 II	2	2	
時宗法儀研究 I	1	1	
時宗法儀研究 II	1	1	
時宗法儀研究 III	2	1	
時宗法儀研究 IV	2	1	

次頁に続く

授業科目の名称

履修年次 単位

備 考

● 応用部門

仏教学専門研究Ⅰ	3	2
仏教学専門研究Ⅱ	3	2
仏教学専門研究Ⅲ	4	2
仏教学専門研究Ⅳ	4	2
国際教養専門研究Ⅰ	3	2
国際教養専門研究Ⅱ	3	2
国際教養専門研究Ⅲ	4	2
国際教養専門研究Ⅳ	4	2
天台学専門研究Ⅰ	3	2
天台学専門研究Ⅱ	3	2
天台学専門研究Ⅲ	4	2
天台学専門研究Ⅳ	4	2
真言豊山学専門研究Ⅰ	3	2
真言豊山学専門研究Ⅱ	3	2
真言豊山学専門研究Ⅲ	4	2
真言豊山学専門研究Ⅳ	4	2
真言智山学専門研究Ⅰ	3	2
真言智山学専門研究Ⅱ	3	2
真言智山学専門研究Ⅲ	4	2
真言智山学専門研究Ⅳ	4	2
浄土学専門研究Ⅰ	3	2
浄土学専門研究Ⅱ	3	2
浄土学専門研究Ⅲ	4	2
浄土学専門研究Ⅳ	4	2
卒業論文	4	8
卒業研究	4	8
国際教養フリー研究	4	8

応用部門

8単位以上選択必修

● 卒業論文・卒業研究

8単位選択必修

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし必ず学科の指導を受けること。

[1] 上記別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。

[2] 第Ⅱ類科目+第Ⅲ類科目=88単位以上。

第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目(任意)との合計が88単位以上となるように修得すること。

[3] 第Ⅲ類科目=30単位まで

第Ⅲ類科目を卒業単位として認定できる単位数は、30単位までとする。

■ 先修制科目……以下の科目は順次履修すること。

- ・天台宗法儀研究Ⅰ→天台宗法儀研究Ⅱ→天台宗法儀研究Ⅲ→天台宗法儀研究Ⅳ
- ・天台宗悉曇Ⅰ→天台宗悉曇Ⅱ
- ・真言宗豊山法儀研究Ⅰ→真言宗豊山法儀研究Ⅱ→真言宗豊山法儀研究Ⅲ→真言宗豊山法儀研究Ⅳ
- ・真言宗豊山悉曇Ⅰ→真言宗豊山悉曇Ⅱ
- ・真言宗智山法儀研究Ⅰ→真言宗智山法儀研究Ⅱ→真言宗智山法儀研究Ⅲ→真言宗智山法儀研究Ⅳ
- ・真言宗智山悉曇Ⅰ→真言宗智山悉曇Ⅱ
- ・浄土宗法儀研究Ⅰ→浄土宗法儀研究Ⅱ→浄土宗法儀研究Ⅲ→浄土宗法儀研究Ⅳ
- ・浄土宗伝道学Ⅰ→浄土宗伝道学Ⅱ
- ・浄土宗詠唱Ⅰ→浄土宗詠唱Ⅱ

教職科目

● 教職関連部門

授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
日本史概説A	2 3 4	2	教職資格登録者のみ履修可。
日本史概説B	2 3 4	2	
西洋史概説	2 3 4	4	
東洋史概説	2 3 4	4	
人文地理学A	2 3 4	2	
人文地理学B	2 3 4	2	
自然地理学A	2 3 4	2	
自然地理学B	2 3 4	2	
地誌学	2 3 4	2	
法律学概論(国際法を含む。)	2 3 4	2	
政治学概論(国際政治を含む。)	2 3 4	2	
社会学入門	2 3 4	4	
経済学概論(国際経済を含む。)	2 3 4	2	
哲学入門	2 3 4	2	
現代倫理学	2 3 4	2	
宗教学入門	2 3 4	2	
宗教史Ⅰ	2 3 4	2	
宗教史Ⅱ	2 3 4	2	
心理学概説	2 3 4	2	

■ 教職関連部門は、教職の資格登録を行っている者のみ履修することができる。

また、履修制限単位の対象外とする。

■ 修得単位は、第Ⅲ類として認定する。

■ 教職の履修については、教職ガイダンス・資格要項にて確認すること。

第Ⅱ類科目

人間学部

社会福祉学科

人間環境学科

教育人間学科

第Ⅱ類科目は、各自が所属する学科の専門教育科目である。履修すべき総単位(124単位)のうち、各学科平均70単位を要する、大学教育の根幹をなす科目群である。
その構成は学科によって異なるが、おおよそ以下のとおりである。

1. 基礎ゼミナール

1年生を対象とした学科ごとのゼミナール。比較的少人数のクラス編成で、所属学科の学習内容のオリエンテーションをはじめ、専門課程の学習方法について学ぶ。また担当教員は、クラスの学生の学習全般、生活も気にかけている。気軽に相談してほしい。

2. 学科の基礎・分野・方法研究

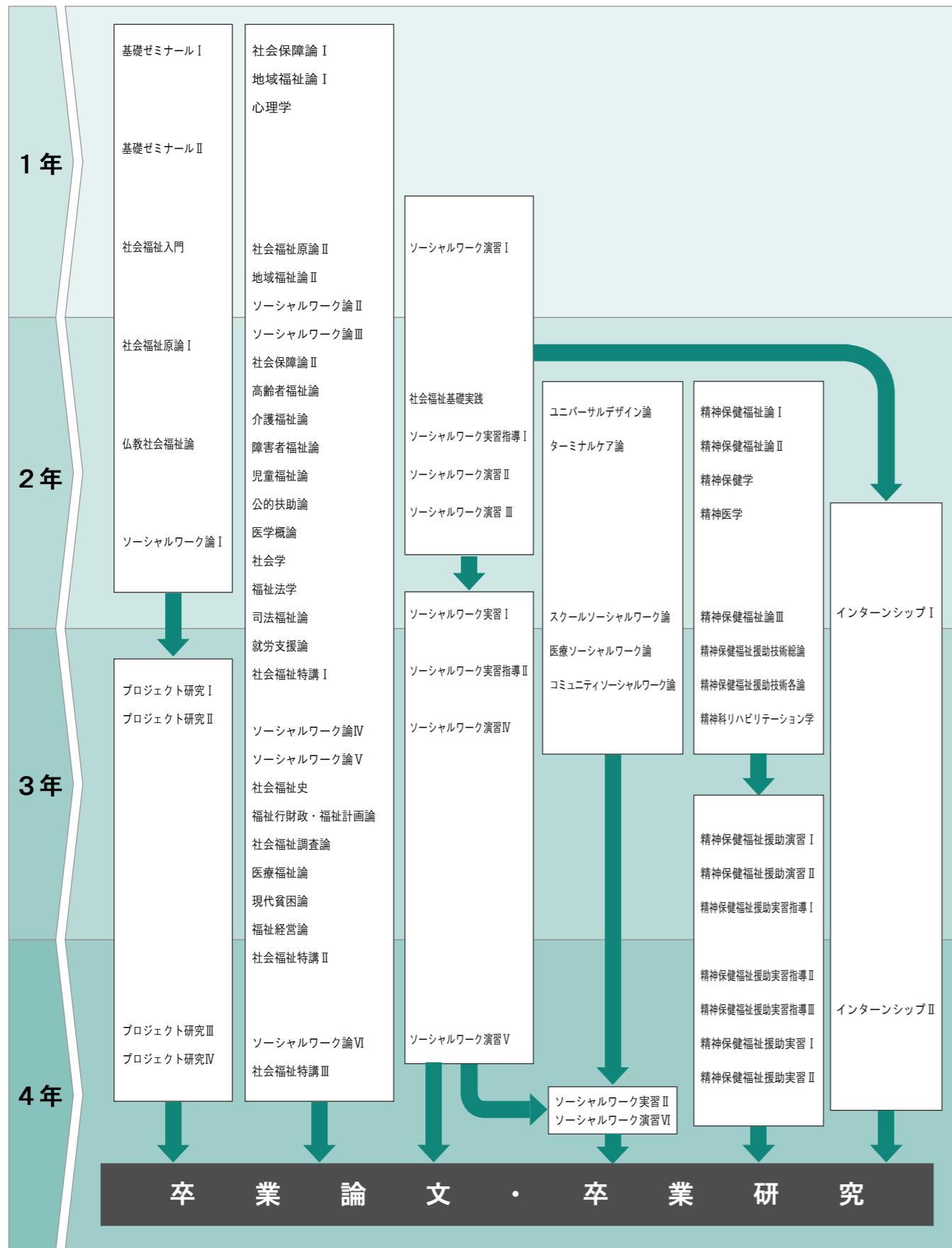
学科によって基礎科目および分野科目、方法研究科目などに分類されており、履修要件が異なるが、いずれも3年次の専門研究・専門ゼミナール、4年次の卒業論文・卒業研究に展開していくための科目群である。学科の教員の指導を受けながら効果的な科目選択が望まれる。

3. 専門ゼミナール、卒業論文・卒業研究

3~4年次になると、学科の学習内容の特色が明確になってくると同時に、授業の形態・方法も多様なものになってくる。ワークショップや学外における実習、さらにフィールドワーク等が行われる学科もある。
また、卒業論文・卒業研究は、大学で学んだ学問の集大成であることを自覚し、よりよい成果があげられるよう、1年生のうちから十分な基礎学習を積み上げることが大切である。

社会福祉学科専門科目(第Ⅱ類科目)の履修について

人間学部
社会福祉学科



基礎部門

專門部門

基礎部門

授業科目的名称	履修年次	単位	備考
基礎ゼミナールⅠ	1	2	
基礎ゼミナールⅡ	1	2	
社会福祉入門	1	2	
社会福祉原論Ⅰ	1	2	
仏教社会福祉論	1	2	
ソーシャルワーク論Ⅰ	1	2	
社会福祉基礎実践	2	2	
社会福祉史	3	2	
社会福祉原論Ⅱ	2	2	
社会保障論Ⅰ	1	2	
社会保障論Ⅱ	2	2	
公的扶助論	2	2	
現代貧困論	3	2	
ソーシャルワーク論Ⅱ	2	2	
ソーシャルワーク論Ⅲ	2	2	
ソーシャルワーク論Ⅳ	3	2	
ソーシャルワーク論Ⅴ	3	2	
ソーシャルワーク論Ⅵ	4	2	
社会福祉調査論	3	2	
福祉行財政・福祉計画論	3	2	
福祉経営論	3	2	
地域福祉論Ⅰ	1	2	
地域福祉論Ⅱ	2	2	
コミュニティソーシャルワーク論	3	2	
ユニバーサルデザイン論	2	2	
高齢者福祉論	2	2	
介護福祉論	2	2	
障害者福祉論	2	2	
児童福祉論	2	2	
スクールソーシャルワーク論	3	2	
就労支援論	2	2	
司法福祉論	2	2	
福祉法学	2	2	
心理学	1	2	
社会学	2	2	
精神保健福祉論Ⅰ	2	2	
精神保健福祉論Ⅱ	2	2	
精神保健福祉論Ⅲ	3	2	
精神保健福祉援助技術総論	3	2	
精神保健福祉援助技術各論	3	2	
精神科リハビリテーション学	3	4	
精神保健学	2	4	
精神医学	2	4	
医学概論	2	2	
医療福祉論	3	2	
医療ソーシャルワーク論	3	2	
ターミナルケア論	2	2	
社会福祉特講Ⅰ	2	2	
社会福祉特講Ⅱ	3	2	
社会福祉特講Ⅲ	4	2	

実習・演習部門

実習・演習部門

応用部門

卒業論文・卒業研究

授業科目的名称	履修年次	単位	備考
ソーシャルワーク演習Ⅰ	1	2	
ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	2	
ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	2	
ソーシャルワーク演習Ⅳ	3	2	
ソーシャルワーク演習Ⅴ	4	2	
ソーシャルワーク演習Ⅵ	4	2	
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	2	
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	4	
ソーシャルワーク実習Ⅰ	3	4	
ソーシャルワーク実習Ⅱ	4	2	
精神保健福祉援助演習Ⅰ	4	2	
精神保健福祉援助演習Ⅱ	4	2	
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	2	
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	2	
精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4	2	
精神保健福祉援助実習Ⅰ	4	2	
精神保健福祉援助実習Ⅱ	4	3	
プロジェクト研究Ⅰ	3	4	2
プロジェクト研究Ⅱ	3	4	2
プロジェクト研究Ⅲ	3	4	2
プロジェクト研究Ⅳ	3	4	2
インターンシップⅠ	2	3	4
インターンシップⅡ	3	4	2
卒業論文	4	8	8単位選択必修
卒業研究	4	8	

I～IIは先修制
III～IVは先修制社会福祉士
指定科目

法定科目	本学開講科目	単位数	備考
人体の構造と機能及び疾病	医学概論	2	
心理学理論と心理的支援	心理学	2	
社会理論と社会システム	社会学	2	うち1科目選択
現代社会と福祉	社会福祉原論Ⅰ	2	
	社会福祉原論Ⅱ	2	
社会調査の基礎	社会福祉調査論	2	
相談援助の基盤と専門職	ソーシャルワーク論Ⅰ	2	
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2	
相談援助の理論と方法	ソーシャルワーク論Ⅲ	2	
	ソーシャルワーク論Ⅳ	2	
	ソーシャルワーク論Ⅴ	2	
	ソーシャルワーク論Ⅵ	2	
地域福祉の理論と方法	地域福祉論Ⅰ	2	
	地域福祉論Ⅱ	2	
福祉行政財政と福祉計画	福祉行政財政・福祉計画論	2	
福祉サービスの組織と経営	福祉経営論	2	
社会保障	社会保障論Ⅰ	2	
高齢者に対する支援と介護保険制度	社会保障論Ⅱ	2	
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	高齢者福祉論	2	
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	介護福祉論	2	
低所得者に対する支援と生活保護制度	障害者福祉論	2	
保健医療サービス	児童福祉論	2	
就労支援サービス	公的扶助論	2	
権利擁護と成年後見制度	医療福祉論	2	
更生保護制度	就労支援論	2	
	福祉法学	2	
	司法福祉論	2	
ソーシャルワーク演習Ⅰ	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	うち1科目選択
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	
相談援助演習	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4	
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	4	必修
相談援助実習	ソーシャルワーク実習Ⅱ	4	

精神保健福祉士
指定科目

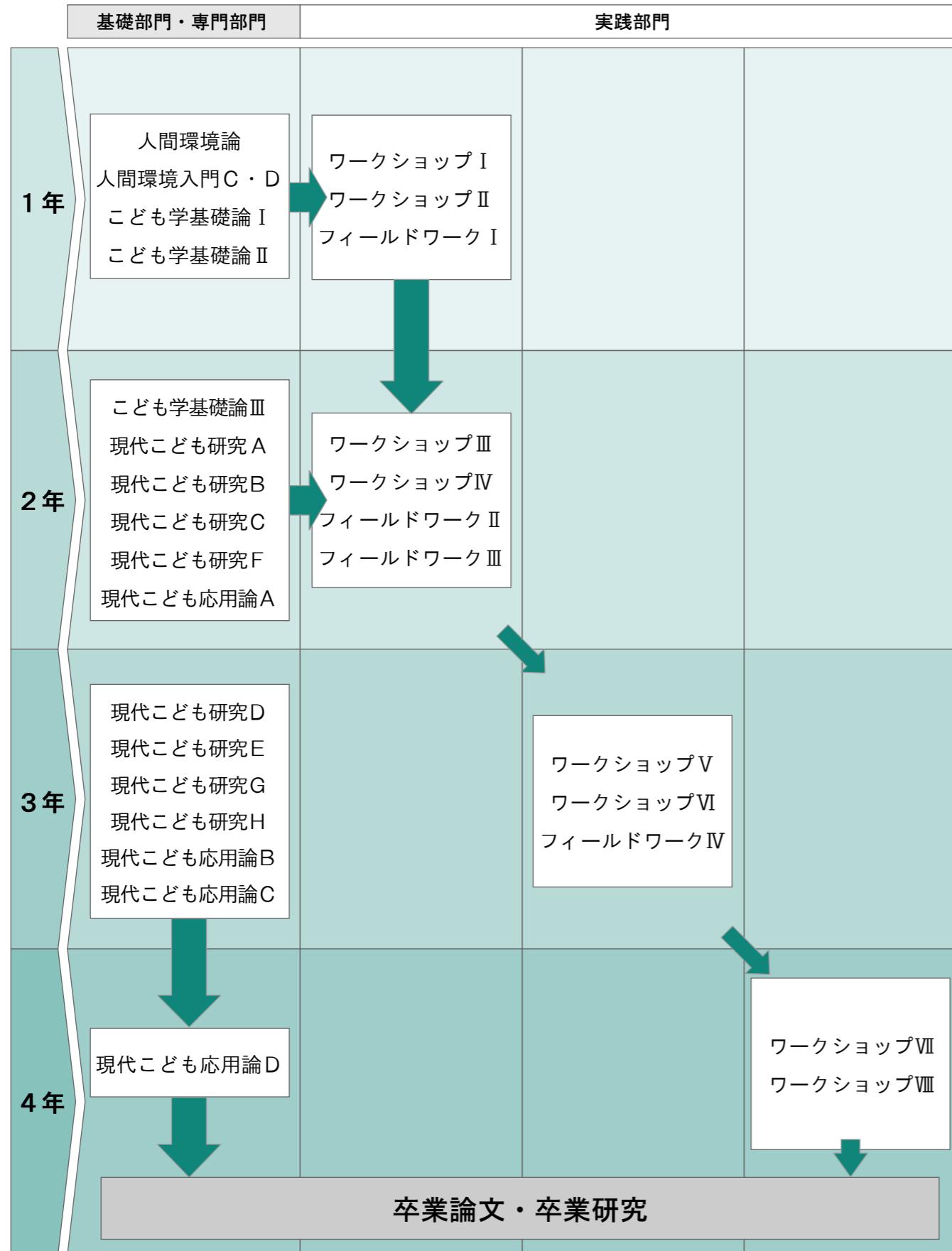
法定科目	本学開講科目	単位数	備考
人体の構造と機能及び疾病	医学概論	2	
心理学理論と心理的支援	心理学	2	
社会理論と社会システム	社会学	2	うち1科目選択
現代社会と福祉	社会福祉原論Ⅰ	2	
	社会福祉原論Ⅱ	2	
地域福祉の理論と方法	地域福祉論Ⅰ	2	
	地域福祉論Ⅱ	2	
福祉行政財政と福祉計画	福祉行政財政・福祉計画論	2	
社会保障	社会保障論Ⅰ	2	
低所得者に対する支援と生活保護制度	社会保障論Ⅱ	2	
保健医療サービス	公的扶助論	2	
権利擁護と成年後見制度	医療福祉論	2	
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	福祉法学	2	
精神疾患とその治療	障害者福祉論	2	
精神保健の課題と支援	精神医学	4	
精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	精神保健学	4	
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	ソーシャルワーク論Ⅰ	2	
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健福祉援助技術総論	2	
精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉援助技術各論	2	
精神障害者の生活支援システム	精神保健福祉論Ⅱ	2	必修
精神保健福祉援助演習(基礎)	精神保健福祉論Ⅲ	2	
精神保健福祉援助演習(専門)	精神保健福祉論Ⅳ	2	
精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉論Ⅴ	2	
精神保健福祉援助実習	精神保健福祉援助演習Ⅰ	2	
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	2	
	精神保健福祉援助演習Ⅲ	2	
	精神保健福祉援助演習Ⅳ	2	
	精神保健福祉援助演習Ⅴ	2	
	精神保健福祉援助演習Ⅵ	2	
	精神保健福祉援助演習Ⅶ	2	
	精神保健福祉援助演習Ⅷ	2	
	精神保健福祉援助演習Ⅸ	2	
	精神保健福祉援助演習Ⅹ	2	
	精神保健福祉援助実習Ⅰ	2	
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	2	
	精神保健福祉援助実習Ⅲ	2	
	精神保健福祉援助実習Ⅳ	2	
	精神保健福祉援助実習Ⅴ	2	

履修についての
注意事項

- 1) 演習・実習費を別途徴収する。
- 2) 詳細な内容はガイダンスで説明する。

人間学部
人間環境学科
こども文化・ビジネス
コース

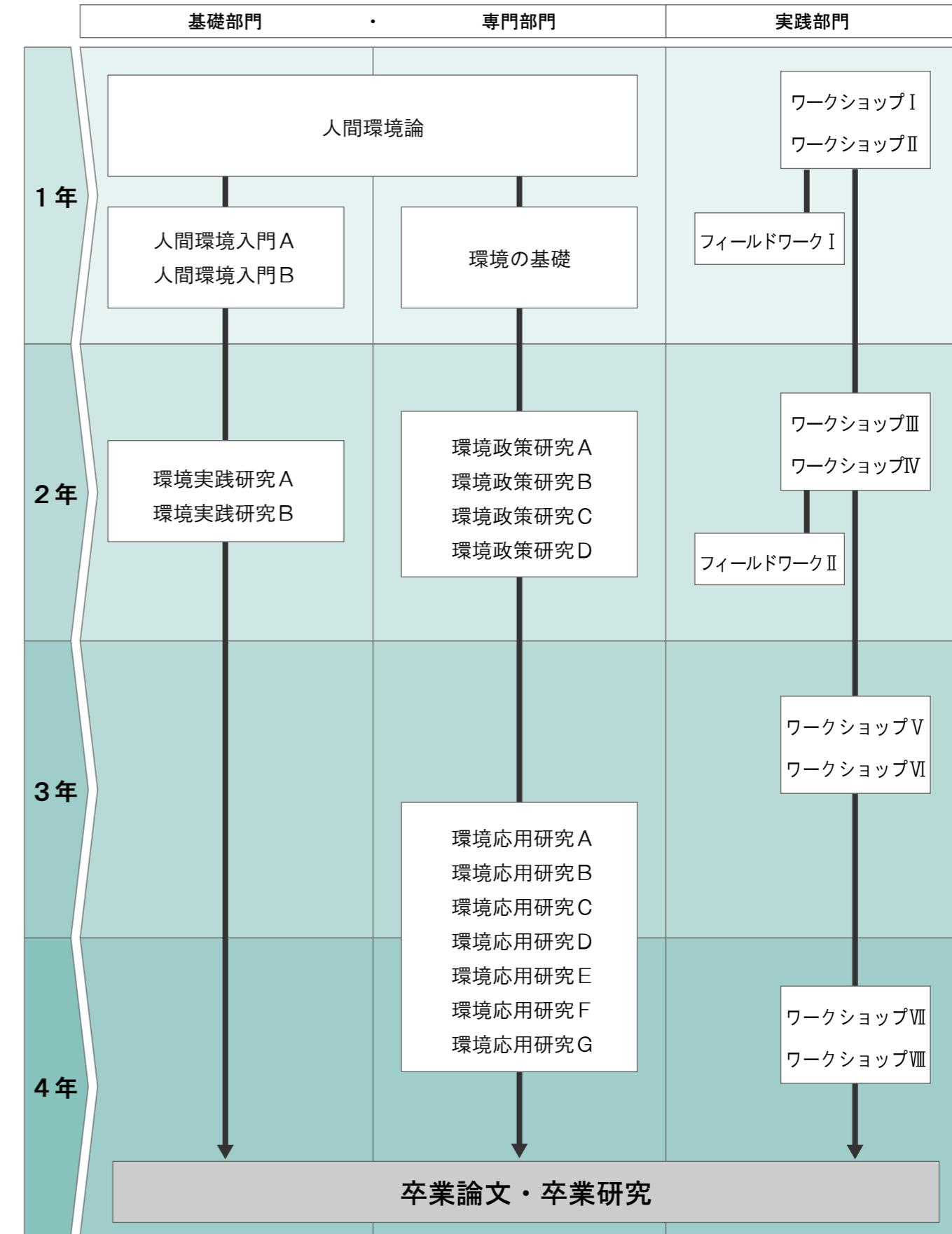
人間環境学科
専門科目(第Ⅱ類科目)の履修について



48

人間学部
人間環境学科
環境政策コース

人間環境学科
専門科目(第Ⅱ類科目)の履修について



49

	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
● 基礎部門	人間環境論	1	2	— 2単位必修
	人間環境入門A	1	2	□ 環境政策コース
	人間環境入門B	1	2	— 4単位必修
	人間環境入門C	1	2	□ こども文化・ビジネスコース
	人間環境入門D	1	2	— 4単位必修
● 専門部門	こども学基礎論Ⅰ	1	2	
	こども学基礎論Ⅱ	1	2	
	こども学基礎論Ⅲ	2	2	
	現代こども研究A	2	2	
	現代こども研究B	2	2	
	現代こども研究C	2	2	
	現代こども研究D	3	2	
	現代こども研究E	3	2	
	現代こども研究F	2	2	
	現代こども研究G	3	2	
	現代こども研究H	3	2	
	現代こども応用論A	2	2	
	現代こども応用論B	3	2	
	現代こども応用論C	3	2	
	現代こども応用論D	4	2	
専門部門	環境の基礎	1	2	
	環境政策研究A	2	2	
	環境政策研究B	2	2	
	環境政策研究C	2	2	
	環境政策研究D	2	2	
環境政策	環境応用研究A	3 4	2	こども文化・ビジネスコースの学生が履修する場合は、コース教務主任に相談し指示を受けること
	環境応用研究B	3 4	2	
	環境応用研究C	3 4	2	
	環境応用研究D	3 4	2	
	環境応用研究E	3 4	2	
	環境応用研究F	3 4	2	
	環境応用研究G	3 4	2	
	環境実践研究A	2	2	
	環境実践研究B	2	2	
	環境の探究A(森里海連環学Ⅰ)	2	2	
	環境の探究B(森里海連環学Ⅱ)	2	1	

	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
● 実践部門	ワークショップⅠ(こども)	1	4	
	ワークショップⅡ(こども)	1	4	
	ワークショップⅢ(こども)	2	4	
	ワークショップⅣ(こども)	2	4	
	ワークショップⅤ(こども)	3	4	
	ワークショップⅥ(こども)	3	4	
	ワークショップⅦ(こども)	4	6	
	ワークショップⅧ(こども)	4	6	
実践部門	フィールドワークⅠ(人間環境)	1	2	
	フィールドワークⅡ(こども)	2	2	
	フィールドワークⅢ(こども)	2	2	
	フィールドワークⅣ(こども)	3	2	
環境政策	ワークショップⅠ(環境)	1	4	
	ワークショップⅡ(環境)	1	6	
	ワークショップⅢ(環境)	2	6	
	ワークショップⅣ(環境)	2	6	
	ワークショップⅤ(環境)	3	6	
	ワークショップⅥ(環境)	3	6	
	ワークショップⅦ(環境)	4	2	
	ワークショップⅧ(環境)	4	2	
卒業論文・卒業研究	フィールドワークⅠ(人間環境)	1	2	
	フィールドワークⅡ(環境)	2	2	
	卒業論文	4	8	
	卒業研究	4	8	□ 8単位選択必修

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

[1] 別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。

[2] 第Ⅱ類科目+第Ⅲ類科目=88単位以上。

第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目(任意)との合計が88単位以上となるように修得すること。

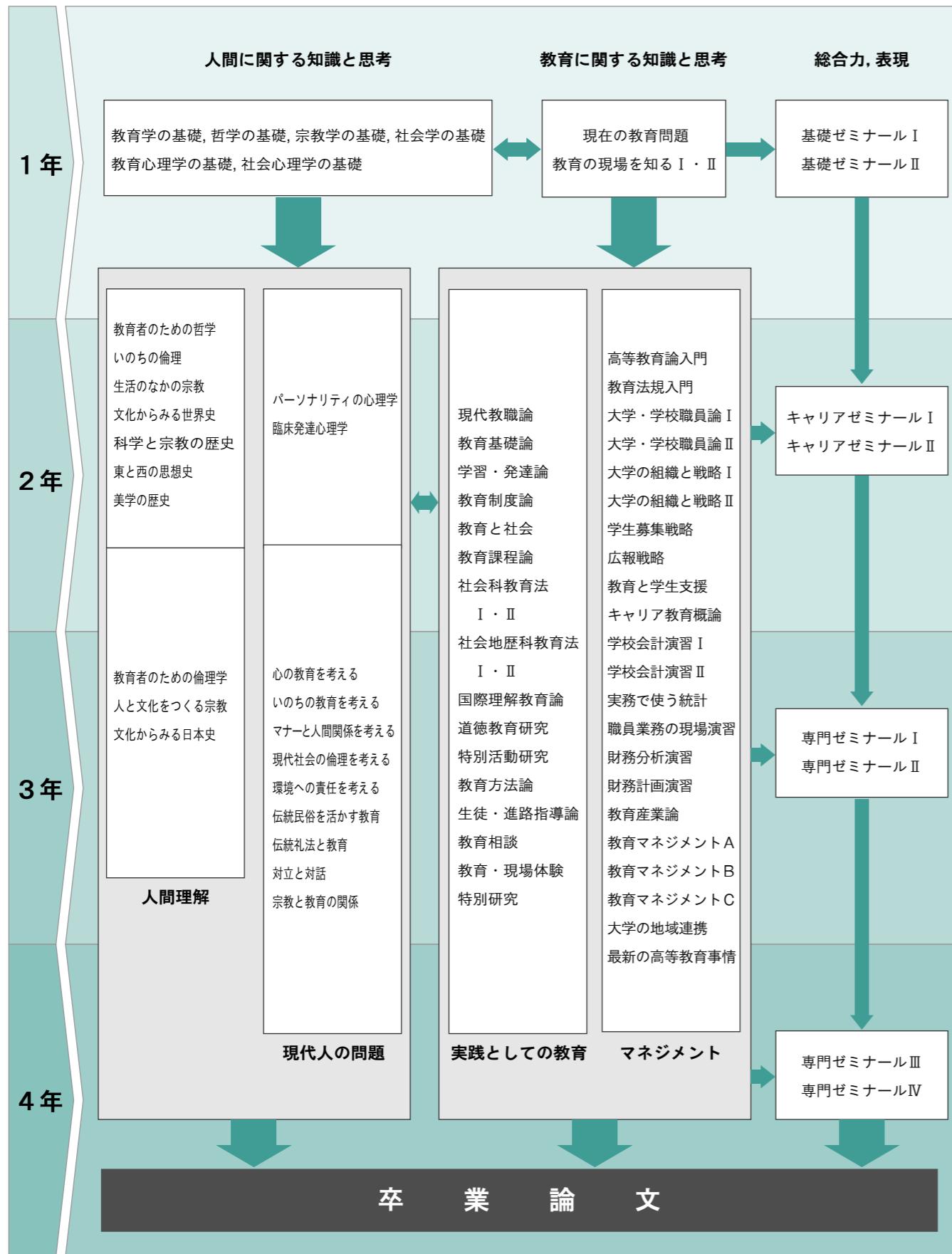
[3] 第Ⅲ類科目=30単位まで

第Ⅲ類科目を卒業単位として認定できる単位数は、30単位までとする。

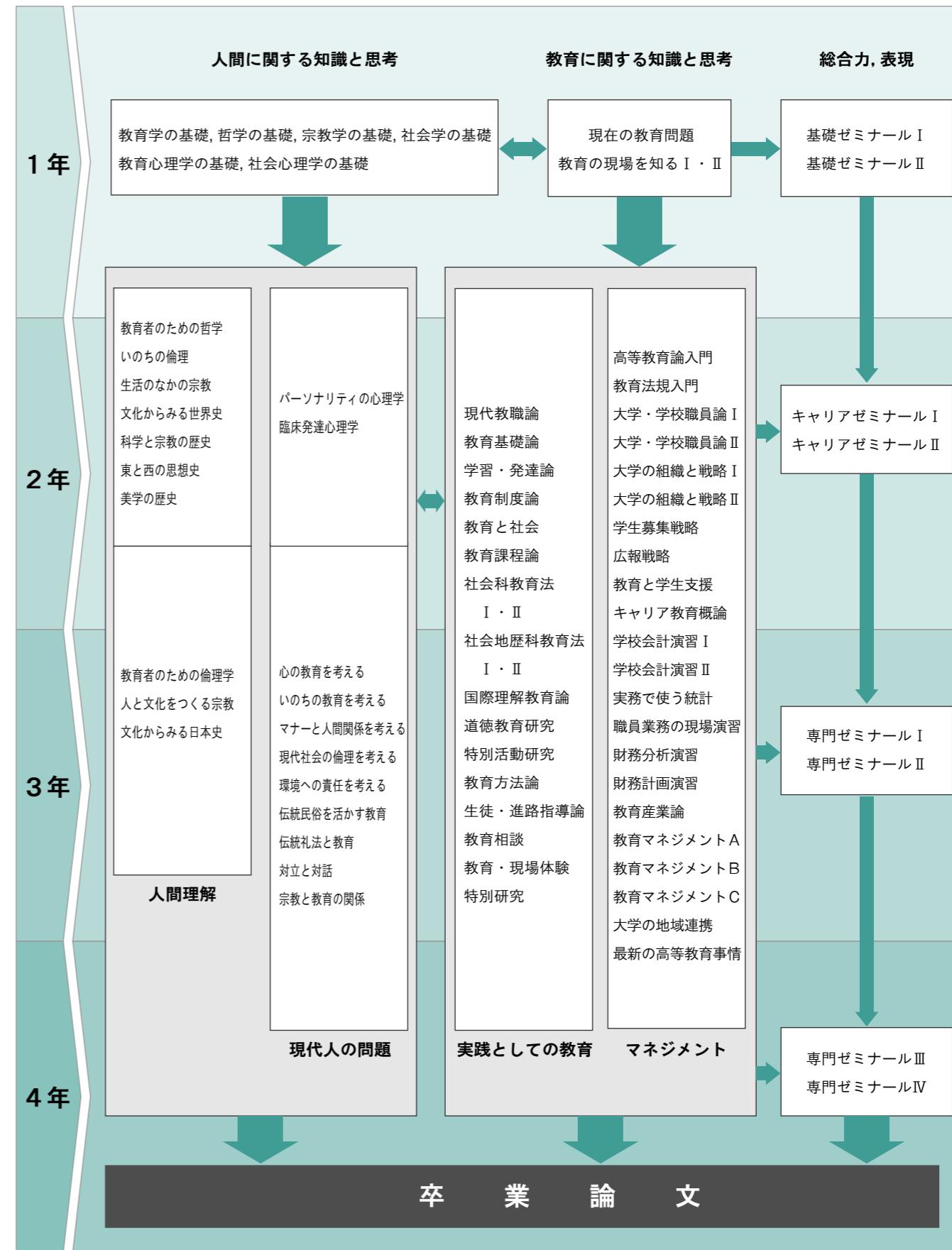
■ 第Ⅱ類科目以外に履修しなければならない科目もあるので、別途学科コースの指導にしたがうこと。

人間学部
教育人間学科
教職コース

■ 教育人間学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について

人間学部
教育人間学科
教育・学校経営
マネジメント
コース

■ 教育人間学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について



● 導入部門

授業科目的名称	履修年次	単位	備考
基礎ゼミナールⅠ	1	2	4科目8単位必修 — 1科目4単位必修 □ IIを履修するには Iを履修済みとする
基礎ゼミナールⅡ	1	2	
教育キャリアゼミナールⅠ	2	2	
教育キャリアゼミナールⅡ	2	2	
社会学の基礎	1	4	
教育心理学の基礎	1	2	
社会心理学の基礎	1	2	
哲学の基礎	1	2	
宗教学の基礎	1	2	
教育学の基礎	1	4	
現在の教育問題	1	2	
教育の現場を知るⅠ	1	1	
教育の現場を知るⅡ	1	1	
教育者ための哲学	1 2	2	
教育者ための倫理学	2 3	2	
いのちの倫理	1 2	2	
人と文化をつくる宗教	2 3	2	
生活のなかの宗教	1 2	2	
文化からみる日本史	2 3	2	
文化からみる世界史	1 2	2	
科学と宗教の歴史	1 2	2	
東と西の思想史	1 2	2	
美学の歴史	1 2	2	
パーソナリティの心理学	1 2	2	
臨床発達心理学	1 2	2	
こころの教育を考える	2 3	2	
いのちの教育を考える	2 3	2	
マナーと人間関係を考える	2 3	2	
現代社会の倫理を考える	2 3	2	
環境への責任を考える	2 3	2	
伝統民俗を活かす教育	2 3	2	
伝統礼法と教育	2 3	2	
対立と対話	2 3	2	
宗教と教育の関係	2 3	2	
現代教職論	1 2	2	
教育基礎論	2 3	2	
学習・発達論	2 3	2	
教育制度論	2 3	2	
教育と社会	2 3	2	
教育課程論	2 3	2	
社会科教育法Ⅰ	2 3	2	
社会科教育法Ⅱ	2 3	2	
社会・地歴科教育法Ⅰ	2 3	2	
社会・地歴科教育法Ⅱ	2 3	2	
社会・公民科教育法Ⅰ	2 3	2	
社会・公民科教育法Ⅱ	2 3	2	
国際理解教育論	2 3	2	
道徳教育の指導法	2 3	2	
特別活動の指導法	2 3	2	
教育方法論	2 3	2	
生徒・進路指導論	2 3	2	
教育相談	2 3	2	
教育・現場体験	2 3	1	

次頁に続く

授業科目的名称	履修年次	単位	備考
高等教育論入門	1	2	
教育法規入門	1	2	
大学・学校職員論Ⅰ	1	2	
大学・学校職員論Ⅱ	1	2	
大学の組織と戦略Ⅰ	2 3	2	
大学の組織と戦略Ⅱ	2 3	2	
学生募集戦略	2 3	2	
広報戦略	2 3	2	
教育と学生支援	2 3	2	
キャリア教育概論	2 3	2	
学校会計演習Ⅰ	2 3	2	
学校会計演習Ⅱ	2 3	2	
実務で使う統計	2 3	2	
職員業務の現場演習	3 4	2	
財務分析演習	3 4	2	
財務計画演習	3 4	2	
教育産業論	3 4	2	
教育マネジメントA	3 4	2	
教育マネジメントB	3 4	2	
教育マネジメントC	3 4	2	
大学の地域連携	4	2	
最新の高等教育事情	4	2	
教育人間学専門ゼミナールⅠ	3	2	8単位必修
教育人間学専門ゼミナールⅡ	3	2	
教育人間学専門ゼミナールⅢ	4	2	
教育人間学専門ゼミナールⅣ	4	2	
教育人間学特別研究Ⅰ	3 4	2	
教育人間学特別研究Ⅱ	3 4	2	
卒業論文	4	8	8単位選択必修
卒業研究	4	8	

※ 印の単位数は「必修」ではなく、「履修することが強く望まれる単位数」を示す。

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

[1] 別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。

[2] 第Ⅱ類科目+第Ⅲ類科目=88単位以上。

第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目（任意）との合計が88単位以上となるように修得すること。

[3] 第Ⅲ類科目=30単位まで

第Ⅲ類科目を卒業単位として認定できる単位数は、30単位までとする。

■ 先修制科目……以下の科目は順次履修すること。

教育の現場を知るⅠ—教育の現場を知るⅡ

学校会計演習Ⅰ・Ⅱ—財務分析演習・財務計画演習

教職科目	授業科目的名称	履修年次	単位	備考	各学科の専門教育科目
● 教職関連部門	日本史概説A	2 3 4	2	教職資格登録者のみ履修可。	第Ⅱ類科目は、各自が所属する学科の専門教育科目である。履修すべき総単位(124単位)のうち、各学科平均70単位を要する、大学教育の根幹をなす科目群である。 その構成は学科によって異なるが、おおよそ以下のとおりである。
	日本史概説B	2 3 4	2		
	西洋史概説	2 3 4	4		
	東洋史概説	2 3 4	4		
	人文地理学A	2 3 4	2		
	人文地理学B	2 3 4	2		
	自然地理学A	2 3 4	2		
	自然地理学B	2 3 4	2		
	地誌学	2 3 4	2		
	法律学概論(国際法を含む。)	2 3 4	2		
	政治学概論(国際政治を含む。)	2 3 4	2		
	経済学概論(国際経済を含む。)	2 3 4	2		
	現代宗教論	2 3 4	2		
	宗教史Ⅰ	2 3 4	2		
	宗教史Ⅱ	2 3 4	2		

- 教職関連部門は、教職の資格登録を行っている者のみ履修することができる。
また、履修制限単位の対象外とする。
- 修得単位は、第Ⅲ類として認定する。
- 教職の履修については、教職ガイダンス・資格要項にて確認すること。

1. 基礎ゼミナール

1年生を対象とした学科ごとのゼミナール。比較的少人数のクラス編成で、所属学科の学習内容のオリエンテーションをはじめ、専門課程の学習方法について学ぶ。また担当教員は、クラスの学生の学習全般、生活も気にかけている。気軽に相談してほしい。

第Ⅱ類科目

心理社会学部

57

人間科学科

臨床心理学科

2. 学科の基礎・分野・方法研究

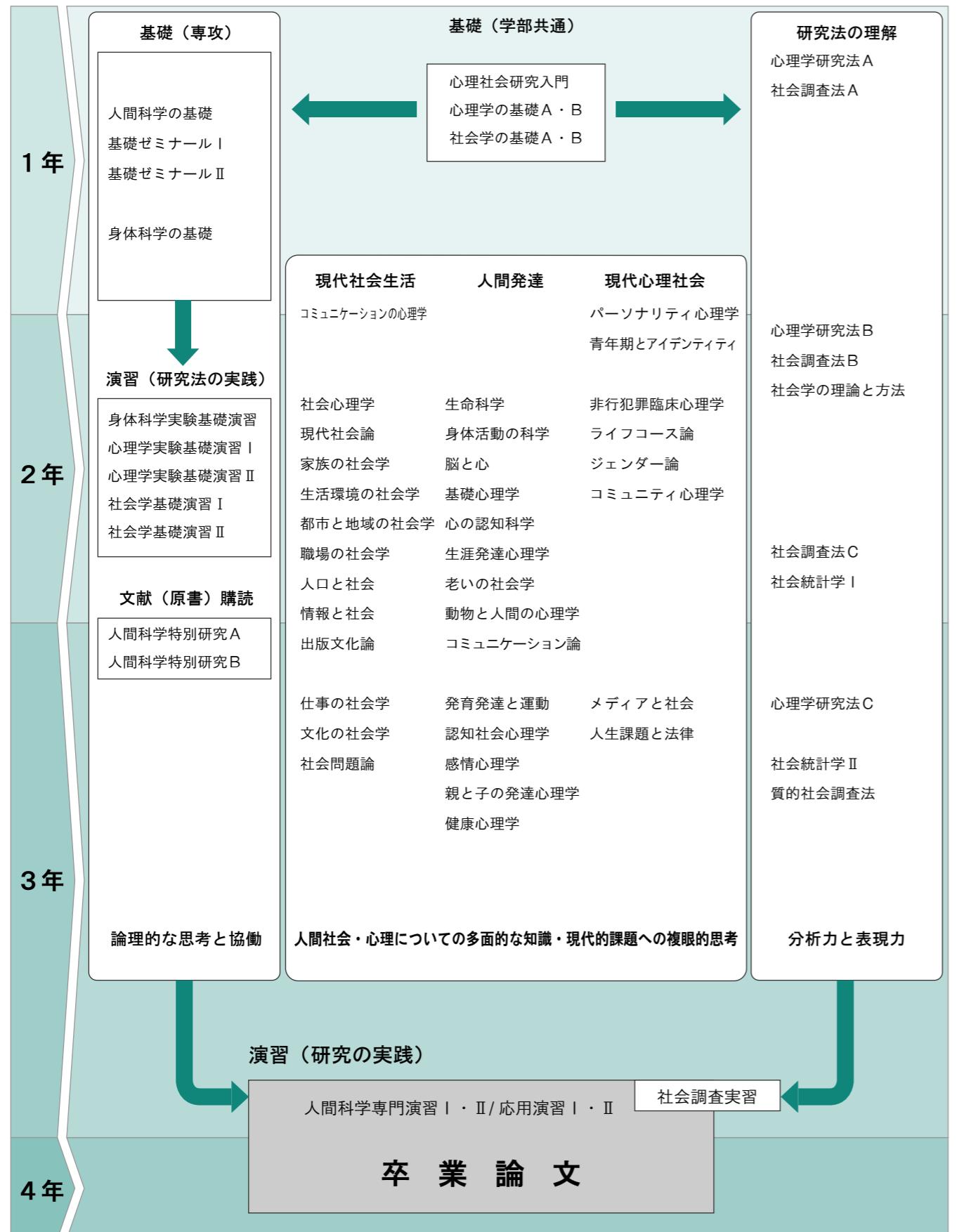
学科によって基礎科目および分野科目、方法研究科目などに分類されており、履修要件が異なるが、いずれも3年次の専門研究・専門ゼミナール、4年次の卒業論文・卒業研究に展開していくための科目群である。学科の教員の指導を受けながら効果的な科目選択が望まれる。

3. 専門ゼミナール、卒業論文・卒業研究

3~4年次になると、学科の学習内容の特色が明確になってくると同時に、授業の形態・方法も多様なものになってくる。ワークショップや学外における実習、さらにフィールドワーク等が行われる学科もある。
また、卒業論文・卒業研究は、大学で学んだ学問の集大成であることを自覚し、よりよい成果があげられるよう、1年生のうちから十分な基礎学習を積み上げることが大切である。

57

人間科学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について

心理社会学部
人間科学科

学部共通部門

授業科目の名称	履修年次	単位	備考
心理社会研究入門	1	2	1科目2単位必修 3科目6単位以上選択必修 ※ ※
心理学の基礎A	1	2	
心理学の基礎B	1	2	
社会学の基礎A	1	2	
社会学の基礎B	1	2	
心理学研究法A	1	2	
社会調査法A	1	2	
パーソナリティ心理学	1	2	
青年期とアイデンティティ	1	2	
非行犯罪臨床心理学	2	2	
ライフコース論	2	2	
ジェンダー論	2	2	
コミュニティ心理学	2	2	
メディアと社会	3	2	
人生課題と法律	3	2	
人間科学の基礎	1	2	3科目6単位必修 ※
基礎ゼミナールⅠ	1	2	
基礎ゼミナールⅡ	1	2	
身体科学の基礎	1	2	
心理学研究法B	2	2	1科目2単位以上選択必修 3科目6単位必修 ※
社会学の理論と方法	2	2	
社会調査法B	2	2	
心理学研究法C	3	2	
社会統計学Ⅰ	2	2	
社会調査法C	2	2	
社会統計学Ⅱ	2	2	
社会統計学Ⅲ	3	2	
質的社会調査法	3	2	
社会調査実習	3	4	
生命科学	2	2	A群とB群から各10単位 A群とB群から合計32単位以上選択必修
身体活動の科学	2	2	
発育発達と運動	3	2	
脳と心	2	2	
基礎心理学	2	2	
心の認知科学	2	2	
認知社会心理学	3	2	
感情心理学	3	2	
生涯発達心理学	2	2	
親と子の発達心理学	3	2	
健康心理学	2	2	
動物と人間の心理学	2	2	

● 専門部門

専門部門

現代社会生活科目(B群)

特別研究

演習科目

授業科目の名称	履修年次	単位	備考
社会心理学	2	2	
コミュニケーション論	2	2	
コミュニケーションの心理学	1	2	
現代社会論	2	2	
家族の社会学	2	2	
生活環境の社会学	2	2	
都市と地域の社会学	2	2	
職場の社会学	2	2	
仕事の社会学	3	2	
文化の社会学	3	2	
人口と社会	2	2	
情報と社会	2	2	
出版文化論	2	2	
社会問題論	3	2	
人間科学特別研究A	2	2	
人間科学特別研究B	2	2	
人間科学専門演習Ⅰ	3	2	2科目4単位必修
人間科学専門演習Ⅱ	3	2	
人間科学応用演習Ⅰ	3	2	
人間科学応用演習Ⅱ	3	2	
卒業論文	4	8	8単位必修

60

● 卒業論文

※印の単位数は「必修」ではないが、「履修指導(履修することが強く望まれる単位数)」を示す。

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

[1] 別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。

[2] 第Ⅱ類科目+第Ⅲ類科目=88単位以上。

第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目(任意)との合計が88単位以上となるように修得すること。

[3] 第Ⅲ類科目=30単位まで

第Ⅲ類科目を卒業単位として認定できる単位数は、30単位までとする。

■ 先修科目 以下の科目は順次履修すること。

心理学研究法A→心理学実験基礎演習Ⅰ

心理学実験基礎演習Ⅰ→心理学実験基礎演習Ⅱ

心理学実験基礎演習Ⅱ→心理学研究法C

社会調査法A→社会調査法B

社会調査法C→質的社会調査法

社会調査法Cおよび社会統計学Ⅰ→社会統計学Ⅱ

社会調査実習の履修希望者は、社会調査法Aおよび社会調査法Bの2科目4単位、

社会調査法Cまたは社会統計学Ⅰの2科目のうち1科目2単位以上を修得済みとする。

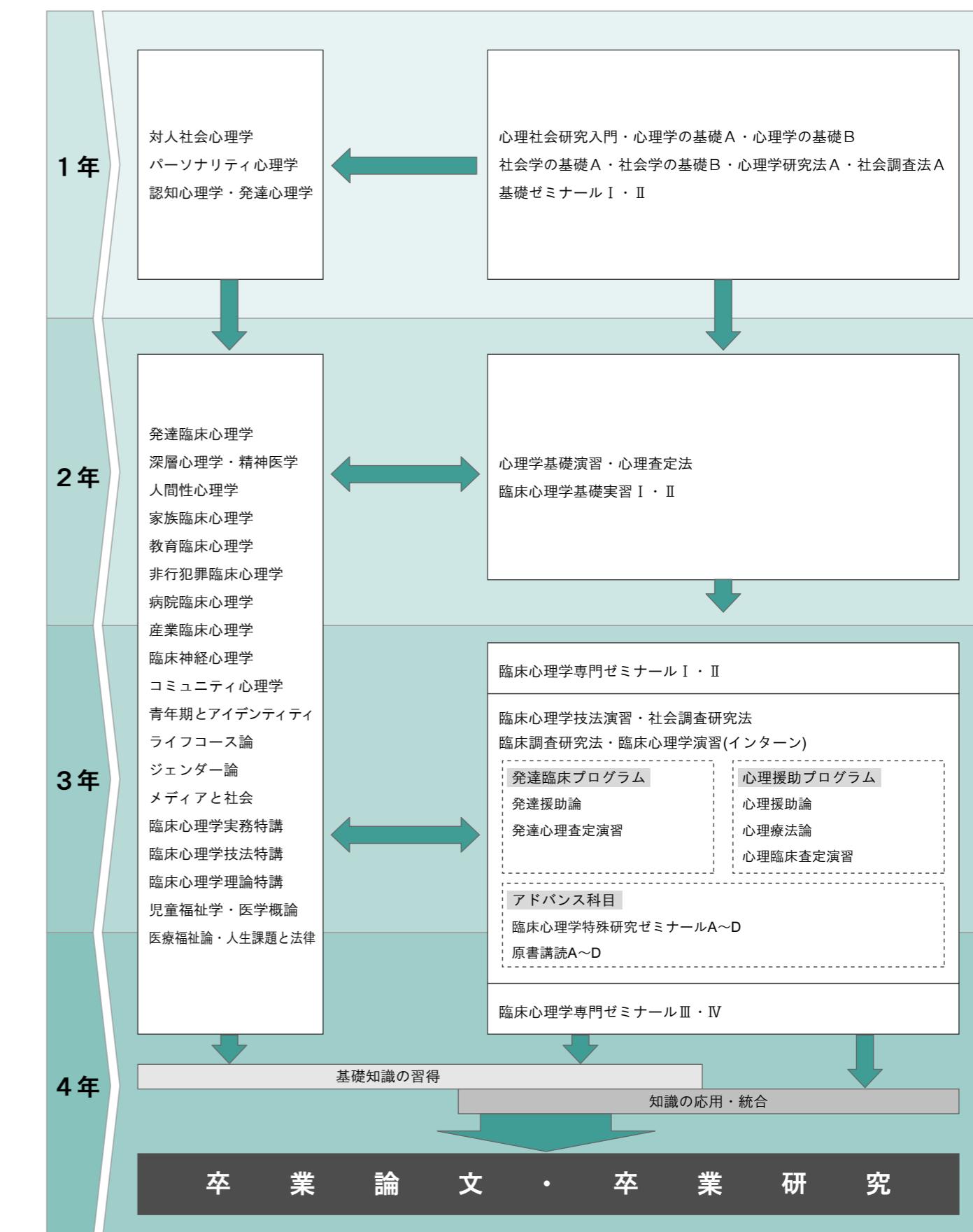
■ 心理学の基礎A、心理学の基礎B、社会学の基礎A、社会学の基礎Bを7単位以上修得した場合、その余剰単位は専門部門の単位として認定する。

■ 現代心理社会科目を5単位以上修得した場合、その余剰単位は専門部門における「A群とB群から合計32単位以上選択必修」という要件の単位として認定する。

■ 人間科学専門演習と人間科学応用演習は同じ教員が行うⅠおよびⅡを履修し、Ⅰ、Ⅱの順に受講することを原則とする。

心理社会学部
臨床心理学科

卒業論文・卒業研究



授業科目の名称		履修年次	単位	備 考
● 学部共通部門	基礎科目	心理社会研究入門	1	2
	基礎科目	社会学の基礎A	1	2
	基礎科目	社会学の基礎B	1	2
	基礎科目	心理学の基礎A	1	2
	基礎科目	心理学の基礎B	1	2
	基礎科目	社会調査法A	1	2
	基礎科目	心理学研究法A	1	2
	現代心理社会科目	パーソナリティ心理学	1 2 3 4	2
	現代心理社会科目	青年期とアイデンティティ	2 3	2
	現代心理社会科目	非行犯罪臨床心理学	2 3 4	2
	現代心理社会科目	ライフコース論	2 3	2
	現代心理社会科目	ジェンダー論	2 3	2
	現代心理社会科目	コミュニティ心理学	2 3 4	2
	現代心理社会科目	メディアと社会	3 4	2
● 基礎部門	基礎科目	人生課題と法律	3 4	2
	基礎科目	基礎ゼミナールⅠ	1	2
	基礎科目	基礎ゼミナールⅡ	1	2
● 方法・研究部門	基礎科目	心理査定法	2	2
	方法・研究科目	対人社会心理学	1 2 3 4	2
	方法・研究科目	認知心理学	1 2 3 4	2
	方法・研究科目	発達心理学	1 2 3 4	2
	方法・研究科目	発達臨床心理学	2 3 4	4
	方法・研究科目	深層心理学	2 3 4	4
	方法・研究科目	精神医学	2 3 4	4
	方法・研究科目	人間性心理学	2 3 4	4
	方法・研究科目	家族臨床心理学	2 3 4	2
	方法・研究科目	教育臨床心理学	2 3 4	2
	方法・研究科目	病院臨床心理学	2 3 4	2
	方法・研究科目	産業臨床心理学	2 3 4	2
	方法・研究科目	臨床神経心理学	2 3 4	2
	方法・研究科目	臨床心理学実務特講	2 3 4	2
	方法・研究科目	臨床心理学技法特講	2 3 4	2
	方法・研究科目	臨床心理学理論特講	2 3 4	2
	方法・研究科目	児童福祉学	2 3 4	2
	方法・研究科目	医学概論	2 3 4	2
	方法・研究科目	医療福祉論	3 4	2
	方法・研究科目	心理療法論	3 4	4
	方法・研究科目	心理援助論	3 4	2
	方法・研究科目	発達援助論	3 4	2
● 演習・実習部門	実習科目	心理学基礎演習	2	4
	実習科目	臨床心理学基礎実習Ⅰ	2	1
	実習科目	臨床心理学基礎実習Ⅱ	2	1
● 専門ゼミナール部門	専門ゼミナール	臨床心理学専門ゼミナールⅠ	3	2
	専門ゼミナール	臨床心理学専門ゼミナールⅡ	3	2
	専門ゼミナール	臨床心理学専門ゼミナールⅢ	4	2
	専門ゼミナール	臨床心理学専門ゼミナールⅣ	4	2

授業科目の名称		履修年次	単位	備 考
● 応用部門	応用部門	発達心理査定演習	3 4	4
	応用部門	心理臨床査定演習	3 4	4
	応用部門	臨床心理学技法演習	3 4	4
	応用部門	社会調査研究法	3 4	2
	応用部門	臨床調査研究法	3 4	2
	応用部門	臨床心理学演習(インターン)	3 4	4
	応用部門	臨床心理学特殊研究ゼミナールA	3 4	2
	応用部門	臨床心理学特殊研究ゼミナールB	3 4	2
	応用部門	臨床心理学特殊研究ゼミナールC	3 4	2
	応用部門	臨床心理学特殊研究ゼミナールD	3 4	2
	応用部門	原書講読A	3 4	1
	応用部門	原書講読B	3 4	1
	応用部門	原書講読C	3 4	1
	応用部門	原書講読D	3 4	1
● 卒業論文・卒業研究	卒業論文		4	8
	卒業研究		4	8

※ 印の単位数は「必修」ではなく、「履修することが強く望まれる単位数」を示す。

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがい修得すること。

[1] 上記別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。

[2] 第Ⅱ類科目+第Ⅲ類科目=88単位以上。

第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目(任意)との合計が88単位以上となるように修得すること。

[3] 第Ⅲ類科目=30単位まで

第Ⅲ類科目を卒業単位として認定できる単位数は、30単位までとする。

■ 先修制科目……以下の科目は順次履修すること。

心理学研究法A→心理学基礎演習→心理査定法→心理臨床査定演習、発達心理査定演習
臨床心理学基礎実習ⅠおよびⅡ→臨床心理学演習(インターン)

第Ⅱ類科目

文学部

人文学科

日本文学科

歴史学科

第Ⅱ類科目は、各自が所属する学科の専門教育科目である。履修すべき総単位(124単位)のうち、各学科平均70単位を要することになっており、大学教育の根幹をなす科目群である。その構成は学科によって異なるが、おおよそ以下のとおりである。

1. 基礎ゼミナー

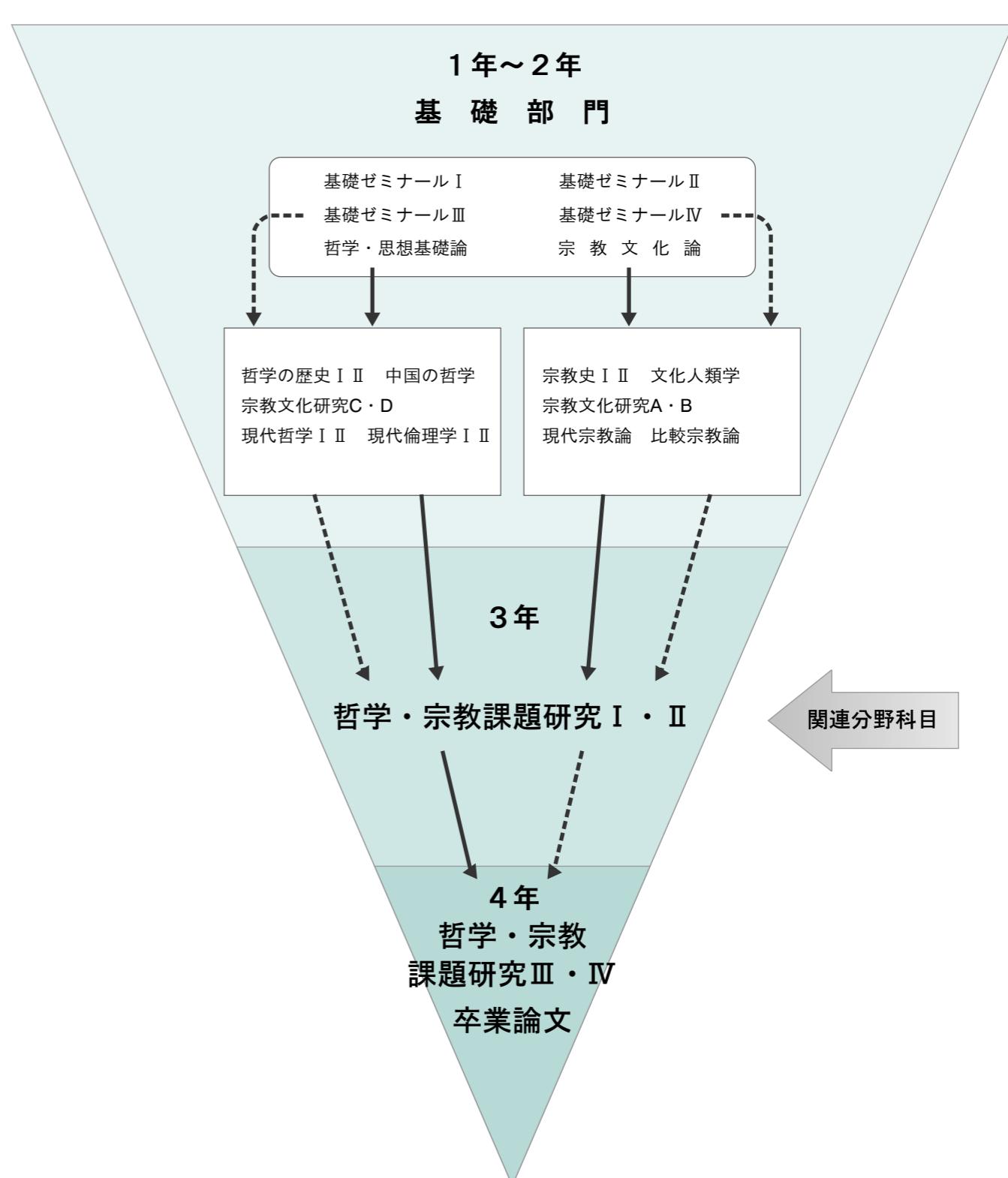
1年生と2年生を対象とした入門科目。比較的少人数のクラス編成で、所属コースの、専門科目学習の基礎について学ぶ。学生は、担当教員に勉強のほか生活についての悩みなども気軽に相談できるようになって、有意義な出会いの場となる。

2. 学科の基礎部門・分野部門

学科によって基礎科目および分野科目、専門研究科目などに分類されている科目。いずれも1～2年生で履修し、3年次の課題研究、専門演習、4年次の卒業論文・卒業研究に展開していくための科目群である。学科の教員の指導を受けながら効果的な科目選択が望まれる。

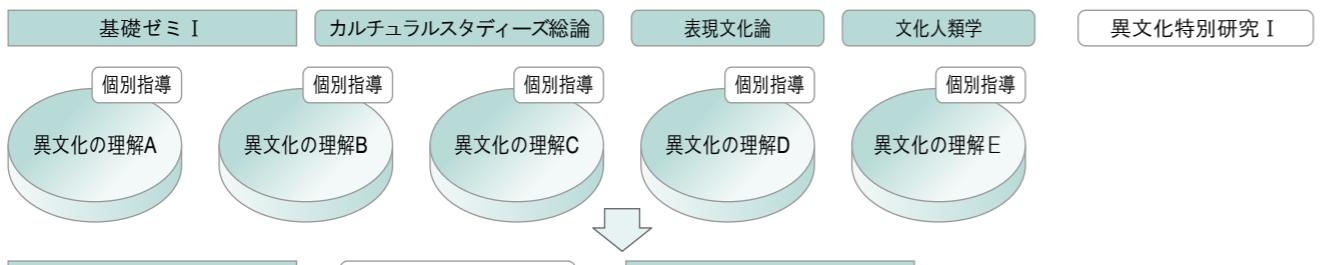
3. 課題研究、専門演習、卒業論文

3～4年次になると、学科の学習内容の特色が明確になってくる。授業の形態・方法も異なり、学科によっては、学外における実習、さらにフィールドワーク等も行われる。また、卒業論文は、大学において研究した学問の集大成である。学生は、このことを自覚し、よりよい成果があげられるよう、あらかじめ十分な基礎学習を積み上げておくことが大切である。

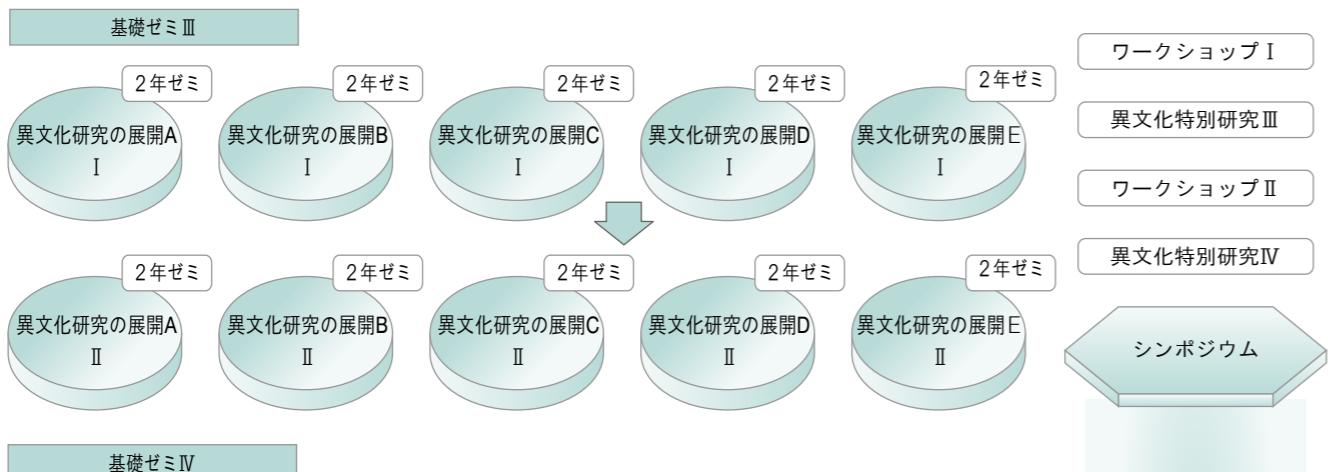


人文学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について

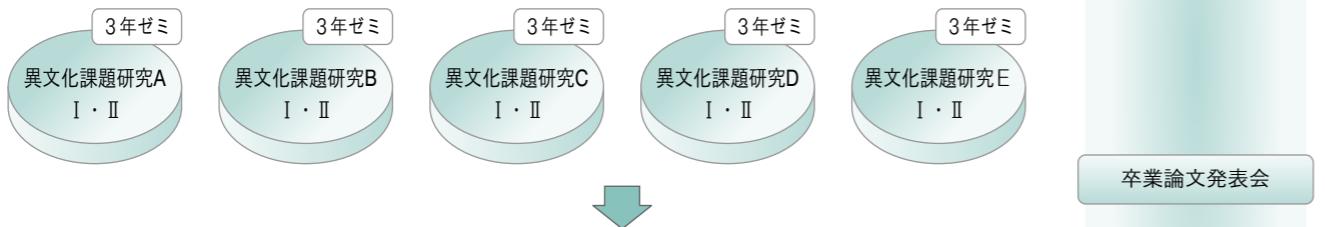
1年 大学生の円滑なスタートと基礎力の養成



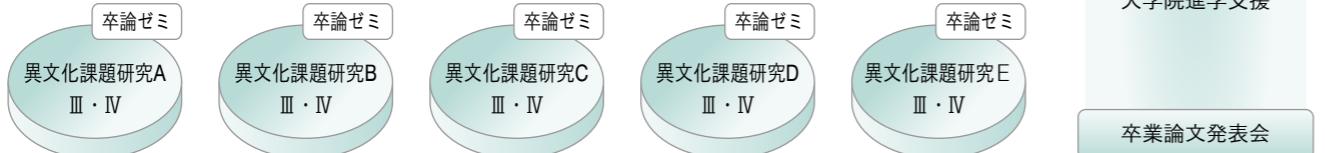
2年 専門的研究への導入と企画力・運営力の涵養



3年 研究テーマの決定。進路につながる実践



4年 研究テーマの完成。卒論執筆。進路決定



● 基礎部門

基礎部門

● 分野別門

哲学・宗教文化

授業科目の名称	履修年次	単位	備考
基礎ゼミナーⅠ	1	2	4科目8単位必修
基礎ゼミナーⅡ	1	2	
基礎ゼミナーⅢ	2	2	
基礎ゼミナーⅣ	2	2	
日本文化総論	1	2	3科目6単位履修すること
日本文学基礎論	1	2	
日本語基礎論	1	2	
哲学・思想基礎論	1	2	
宗教文化論	1	2	
カルチャルスタディーズ総論	1	2	
文化人類学	1 2	2	
表現文化論	1	2	
哲学の歴史Ⅰ	1 2	2	
哲学の歴史Ⅱ	1 2	2	
中国の哲学	1 2	2	
現代哲学Ⅰ	2 3	2	
現代哲学Ⅱ	2 3	2	
現代倫理学Ⅰ	1 2	2	
現代倫理学Ⅱ	1 2	2	
宗教史Ⅰ	1 2	2	
宗教史Ⅱ	1 2	2	
宗教文化研究A	2 3	2	
宗教文化研究B	2 3	2	
宗教文化研究C	2 3	2	
宗教文化研究D	2 3	2	
現代宗教論	2 3	2	
比較宗教論	2 3	2	
哲学・宗教課題研究Ⅰ	3	2	
哲学・宗教課題研究Ⅱ	3	2	
哲学・宗教課題研究Ⅲ	4	2	
哲学・宗教課題研究Ⅳ	4	2	

4科目8単位必修

3科目6単位履修すること

次頁に続く

	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
● 分野別部門	異文化の理解A	1	2	
	異文化の理解B	1	2	
	異文化の理解C	1	2	
	異文化の理解D	1	2	
	異文化の理解E	1	2	
カルチャルスタディーズ	異文化研究の展開 I -A	2 3	2	
	異文化研究の展開 I -B	2 3	2	
	異文化研究の展開 I -C	2 3	2	
	異文化研究の展開 I -D	2 3	2	
	異文化研究の展開 I -E	2 3	2	
	異文化研究の展開 II -A	2 3	2	
	異文化研究の展開 II -B	2 3	2	
	異文化研究の展開 II -C	2 3	2	
	異文化研究の展開 II -D	2 3	2	
	異文化研究の展開 II -E	2 3	2	
	異文化特別研究 I	1 2	2	
	異文化特別研究 II	1 2	2	
	異文化特別研究 III	2 3	2	
	異文化特別研究 IV	2 3	2	
	ワークショップ I	2 3 4	2	
	ワークショップ II	2 3 4	2	
	異文化課題研究 I	3	2	
	異文化課題研究 II	3	2	
	異文化課題研究 III	4	2	
	異文化課題研究 IV	4	2	
卒業論文・卒業研究	卒業論文	4	8	
	卒業研究	4	8	

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。
別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。
第Ⅱ類科目十第Ⅲ類科目=88単位以上。
第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目（任意）との合計が88単位以上となるように修得すること。
第Ⅲ類科目=30単位まで
第Ⅲ類科目を卒業単位として認定できる単位数は、30単位までとする。

教職科目	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
● 教職関連部門	法律学概論(国際法を含む。)	2 3 4	2	
	政治学概論(国際政治を含む。)	2 3 4	2	
	社会学入門	2 3 4	4	
	経済学概論(国際経済を含む。)	2 3 4	2	
	哲学入門	2 3 4	2	
	宗教学入門	2 3 4	2	
	心理学概説	2 3 4	2	

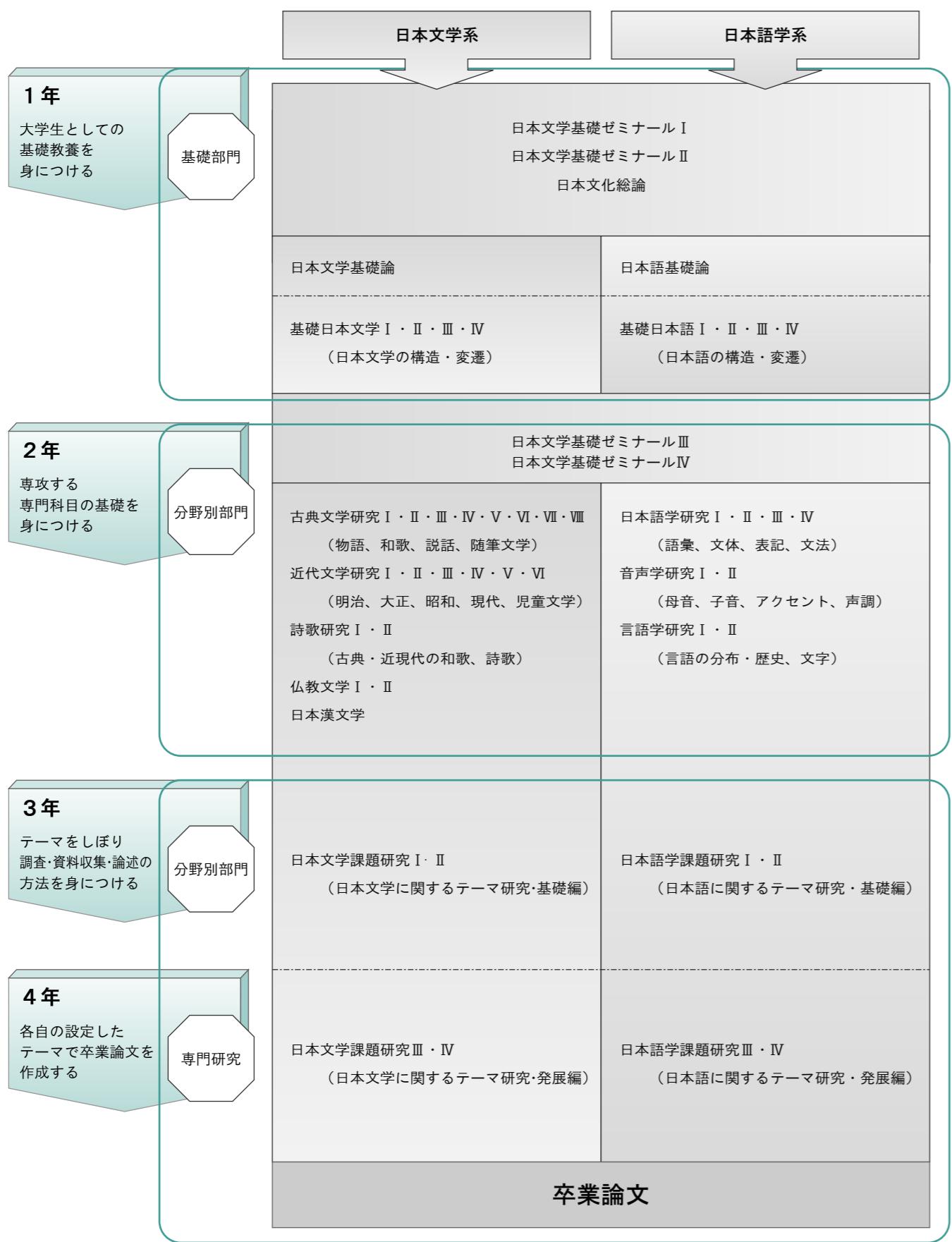
■ 教職関連部門は、教職の資格登録を行っている者のみ履修することができる。
また、履修制限単位の対象外とする。
■ 修得単位は、第Ⅲ類として認定する。
■ 教職の履修については、教職ガイダンス・資格要項にて確認すること。

カルチャルスタディーズ
コースの者は、8単位履修すること

8単位選択必修

文学部
日本文学科

日本文学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について



● 基礎部門

基礎部門

● 分野別門

日本文学

授業科目の名称	履修年次	単位	備考
基礎ゼミナールⅠ	1	2	4科目8単位必修
基礎ゼミナールⅡ	1	2	
基礎ゼミナールⅢ	2	2	
基礎ゼミナールⅣ	2	2	
日本文化総論	1	2	3科目6単位必修
日本文学基礎論	1	2	
日本語基礎論	1	2	
哲学・思想基礎論	1	2	
宗教文化論	1	2	
カルチュラルスタディーズ総論	1	2	
文化人類学	1	2	
表現文化論	1	2	
基礎日本文学Ⅰ	1 2	2	
基礎日本文学Ⅱ	1 2	2	
基礎日本文学Ⅲ	1 2	2	
基礎日本文学Ⅳ	1 2	2	
基礎日本語Ⅰ	1 2	2	
基礎日本語Ⅱ	1 2	2	
基礎日本語Ⅲ	1 2	2	
基礎日本語Ⅳ	1 2	2	
古典文学研究Ⅰ	2 3	2	
古典文学研究Ⅱ	2 3	2	
古典文学研究Ⅲ	2 3	2	
古典文学研究Ⅳ	2 3	2	
古典文学研究Ⅴ	2 3	2	
古典文学研究Ⅵ	2 3	2	
古典文学研究Ⅶ	2 3	2	
古典文学研究Ⅷ	2 3	2	
詩歌研究Ⅰ	2 3	2	
詩歌研究Ⅱ	2 3	2	
近代文学研究Ⅰ	2 3	2	
近代文学研究Ⅱ	2 3	2	
近代文学研究Ⅲ	2 3	2	
近代文学研究Ⅳ	2 3	2	
近代文学研究Ⅴ	2 3	2	
近代文学研究Ⅵ	2 3	2	
日本語学研究Ⅰ	2 3	2	
日本語学研究Ⅱ	2 3	2	
日本語学研究Ⅲ	2 3	2	
日本語学研究Ⅳ	2 3	2	
音声学研究Ⅰ	2 3	2	
音声学研究Ⅱ	2 3	2	
言語学研究Ⅰ	2 3	2	
言語学研究Ⅱ	2 3	2	
仏教文学Ⅰ	2 3	2	
仏教文学Ⅱ	2 3	2	
日本漢文学	2 3	2	
日本文学課題研究Ⅰ	3	2	4科目8単位必修
日本文学課題研究Ⅱ	3	2	
日本文学課題研究Ⅲ	4	2	
日本文学課題研究Ⅳ	4	2	
日本語学課題研究Ⅰ	3	2	
日本語学課題研究Ⅱ	3	2	
日本語学課題研究Ⅲ	4	2	
日本語学課題研究Ⅳ	4	2	

授業科目の名称	履修年次	単位	備考
卒業論文・卒業研究	卒業論文 卒業研究	4 4	8 8
			8単位選択必修

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。

第Ⅱ類科目+第Ⅲ類科目=88単位以上。

第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目（任意）との合計が88単位以上となるように修得すること。

第Ⅲ類科目=30単位まで

第Ⅲ類科目を卒業単位として認定できる単位数は、30単位までとする。

教職科目	授業科目の名称	履修年次	単位	備考
○ 教職関連部門	書写技術研究A 書写技術研究B	2 2	3 3	4 4
			2	教職資格登録者のみ 履修可。

■ 教職関連部門は、教職の資格登録を行っている者のみ履修することができる。

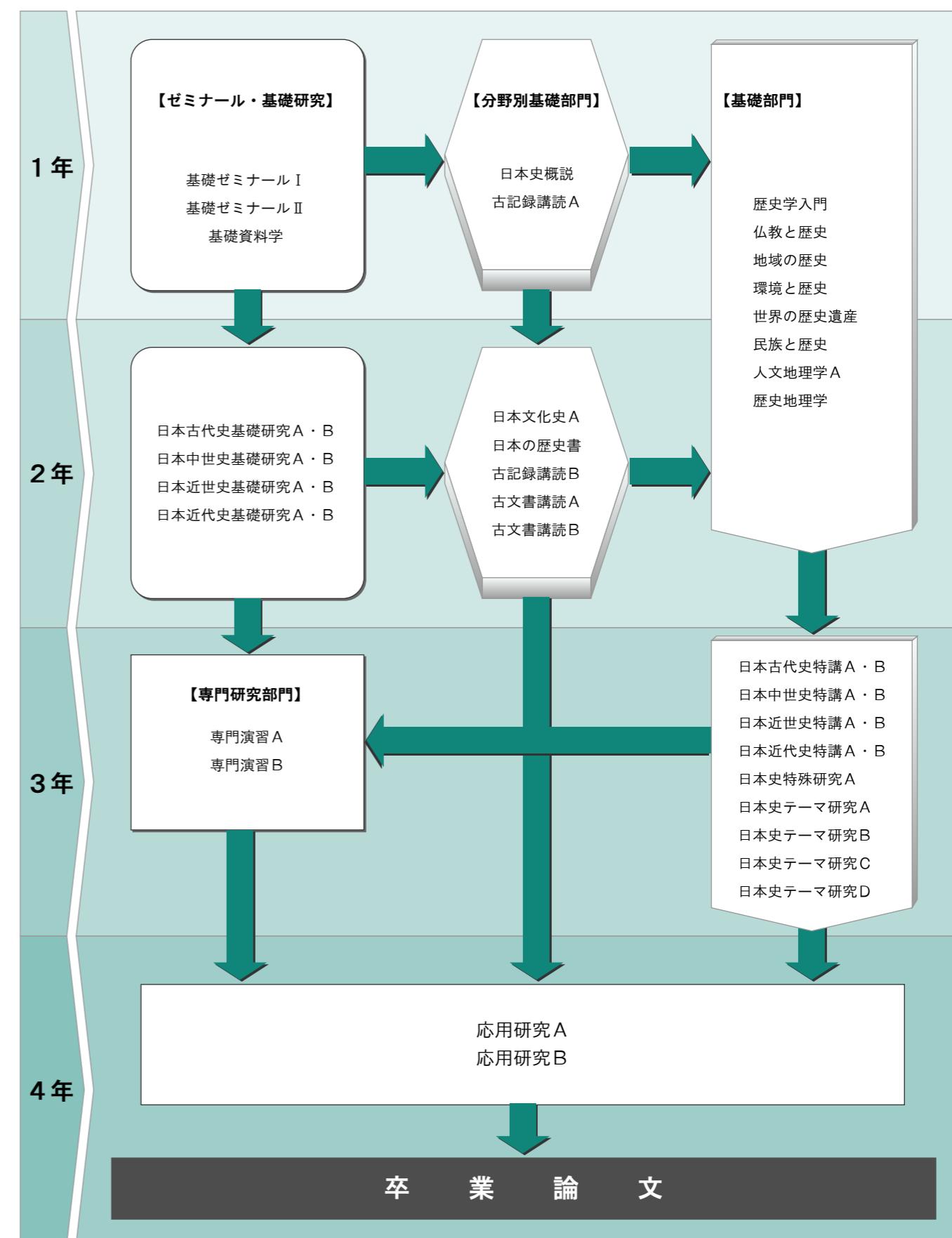
また、履修制限単位の対象外とする。

■ 修得単位は、第Ⅲ類として認定する。

■ 教職の履修については、教職ガイダンス・資格要項にて確認すること。

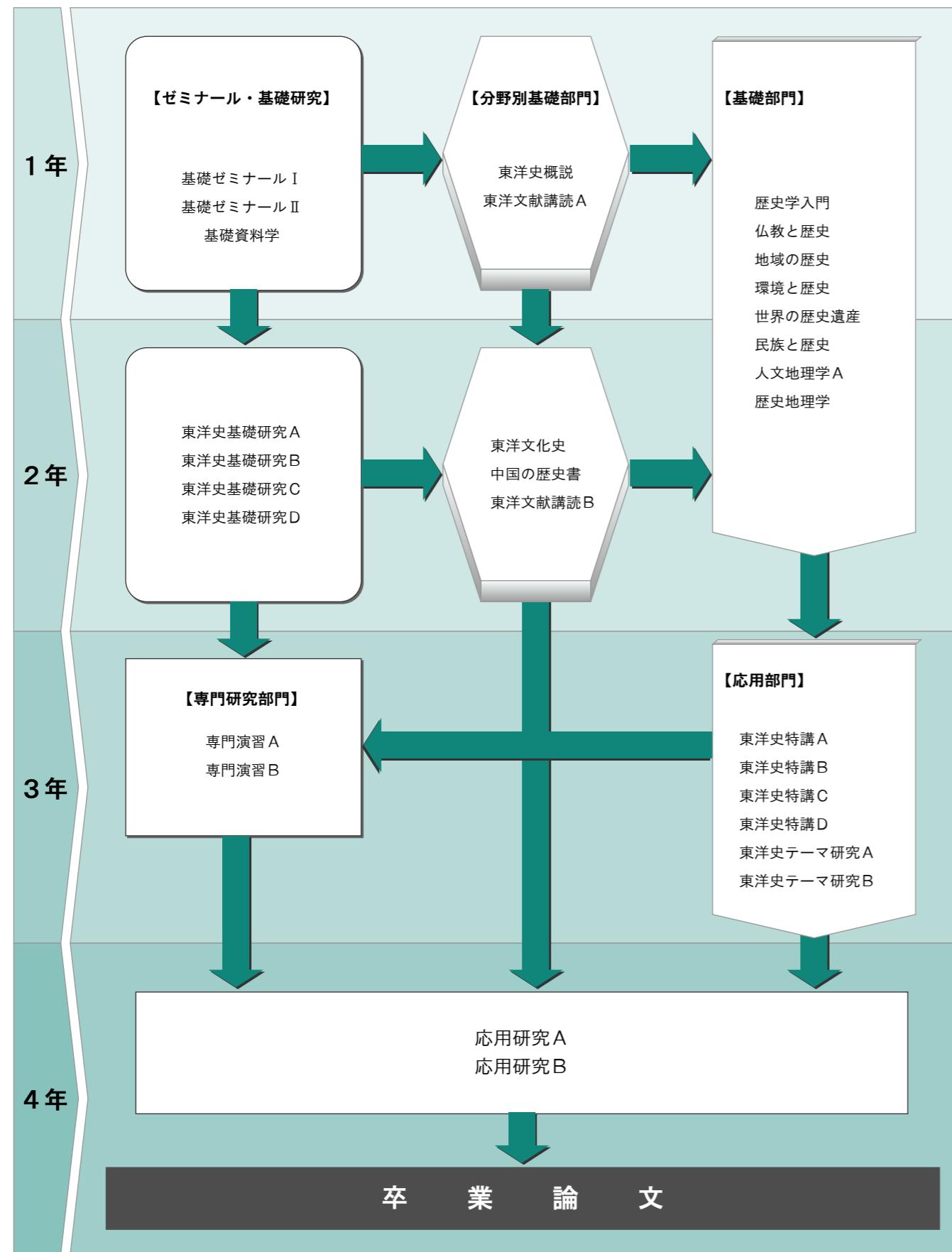
文学部
歴史学科
日本史コース

歴史学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について



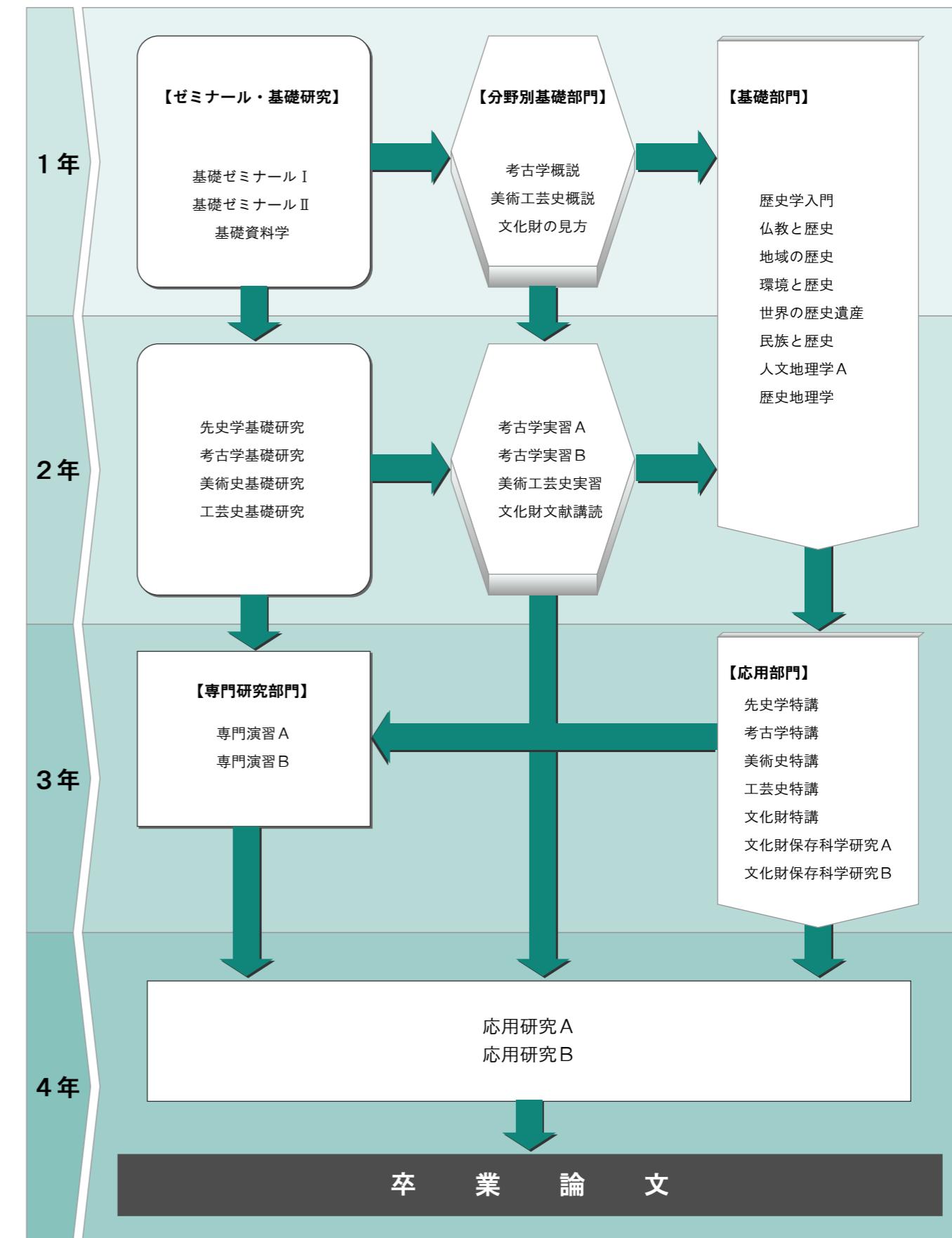
文学部
歴史学科
東洋史コース

【歴史学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について】



文学部
歴史学科
文化財・考古学
コース

【歴史学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について】



授業科目の名称		履修年次	単位	備 考
基礎部門	基礎ゼミナールⅠ	1	2	4科目8単位必修 ※12単位以上
	基礎ゼミナールⅡ	1	2	
	基礎資料学	1	2	
	歴史学入門	1	2	
	仏教と歴史	1	2	
	地域の歴史	1	2	
	環境と歴史	1	2	
	世界の歴史遺産	1	2	
	民族と歴史	1	2	
	人文地理学A	1 2	2	
分野別基礎部門	歴史地理学	1 2 3	2	注1 ※主専攻の系を中心 に24単位以上
	日本史概説	1 2	4	
	日本文化史A	1 2	2	
	日本の歴史書	1 2	2	
	古記録講読A	1	2	
	古記録講読B	2	2	
	古文書講読A	2	2	
	古文書講読B	2	2	
	日本古代史基礎研究A	2	2	
	日本古代史基礎研究B	2	2	
日本史系	日本中世史基礎研究A	2	2	注2 ※4単位以上
	日本中世史基礎研究B	2	2	
	日本近世史基礎研究A	2	2	
	日本近世史基礎研究B	2	2	
	日本近代史基礎研究A	2	2	
	日本近代史基礎研究B	2	2	
	東洋史概説	1 2	4	
	東洋文化史	1 2	2	
	中国の歴史書	1 2	2	
	東洋文献講読A	1	2	
東洋史系	東洋文献講読B	2	2	※文化財を主専攻とする者 は博物館実習Ⅰ・Ⅱを履 修すること
	東洋史基礎研究A	2	2	
	東洋史基礎研究B	2	2	
	東洋史基礎研究C	2	2	
	東洋史基礎研究D	2	2	
	考古学概説	1 2	4	
	美術工芸史概説	1 2	4	
	文化財の見方	1 2	2	
	文化財文献講読	2	2	
	先史学基礎研究	2	2	
文化財・考古学系	考古学基礎研究	2	2	4単位必修 4単位必修
	美術史基礎研究	2	2	
	工芸史基礎研究	2	2	
	考古学実習A	2	1	
	考古学実習B	2	1	
	美術工芸史実習	2	1	

次頁に続く

授業科目の名称		履修年次	単位	備 考
応用部門	日本古代史特講A	3	2	※主専攻の系を中心 に14単位以上
	日本古代史特講B	3	2	
	日本中世史特講A	3	2	
	日本中世史特講B	3	2	
	日本近世史特講A	3	2	
	日本近世史特講B	3	2	
	日本近代史特講A	3	2	
	日本近代史特講B	3	2	
	日本史テーマ研究A	3	2	
	日本史テーマ研究B	3	2	
日本史系	日本史テーマ研究C	3	2	注1 ※主専攻の系を中心 に24単位以上
	日本史テーマ研究D	3	2	
	東洋史特講A	3	2	
	東洋史特講B	3	2	
	東洋史特講C	3	2	
	東洋史特講D	3	2	
	東洋史テーマ研究A	3	2	
	東洋史テーマ研究B	3	2	
	先史学特講	3	2	
	考古学特講	3	2	
東洋史系	美術史特講	3	2	注2 ※4単位以上
	工芸史特講	3	2	
	文化財特講	3	2	
	文化財保存科学研究A	3	2	
	文化財保存科学研究B	3	2	
	西洋史概説	1 2	4	
	民俗学概論	1 2	2	
	人文地理学B	2	2	
	自然地理学A	2	2	
	自然地理学B	2	2	
文化財・考古学系	地誌学	2	2	※文化財を主専攻とする者 は博物館実習Ⅰ・Ⅱを履 修すること
	キリスト教文化史	2	2	
	博物館概論	1 2	2	
	博物館資料論	2	2	
	博物館経営論	2	2	
	博物館資料保存論	2	2	
	博物館展示論	2	2	
	博物館情報・メディア論	2	2	
	博物館教育論	2	2	
	博物館実習Ⅰ－A	3	1	
関連資格部門	博物館実習Ⅰ－B	3	1	4単位必修
	博物館実習Ⅰ－C	3	2	
	博物館実習Ⅱ	4	2	
	専門演習A	3 4	2	
	専門演習B	3 4	2	
	応用研究A	4	2	
	応用研究B	4	2	
	卒業論文	4	8	

各学科の専門教育科目

※印の単位数は「必修」ではなく、「履修することが強く望まれる単位数」を示す。
■履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

- [1]別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。
- [2]第Ⅱ類科目+第Ⅲ類科目=88単位以上。
第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目（任意）との合計が88単位以上となるように修得すること。
- [3]第Ⅲ類科目=30単位まで
第Ⅲ類科目を卒業単位として認定できる単位数は、30単位までとする。

1. 東洋史コースの学生は、世界の言語（中国語）を修得することを望む。
2. 博物館実習 I-A・I-B は、同一内容・同一教員を重ねて履修できない。
3. 専門ゼミの履修は学科の指導にしたがうこと。

- 先修制科目……以下の科目は順次履修すること（◆印）。
博物館実習 I-A → 博物館実習 I-B・I-C → 博物館実習 II

- 注1. 古記録講読A・古文書講読A 各2単位を優先履修すること。
- 注2. 東洋文献講読Aを優先履修すること。

第Ⅱ類科目は、各自が所属する学科の専門教育科目である。履修すべき総単位（124単位）のうち、各学科平均70単位を要することになっており、大学教育の根幹をなす科目群である。
その構成は学科によって異なるが、おおよそ以下のとおりである。

教職科目	授業科目の名称	履修年次	単位	備考
○ 教職関連部門	法律学概論（国際法を含む。）	2 3 4	2	教職資格登録者のみ履修可。
	政治学概論（国際政治を含む。）	2 3 4	2	
	社会学入門	2 3 4	4	
	経済学概論（国際経済を含む。）	2 3 4	2	
	哲学入門	2 3 4	2	
	現代倫理学	2 3 4	2	
	宗教学入門	2 3 4	2	

- 教職関連部門は、教職の資格登録を行っている者のみ履修することができる。
また、履修制限単位の対象外とする。
- 修得単位は、第Ⅲ類として認定する。
- 教職の履修については、教職ガイダンス・資格要項にて確認すること。

1. ワークショップ

体験的授業を通して、柔軟な思考力と表現するための技術を身につける。
*表現文化学科ワークショップ：学科全体のテーマに沿って、全員で一つの大きなプロジェクトに取り組み、チームごとのディスカッションを通して作品を作り上げ、発表イベントを行う。

*コース別ワークショップ：各コースの専門性を重視したテーマに取り組み、自分の将来像につなげる実践的学習方法を身につける。

2. 学科の基礎部門・分野部門

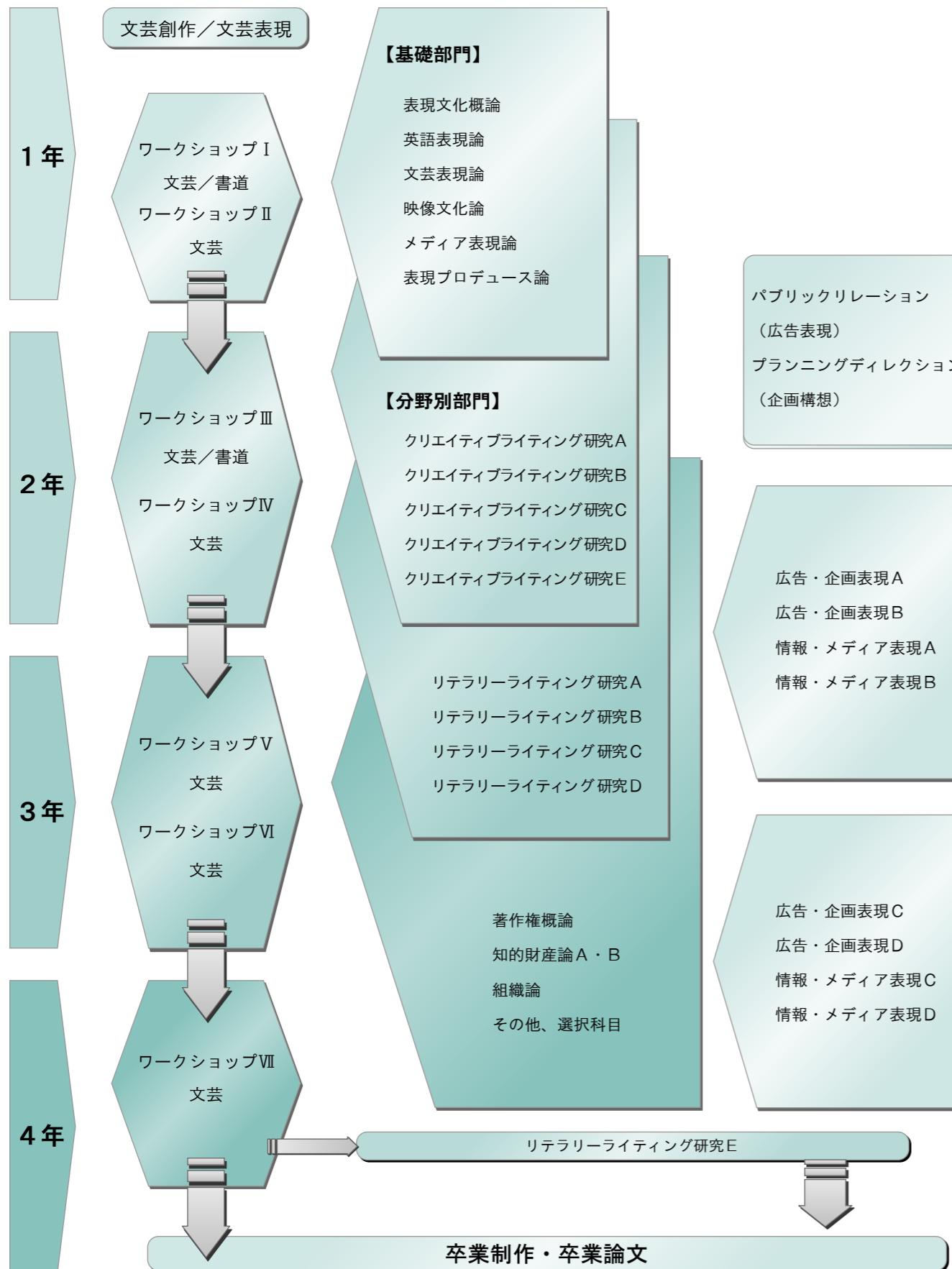
専門教育科目は大きく、基礎部門と分野部門に分類されており、履修要件が異なる。

*基礎部門は、表現文化学科の学生として必要な基礎力を身につける。
5コースの基礎的な内容を学ぶことによって、表現するさまざまな方法を学ぶことができる。
*分野部門は、クリエイティブライティングコース、出版・編集コース、放送・映像表現コース、英語表現・コミュニケーションコース、エンターテインメントビジネスコースそれぞれで、専門に特化した科目群がある。コースの教員の指導を受けながら効果的な科目選択が望まれる。

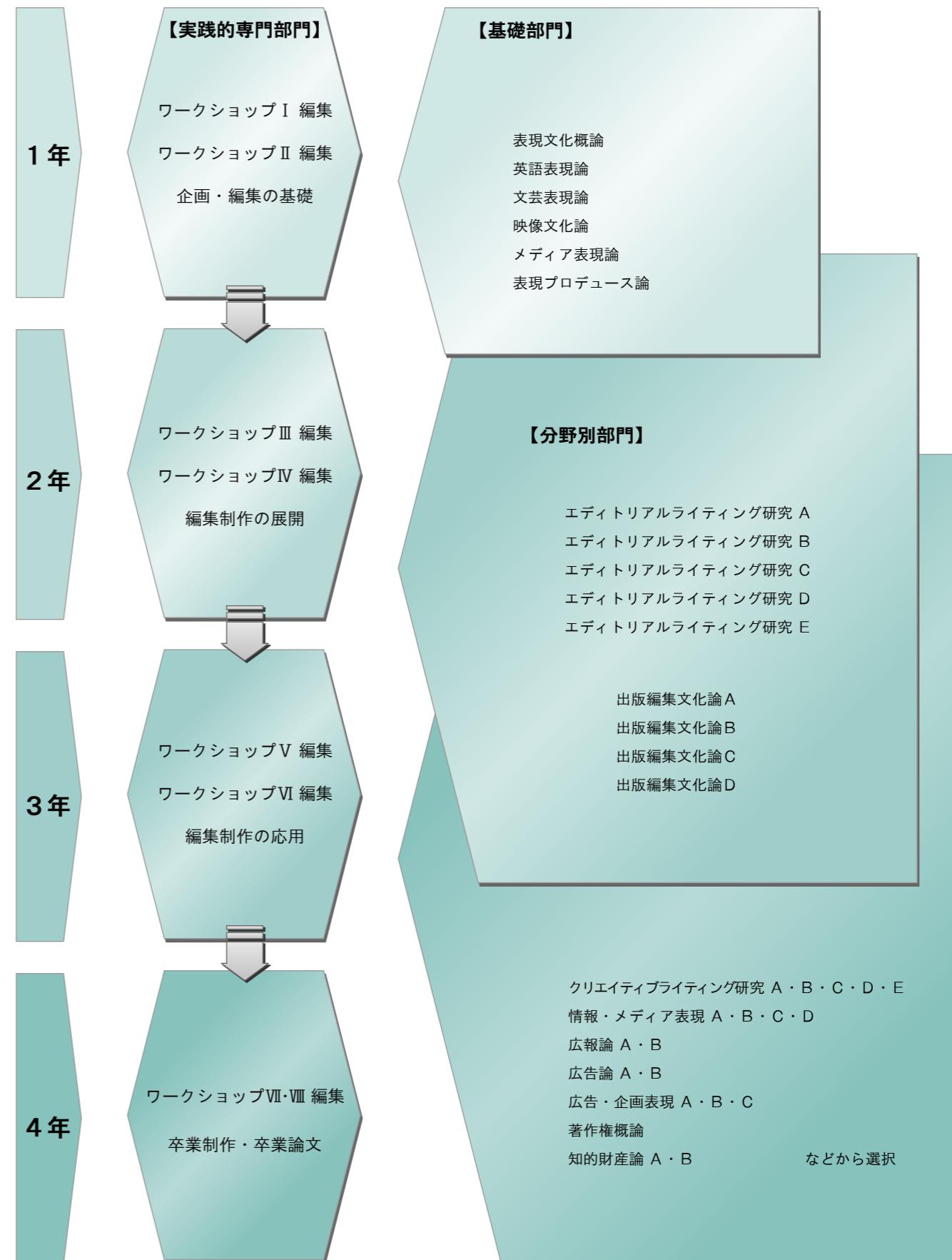
3. 表現する—書く・話す・撮る

書くことで創作の喜びを知る。映像や音声で自分の考えを発信する。英語によって世界の人とつながる。卒業時には、学生のみなさんが大学において学んだことの集大成を形にしていくよう、1年生のうちから十分に基礎学習を積み上げることが大切である。

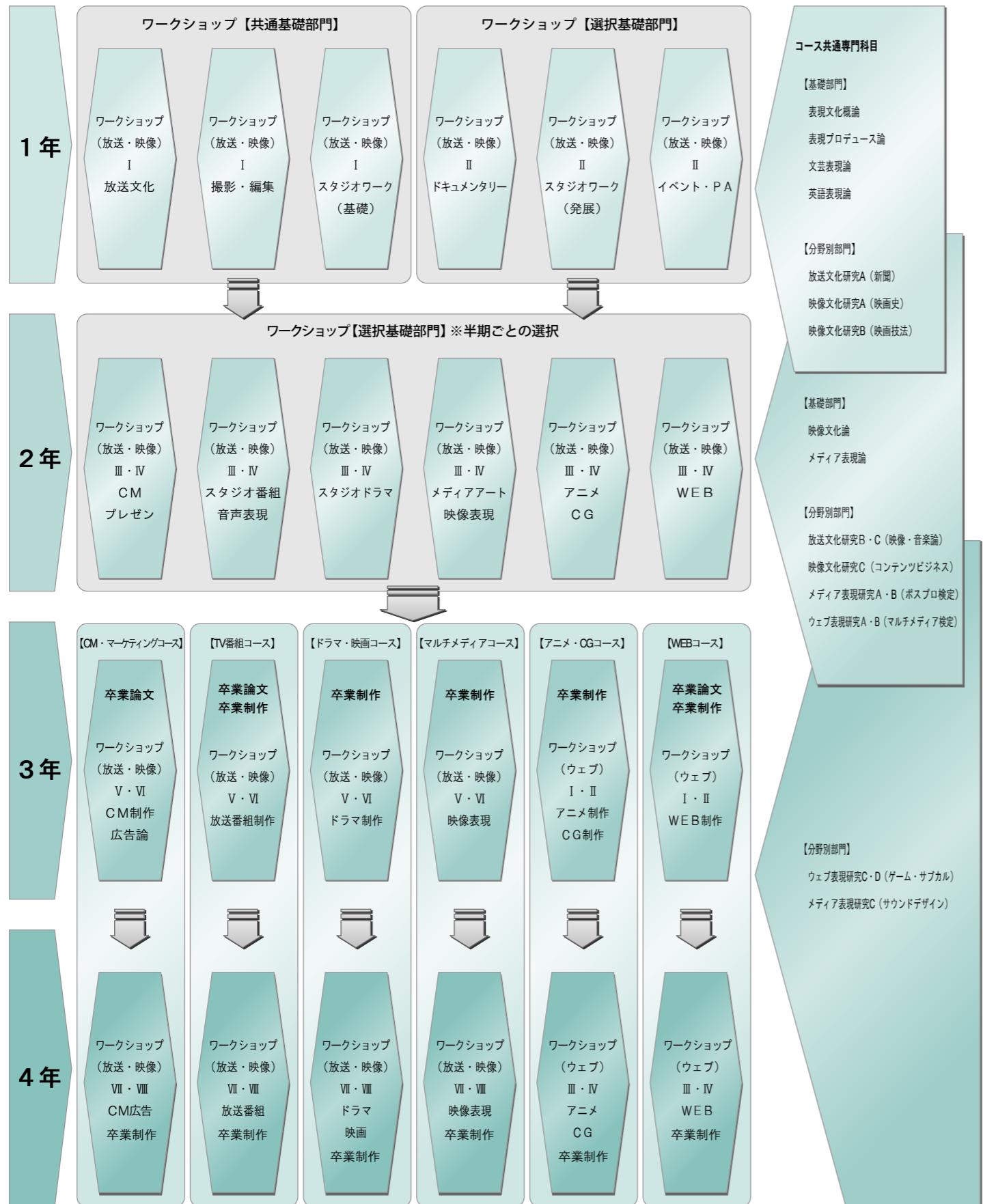
表現学部
表現文化学科
クリエイティブ
ライティング
コース



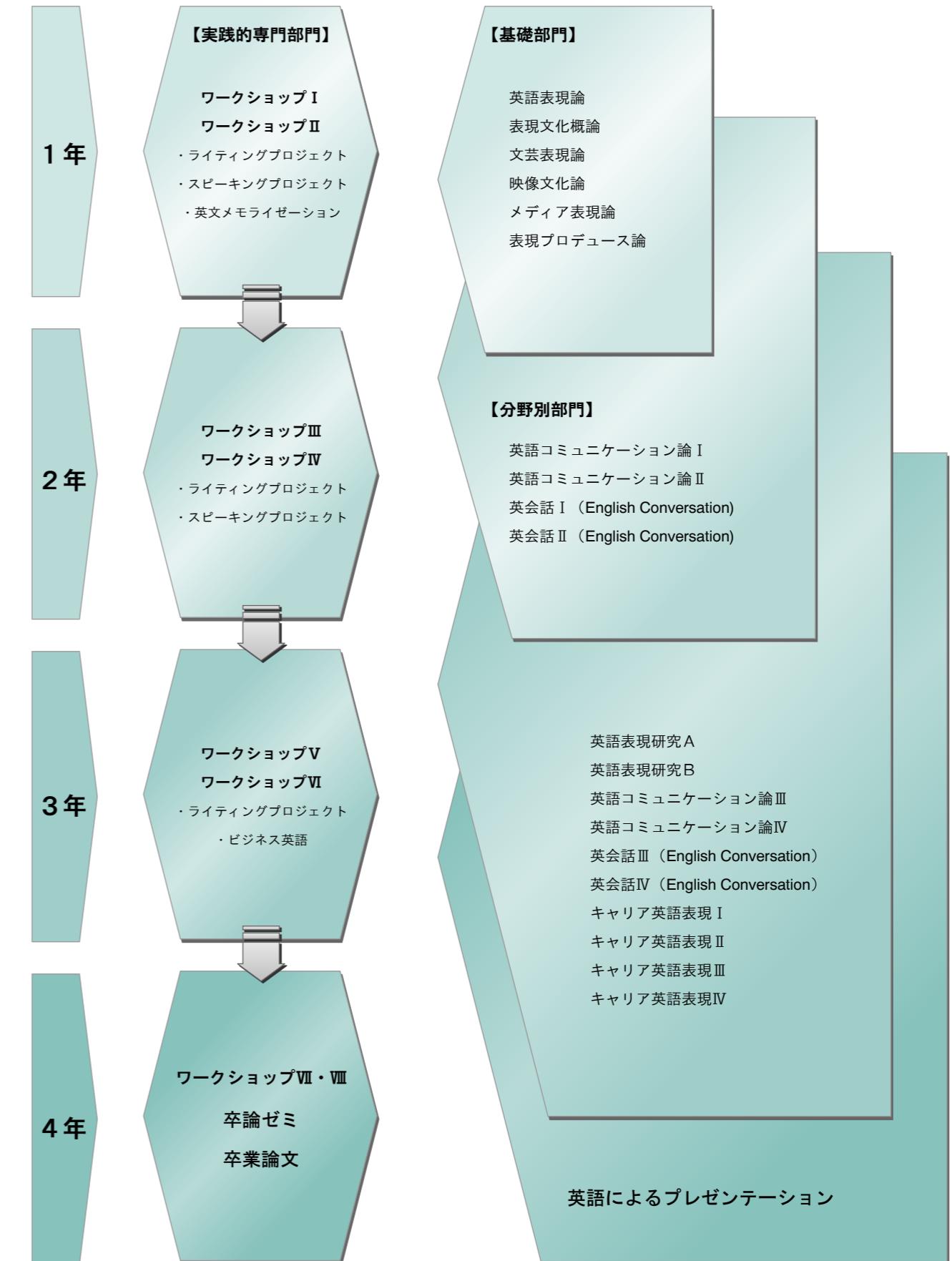
表現学部
表現文化学科
出版・編集
コース



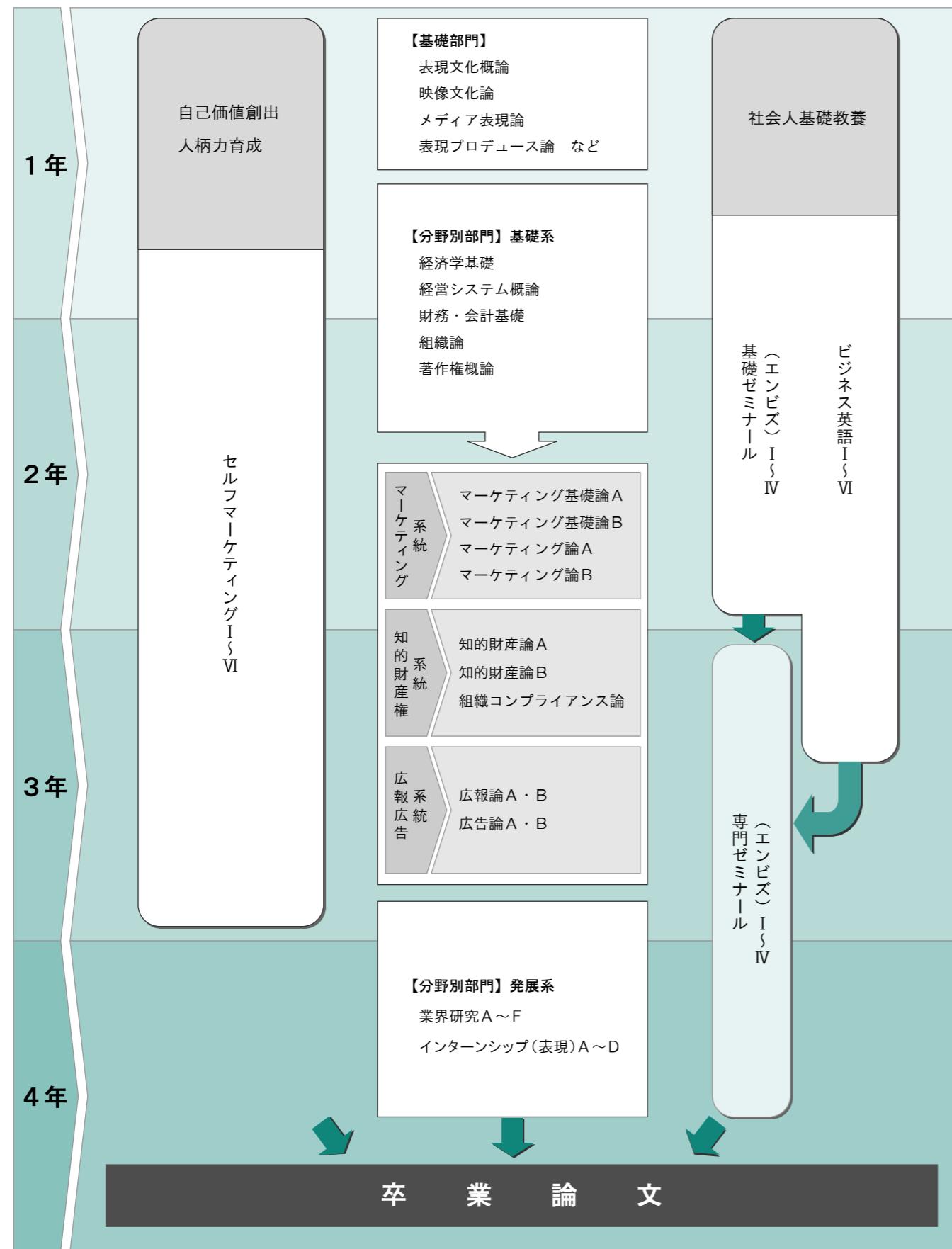
表現学部
表現文化学科
放送・映像表現
コース



表現学部
表現文化学科
英語表現・
コミュニケーション
コース



表現文化学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について



● 基礎部門

基礎部門

● 分野別部門

分野別部門

授業科目の名称	履修年次	単位	備考
表現文化概論	1 2	2	
英語表現論	1	2	
文芸表現論	1	2	
映像文化論	2 3	2	
メディア表現論	2 3	2	
表現プロデュース論	1	2	
クリエイティブライティング研究A	1 2	2	
クリエイティブライティング研究B	1 2 3	2	
クリエイティブライティング研究C	1 2 3	2	
クリエイティブライティング研究D	1 2 3	2	
クリエイティブライティング研究E	1 2 3	2	
リテラリーライティング研究A	2 3 4	2	
リテラリーライティング研究B	3	2	
リテラリーライティング研究C	2 3 4	2	
リテラリーライティング研究D	2 3 4	2	
リテラリーライティング研究E	4	2	
広告・企画表現A	2 3	4	
広告・企画表現B	2 3	4	
広告・企画表現C	3 4	4	
広告・企画表現D	3 4	4	
情報・メディア表現A	2 3	4	
情報・メディア表現B	2 3	4	
情報・メディア表現C	3 4	4	
情報・メディア表現D	3 4	4	
エディトリアルライティング研究A	2 3 4	2	
エディトリアルライティング研究B	2 3 4	2	
エディトリアルライティング研究C	2 3 4	2	
エディトリアルライティング研究D	2 3 4	2	
エディトリアルライティング研究E	2 3 4	2	
出版編集文化論A	2 3 4	2	
出版編集文化論B	2 3 4	2	
出版編集文化論C	2 3 4	2	
出版編集文化論D	2 3 4	2	
メディア表現研究A	2 3	2	
メディア表現研究B	2 3	2	
メディア表現研究C	2 3	2	
映像文化研究A	1 2	2	
映像文化研究B	1 2 3	2	
映像文化研究C	2 3	2	
放送文化研究A	1 2 3	2	
放送文化研究B	2 3	2	
放送文化研究C	2 3	2	
英語表現研究A	2 3	2	
英語表現研究B	2 3	2	
英語コミュニケーション論 I	1 2	2	
英語コミュニケーション論 II	1 2	2	
英語コミュニケーション論 III	2 3	2	
英語コミュニケーション論 IV	2 3	2	
キャリア英語表現 I	2 3	2	
キャリア英語表現 II	2 3	2	
キャリア英語表現 III	3 4	2	
キャリア英語表現 IV	3 4	2	

3科目 6単位必修

● 分野別部門

授業科目的名称	履修年次	単位	備 考
英語学概論A	2 3	2	
英語学概論B	2 3	2	
英米文学概論A	2 3	2	
英米文学概論B	2 3	2	
ウェブ表現研究A	1 2 3	2	
ウェブ表現研究B	2 3	2	
ウェブ表現研究C	2 3	2	
ウェブ表現研究D	2 3	2	
書道表現研究A	1 2	2	
書道表現研究B	1 2	2	
書写技術研究A	2 3	2	
書写技術研究B	2 3	2	
書道史 I	2 3	2	
書道史 II	2 3	2	
セルフマーケティング I	1	2	
セルフマーケティング II	1	2	
セルフマーケティング III	2	2	
セルフマーケティング IV	2	2	
セルフマーケティング V	3	2	
セルフマーケティング VI	3	2	
ビジネス英語 I	1	1	
ビジネス英語 II	1	1	
ビジネス英語 III	2	1	
ビジネス英語 IV	2	1	
ビジネス英語 V	3	2	
ビジネス英語 VI	3	2	
経済学基礎	1 2	2	
経営システム概論	1 2	2	
財務・会計基礎	1 2	2	
組織論	1 2	2	
表現マネジメント研究A	2 3	2	
表現マネジメント研究B	2 3	2	
表現マネジメント研究C	2 3	2	
表現マネジメント研究D	2 3	2	
マーケティング基礎論 A	1 2	2	
マーケティング基礎論 B	1 2	2	
マーケティング論 A	2 3	2	
マーケティング論 B	2 3	2	
広報論 A	2 3 4	2	
広報論 B	2 3 4	2	
広告論 A	2 3 4	2	
広告論 B	2 3 4	2	
著作権概論	1 2 3 4	2	
知的財産論 A	1 2 3 4	2	
知的財産論 B	1 2 3 4	2	
組織コンプライアンス論	2 3 4	2	

● 分野別部門

授業科目的名称	履修年次	単位	備 考
ワークショップ(文芸) I	1	6	
ワークショップ(文芸) II	1	6	
ワークショップ(文芸) III	2	6	
ワークショップ(文芸) IV	2	6	
ワークショップ(文芸) V	3	6	
ワークショップ(文芸) VI	3	6	
ワークショップ(文芸) VII	4	6	
ワークショップ(編集) I	1	6	
ワークショップ(編集) II	1	6	
ワークショップ(編集) III	2	6	
ワークショップ(編集) IV	2	6	
ワークショップ(編集) V	3	6	
ワークショップ(編集) VI	3	6	
ワークショップ(編集) VII	4	6	
ワークショップ(放送・映像) I	1	6	
ワークショップ(放送・映像) II	1	6	
ワークショップ(放送・映像) III	2	6	
ワークショップ(放送・映像) IV	2	6	
ワークショップ(放送・映像) V	3	6	
ワークショップ(放送・映像) VI	3	6	
ワークショップ(放送・映像) VII	4	6	
ワークショップ(英語) I	1	6	
ワークショップ(英語) II	1	6	
ワークショップ(英語) III	2	6	
ワークショップ(英語) IV	2	6	
ワークショップ(英語) V	3	6	
ワークショップ(英語) VI	3	6	
ワークショップ(英語) VII	4	6	
ワークショップ(ウェブ) I	3	6	
ワークショップ(ウェブ) II	3	6	
ワークショップ(ウェブ) III	4	6	
ワークショップ(ウェブ) IV	4	6	
ワークショップ(書道) I	1	6	
ワークショップ(書道) II	1	6	
ワークショップ(書道) III	2	6	
ワークショップ(書道) IV	2	6	
ワークショップ(書道) V	3	6	
ワークショップ(書道) VI	3	6	
ワークショップ(書道) VII	4	6	
基礎ゼミナール(エンビズ) I	1	2	
基礎ゼミナール(エンビズ) II	1	2	
基礎ゼミナール(エンビズ) III	2	2	
基礎ゼミナール(エンビズ) IV	2	2	
専門ゼミナール(エンビズ) I	3	2	
専門ゼミナール(エンビズ) II	3	2	
専門ゼミナール(エンビズ) III	4	2	
専門ゼミナール(エンビズ) IV	4	2	

関連分野科目について

関連分野科目

● 共通部門

	授業科目の名称	履修年次	単位	備考
共通部門	業界研究A	2 3 4	2	
	業界研究B	2 3 4	2	
	業界研究C	2 3 4	2	
	業界研究D	2 3 4	2	
	業界研究E	2 3 4	2	
	業界研究F	2 3 4	2	
卒業論文・卒業制作	インターンシップ(表現)A	1 2 3 4	2	
	インターンシップ(表現)B	1 2 3 4	2	
	インターンシップ(表現)C	2 3 4	2	
	インターンシップ(表現)D	2 3 4	2	
卒業論文		4	8	□ 8単位選択必修
		4	8	

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

[1] 別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。

[2] 第Ⅱ類科目+第Ⅲ類科目=88単位以上。

第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目が88単位以上となるように修得すること。

第Ⅲ類科目=30単位まで

注1 英語表現・コミュニケーションコースの者は、英会話(第Ⅰ類)を修得することを望む。

◆ 関連分野科目の履修方法

1 この関連分野科目は、所属するコースの専門学習をするにあたって、隣接する学問分野の学科のうち、当該コース固有の教育理念・目標を達成する上で特に有用と考えられる学科である。これらの学科を履修することによって、専門知識の広範な応用力を身につけるとともに、専門的な視点からの考察力や判断力、理解力を深めることを目的としている。

2 関連分野科目は、原則として3年次以降に履修する。

3 関連分野科目の履修にあたっては、定められた単位数の範囲内で、指導に基づいて科目を履修する(履修可能な科目は、コースによって異なる)。

教職科目

● 教職関連部門

	授業科目の名称	履修年次	単位	備考
教職関連部門	アメリカ文学史	2 3 4	2	教職資格登録者のみ 履修可。
	イギリス文学史	2 3 4	2	
	書道Ⅰ	2 3 4	2	
	書道Ⅱ	2 3 4	2	
	書道Ⅲ	2 3 4	2	
	書道文化研究A	2 3 4	2	
	書道文化研究B	2 3 4	2	
	書道文化研究C	2 3 4	2	
	書道文化研究D	2 3 4	2	
	書道文化研究E	2 3 4	2	
	日本文学基礎論	2 3 4	2	
	日本漢文学	2 3 4	2	

■ 教職関連部門は、教職の資格登録を行っている者のみ履修することができる。

また、履修制限単位の対象外とする。

■ 修得単位は、第Ⅲ類として認定する。

■ 教職の履修については、教職ガイダンス・資格要項にて確認すること。

教職・資格・キャリアに関する科目

第Ⅲ類科目

仏教学部

人間学部

心理社会学部

文学部

表現学部

【学部共通】 (第Ⅲ類科目)

◆ 第Ⅲ類科目の履修方法

第Ⅲ類科目は全学共通の選択科目である。その位置付けは、第Ⅰ類科目が学問への入門的方法を身につけることを目的とした科目群、第Ⅱ類科目が所属学科の専門教育科目であることに対して、第Ⅲ類科目は教職・資格、社会・地域貢献、キャリア育成支援、自己研鑽に関する科目群である。履修にあたっては、定められた単位数の範囲内で、各自が自由に履修計画を立てることができる。

◎第Ⅲ類科目は、原則として2年次以降に履修する科目である。

1. 教職・諸資格に関する科目

資格を取得するためには、卒業要件とは別に、教職、諸資格取得に関する科目的単位をすべて修得する必要がある。本学では、教職、諸資格に関する科目の一部は第Ⅲ類科目として位置付け、卒業単位として認定する。科目はA群～H群まで分類されており、各資格の基礎的科目を配置している。

資格の種類

- 教職課程 【免許状】
- 司書教諭 【修了証】
- ※教職課程と同時履修
- 社会教育主事 【認定証】
- 司書 【資格証明書】
- 学芸員 【資格証明書】
- 社会福祉主事 【認定証】
- 児童指導員 【認定証】
- 僧階
- ※各宗派の履修指導に従うこと
- 【養成講座】
- 日本語教員養成講座 【修了証】
- 社会教化者養成講座 【修了証、浄土宗の場合は任命書】

2. 社会・地域貢献に関する科目

地域との連帯を模索し、社会貢献に資する人材を育成する科目である。人と人、人と地域、人と社会のつながりや関係性に配慮しながら、地域社会に貢献する方法を学び、さらにサービスラーニングを通して具体的な地域の課題を発見し、それを地域の人々とともに共有し解決できる能力を養うことを目的としている。なお、サービスラーニングの学びの場としては本学のある豊島区巣鴨地域が中心となる。

3. キャリア育成支援に関する科目

卒業後の進路や就職に直接関係する科目である。自身のキャリアを考えるにあたって、社会や産業界の現状を知り、社会は何を求めていたのか、そして自分自身がどのような職業を選ぶのか、そのためには何が必要なのか等を、自ら主体的に考えていくことを目的としている。講義では、様々な分野で活躍する方々から話を聞いたり、ワークショップやインターンシップを体験することにより、キャリアアップを目指す。

4. 自己研鑽に関する科目

教室外において個人の研鑽を目的として、自主的に体験学習したことを単位として認定する科目である。授業によっては、計画書と報告書の提出が義務付けられるとともに、単位認定にあたって面接等が実施される場合がある。特に、仏教研修・仏教フィールドワークは本学の建学の精神である仏教を体験する科目である。仏教研修は本学の設立宗派の本山である、延暦寺・長谷寺・智積院・知恩院で、勤行・礼拝・瞑想などを体験したり、僧侶の講話を聞いたりする。仏教フィールドワークは、奈良・京都などの寺院や文化財を探訪し、日本を代表する優れた仏教美術(仏像・仏画・寺院建築等)を実際に鑑賞し、現地の講師の講義を受けることで、仏教文化に対する理解を深める。

第Ⅲ類科目学則別表

	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
● 教職・資格に関する科目	現代教職論	2 3	2	
	教育基礎論	2 3	2	
	学習・発達論	2 3	2	
	教育制度論	2 3	2	
	教育課程論	2 3	2	
	道徳教育の指導法	2 3	2	
	特別活動の指導法	2 3	2	
	教育方法論	2 3	2	
	生徒・進路指導論	2 3	2	
	教育相談	2 3	2	
	教職実践演習	4	2	
	日本国憲法	2 3	2	
	体育	2 3	2	
	教育実習A	4	3	
	教育実習B	4	5	
A群 教職	社会科教育法 I	2 3	2	
	社会科教育法 II	2 3	2	
	社会・地歴科教育法 I	2 3	2	
	社会・地歴科教育法 II	2 3	2	
	社会・公民科教育法 I	2 3	2	
	社会・公民科教育法 II	2 3	2	
	宗教科教育法 I	2 3	2	
	宗教科教育法 II	2 3	2	
	宗教科教育法 III	2 3	2	
	宗教科教育法 IV	2 3	2	
	英語科教育法 I	2 3	2	
	英語科教育法 II	2 3	2	
	英語科教育法 III	2 3	2	
	英語科教育法 IV	2 3	2	
	国語科教育法 I	2 3	2	
	国語科教育法 II	2 3	2	
	国語科教育法 III	2 3	2	
	国語科教育法 IV	2 3	2	
	書道科教育法 I	2 3	2	
	書道科教育法 II	2 3	2	

次頁に続く

	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
● 教職・資格に関する科目	生涯学習概論	2	4	
	比較生涯学習概論 A	2 3 4	2	
	比較生涯学習概論 B	2 3 4	2	
	社会教育計画論	2 3	4	
	子育て支援学習	2 3 4	2	
	青少年と学習	2 3 4	2	
	成人と学習	2 3 4	2	
	教育と宗教	2 3 4	2	
	博物館情報・メディア論	2 3 4	2	
	図書館概論	2 3 4	2	
	図書館制度・経営論	2 3 4	2	
	博物館概論	2 3 4	2	
	教育文化事業論	2 3 4	2	
	教育制度論	2 3 4	2	
	現在の教育問題	2 3 4	2	
	ジェンダー論	2 3 4	2	
	職場の社会学	2 3 4	2	
	生涯学習施設実習	3 4	4	
	生涯学習概論	2 3	4	
	博物館概論	2 3	2	
	博物館資料論	2 3	2	
	博物館資料保存論	2 3	2	
	博物館展示論	2 3	2	
	博物館経営論	2 3	2	
	博物館情報・メディア論	2 3 4	2	
	博物館教育論	2 3 4	2	
	仏教と歴史	2 3 4	2	
	日本の歴史書	2 3 4	2	
	中国の歴史書	2 3 4	2	
	東洋文化史	2 3 4	2	
	仏教文化伝統研究	2 3 4	2	
	天台仏教と文化	2 3 4	2	
	浄土教と文化	2 3 4	2	
	密教と文化	2 3 4	2	
	伝統民俗を活かす教育	2 3 4	2	
	民俗学概論	2 3 4	2	
	歴史地理学	2 3 4	2	
	美術工芸史概説	2 3 4	4	
	考古学概説	2 3 4	4	
	博物館実習 I - A	3	1	
	博物館実習 I - B	3	1	
	博物館実習 I - C	3	2	
	博物館実習 II	4	2	

次頁に続く

授業科目の名称

履修年次 単位

備 考

● 教職・資格に関する科目

生涯学習概論	2 3 4	4
図書館概論	2 3 4	2
図書館情報技術論	2 3 4	2
図書館制度・経営論	2 3 4	2
図書館サービス概論	2 3 4	2
情報サービス論	2 3 4	2
情報サービス演習A	2 3 4	2
情報サービス演習B	2 3 4	2
図書館情報資源概論	2 3 4	2
情報資源組織論	2 3 4	2
情報資源組織演習A	2 3 4	2
情報資源組織演習B	2 3 4	2
児童サービス論	2 3 4	2
図書・図書館史	2 3 4	1
図書館サービス特論	2 3 4	1
図書館情報資源特論	2 3 4	1
図書館施設論	2 3 4	1
学校経営と学校図書館	2 3 4	2
学校図書館メディアの構成	2 3 4	2
学習指導と学校図書館	2 3 4	2
読書と豊かな人間性	2 3 4	2
情報メディアの活用	2 3 4	2

※教職・資格に関する科目(A群～H群)の履修については、学科・コースおよび、資格によって異なる。

D群
〈司書〉E群
〈司書教諭〉

● 教職・資格に関する科目

授業科目の名称

履修年次 単位

備 考

英語表現論	2 3 4	2
異文化の理解A	2 3 4	2
異文化の理解B	2 3 4	2
異文化の理解C	2 3 4	2
キャリア英語表現 I	2 3 4	2
基礎日本文学 I	2 3 4	2
基礎日本文学 II	2 3 4	2
基礎日本文学 III	2 3 4	2
基礎日本文学 IV	2 3 4	2
基礎日本語 I	2 3 4	2
基礎日本語 II	2 3 4	2
基礎日本語 III	2 3 4	2
基礎日本語 IV	2 3 4	2
日本語学研究 I	2 3 4	2
日本語学研究 II	2 3 4	2
日本語学研究 III	2 3 4	2
日本語学研究 IV	2 3 4	2
音声学研究 I	2 3 4	2
音声学研究 II	2 3 4	2
言語学研究 I	2 3 4	2
言語学研究 II	2 3 4	2
日本語学研究 E(語彙・意味)	2 3 4	4
日本語学研究 F(社会言語学)	2 3 4	2
日本語学研究 G(対照言語学)	2 3 4	2
日本語教育研究 A(教授法概論)	2 3 4	4
日本語教育研究 B(段階別教授法)	2 3 4	4
日本語教育研究 C(教材・教具)	2 3 4	4
心理学概説	2 3 4	2
学習・発達論	2 3 4	2
情報メディアの活用	2 3 4	2
日本語教育実習	2 3 4	1
社会福祉概説 I	2 3 4	2
社会福祉概説 II	2 3 4	2
社会福祉方法論 I	2 3 4	2
社会福祉方法論 II	2 3 4	2
基礎法学	2 3 4	2
心理学概説	2 3 4	2
社会学概論	2 3 4	2
社会福祉概説 I	2 3 4	2
社会福祉概説 II	2 3 4	2
社会福祉方法論 I	2 3 4	2
社会福祉方法論 II	2 3 4	2
児童福祉概論	2 3 4	2
基礎法学	2 3 4	2
教育原理	2 3 4	2
児童心理	2 3 4	2

F群
〈日本語教員養成〉G群
〈社会福祉主事〉H群
〈児童指導員〉

次頁に続く

授業科目の名称

履修年次 単位

備 考

社会・地域貢献に関する科目	Ⅰ群	豊島学A	1	2	3	4	2
		豊島学B	1	2	3	4	2
		社会貢献論	1	2	3	4	2
		地域貢献方法論A	1	2	3	4	2
		地域貢献方法論B	1	2	3	4	2
		地域貢献方法論C	1	2	3	4	2
		地域貢献方法論D	1	2	3	4	2
		サービスラーニングⅠ-A	1	2	3	4	2~4
		サービスラーニングⅠ-B	1	2	3	4	2~4
		サービスラーニングⅠ-C	1	2	3	4	2~4
		サービスラーニングⅠ-D	1	2	3	4	2~4
		サービスラーニングⅡ-A	1	2	3	4	2~4
		サービスラーニングⅡ-B	1	2	3	4	2~4
		サービスラーニングⅡ-C	1	2	3	4	2~4
		サービスラーニングⅡ-D	1	2	3	4	2~4
キャリア育成支援に関する科目	Ⅱ群	キャリア育成特設講座A	1	2	3	4	2
		キャリア育成特設講座B	1	2	3	4	2
		キャリア育成特設講座C	1	2	3	4	2
		キャリア育成特設講座D	1	2	3	4	2
		キャリア育成特設講座E	1	2	3	4	2
		インターンシップ	1	2	3	4	1~8
		ワークショップ	1	2	3	4	2~4
自己研鑽に関する科目	Ⅲ群	プロジェクト研究	1	2	3	4	2~8
		フィールドワーク	1	2	3	4	1~8
		ボランティア	1	2	3	4	2~8
		仏教研修	1	2	3	4	2
		仏教フィールドワーク	1	2	3	4	2
		語学研修英会話	1	2	3	4	2
		語学研修ドイツ語会話	1	2	3	4	2
		語学研修中国語会話	1	2	3	4	2
		アメリカ文化論	1	2	3	4	2
		ドイツ文化論	1	2	3	4	2
		中国文化論	1	2	3	4	2
		韓国文化論	1	2	3	4	2

資格登録

資格登録および登録料

教職、諸資格に関する科目を履修する場合は1年次秋学期もしくは2年次春学期に以下の登録料を添えて手続きを行うこと

教職・諸資格に関する科目〔第Ⅲ類科目〕を履修するには、1年次秋学期以降に所定の登録料を添えて手続きを行うこと。

種類	区分	登録料	登録年次
	教職課程	35,000円	1年次秋学期または2年次春学期
	社会教育主事	30,000円	1年次秋学期または2年次春学期
	学芸員	30,000円	1年次秋学期または2年次春学期
	司書	30,000円	1年次秋学期または2年次春学期
	司書教諭	30,000円	1年次秋学期または2年次春学期 教職課程と同時登録すること
	日本語教員	30,000円	1年次秋学期または2年次春学期
	社会福祉主事	30,000円	1年次秋学期または2年次春学期
	児童指導員	30,000円	1年次秋学期または2年次春学期
	社会教化者	20,000円	1年次秋学期または2年次春学期
	開教使(浄土)	10,000円	1年次秋学期または2年次春学期
	各宗派僧階	登録料なし	1年次春

登録時の注意事項

- 登録期間は、T-Po掲示にて案内する
- 複数の資格登録により、単位未修得のため卒業時に資格を取得できない場合、大学はその責任を一切負わない
- 教職、諸資格に関する詳細は『資格要項』で必ず確認すること



証明書

証明書の取扱窓口

証明書の取扱窓口				
区分	単価	交付日数	取扱窓口	登録年次
在学証明書	200円	※	学生課	
在学証明書(英文)	500円	2		
期間在学証明書	200円	2		
期間在学証明書(英文)	500円	2		
学割(学校学生生徒運賃割引)	無料	※		研修・帰省等
健康診断証明書	200円	※		保健室
人物証明書	500円	3		全学健診受診者のみ(郵送不可)
人物推薦書	300円	3		就職課
学業成績証明書	200円	※		進路登録カード提出者のみ(主に就職活動時)
卒業・修了証明書	200円	3		
卒業・修了見込証明書	200円	※	教務部	
僧階単位証明書	200円	7		
教員免許	学力に関する証明書	200円		7
免許	教員免許取得見込	200円		3
学芸員	学芸員単位取得	200円		3
学芸員	学芸員取得見込	200円		3
学芸員	学芸員授与証明	200円		3
社会教育	社会教育主事単位取得	200円		3
社会教育	社会教育主事取得見込	200円		3
社会教育	社会教育主事授与証明	200円		3
福祉主事	社会福祉主事取得見込	200円	証明書発行機	3
福祉主事	社会福祉主事授与証明	200円	稼動時間:	3
児童指導員	児童指導員取得見込	200円	月～金	
児童指導員	児童指導員授与証明	200円	9:00	
司書	司書単位取得	200円	～18:30	
司書	司書取得見込	200円	土	
司書	司書授与証明	200円	10:00	
学業成績証明書(英文)	1,000円	7	～16:00	
卒業・修了証明書(英文)	500円	7	※閉講期間などとの限りではない。	
卒業・修了見込証明書(英文)	500円	7		

● ※印は、学生証を持参のうえ、証明書自動発行機にて即日発行可能。

● ※印以外は、証明書発行願を取扱窓口に提出してください。

なお、年度始め、大学行事に伴い交付日数がかかる場合があります。(2～7日)
余裕をもって申請してください。

履修登録について

Q: 授業期間前に履修登録がありますが、授業を聞いてからの変更はできますか？

A: できます。ただし、履修登録科目を変更する場合は、指定された期間にT-Poで修正登録をしてください。

Q: 登録科目名はあってるが、クラス表記が違うのですがどうすればいいですか？

A: 修正登録期間内に該当クラスへ修正してください。

Q: 通年科目の登録は春学期と秋学期にわけて登録するのですか？

A: 春学期に登録をしてください。

Q: 春学期に登録した通年科目を、秋学期に削除することはできますか？

A: できません。通年科目を履修登録するときは、履修計画にしたがって登録してください。

Q: 集中講義の登録はどうすればいいですか？

A: T-Poにて登録時期を確認し、T-Poから登録をしてください。

Q: 制限単位についてですが、通年科目の単位数は春学期に換算されるのですか？

A: 制限単位として換算する場合は、春学期と秋学期にわけてカウントしてください。

Q: セメスターごとに定められている単位数以上登録したいのですが、可能ですか？

A: できません。

Q: 必修科目と資格科目的時間が重なってしまいます。どちらを履修すればいいですか？

A: 卒業を優先する場合は必修科目を先に履修してください。

Q: 資格登録をしていませんが、資格科目を履修できますか？

A: 履修できません。ただし、その科目が1年生から履修可能科目、所属学科の科目の場合は履修できます。

Q: 登録した授業を削除したいのですが、どうすればいいですか？

A: 指定された期間内にT-Poで削除してください。

Q: 履修登録ができないなくても、先生に頼めば単位をもらえますか？

A: 履修登録を行っていなければ、単位の認定はできません。履修登録は、指定期間内に行ってください。

Q: 履修登録でエラーがでました。どうすればいいですか？

A: T-Poでの履修登録は、エラーの状態では終了できません。必ずエラーの原因を削除し、再チェックのうえ完了してください。

Q: 科目を登録したのですが、授業内容が異なっていたため出席しないでそのままにしてしまいました。どうすればいいですか？

A: 修正登録期間内に修正してください。修正しなかった場合は、GPAに反映されてしまい、進級基準に影響することがあります。修正登録期間外では受け付けません。

Q: 資格特別プログラム(S P履修)の科目はどのように登録するのですか？

A: 春学期にT-Poにて履修登録を行ってください。通年科目ですので、春学期に登録が必要です。秋学期に削除はできません。

Q: 4年生ですが、もう卒業論文しかありません。何も登録しなくても大丈夫ですか？

A: 登録は必要ありませんが、各学科で定期的な論文指導がありますので確認してください。なお、卒業に必要な科目・単位数が修得できているかを必ず学則別表(ガイドンス資料)で確認してください。

Q: 修正登録をしたのですが、授業で名前が呼ばれません。どうしたらいいですか？

A: 科目の登録が出来ていない可能性があります。T-Poにて自分の時間割を確認してください。



授業等について

- Q: 授業を休んでも大丈夫ですか？
- Q: 履修年次が「1年」とある科目は、必ず1年のうちに履修しなければいけませんか？
- Q: 就職活動で授業を休んだ場合、公欠になりますか？
- Q: 電車が遅れて授業に出られなかった（または遅れた）のですが、どうしたらしいですか？
- Q: 台風や体調不良のため授業やテストが受けられないとき、どうしたらしいですか？
- Q: 試験の週は、時間帯や教室は変更になりますか？
- Q: 電話で休講情報を教えてもらえますか？
- Q: レポートの課題提出先がわかりません。

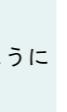
- A: 単位認定を受けるには、毎回出席することが原則です。出席回数が総授業回数の3分の2に満たない場合は試験を受けられません。
- A: 1年次に履修することが望ましい科目ですが、その科目の単位を取得していないことにより進級できないということはありません。しかし、先修制科目（順を追って履修しなければならない科目）に該当する場合は、該当科目が修得出来ていなければ、次の科目に進めません。
- A: 公欠にはなりません。就職活動の場合は、CECで授業欠席証明書を発行しますので、その証明書を担当教員に提出してください。あくまでも欠席理由を証明するもので、その取扱いは担当教員の判断によります。
- A: 各交通機関（駅）から遅延証明書を発行してもらってください。遅延証明書を受け取り、該当科目の担当教員に提出してください。なお、試験時の遅刻についても同様です。
- A: 台風で授業やテストが実施されなかった場合
代替日を設けます。案内はT-Poにて行いますので確認を忘れないように注意してください。

病気で欠席した場合
【授業】
医師の診断を受けて診断書を発行してもらい、担当教員に提出してください。その取扱いは担当教員の判断によります。
【試験】
必ず医師の診断を受けて診断書を発行してもらってください。
テスト終了後5日以内（最終日は3日以内）に診断書を持参して、教務課で追試験の手続きをとってください（口頭での申し出は客観的な判断ができませんので追試験を願い出ることはできません）。
- A: 試験は通常の授業時間帯で実施されます。
教室に関しても原則として変更はありません。
- A: 電話での問い合わせはお答えしていません。T-Poで確認してください。
- A: 教務課では、教員の住所を教えることはできません。事前に、授業の始めかましくは終りに課題提出先を担当教員に確認してください。



卒業について

- Q: 卒業論文を提出して、124単位以上修得していれば卒業できますか？
- Q: 卒業論文・卒業研究は124単位の内にカウントされますか？
- Q: 卒業論文・卒業研究を提出したら終わりですか？
- Q: 第I類科目の余剰単位は、第III類科目に認定できるって本当ですか？
- Q: 資格取得を目指して修得した単位は、資格をあきらめた後でも卒業単位として認定できますか？
- A: 124単位以上修得済=卒業とは限りません。第I類科目、第II類科目、第III類科目を規定どおり単位修得できているか、確認する必要があります。4年生の履修登録時には細心の注意が必要です。
- A: 卒業論文・卒業研究の8単位は、124単位に含まれます。
- A: 卒業論文を提出した後、口述試問が実施されます。口述試問の期間は各学科により異なりますので、それぞれの学科で確認してください。
- A: 第III類科目として認定します。
- A: 第III類科目として認定します。



成績通知表について

- Q: 卒業論文の欄が「Z」になっているのですが、何ですか？
- Q: 評価に関して疑問があるのですが、どうすればいいですか？
- Q: 成績通知表を紛失してしまいました。再発行してもらえますか？
- A: 卒業論文を登録し、論文を提出しなかったことに対する評価です。1年間の指導後は半年ごとに評価がされます。
- A: 評価「D」または、評価「Z」のみ教務課窓口で疑問を受け付けます。ただし、指定の期間以外は受け付けしません。指定の期間については、ガイドンス資料に掲載しています。
- A: 再発行はしていません。修得した単位は、T-Poで確認ができます。



資格について

- Q: 資格登録はどこで行えばよいですか？
- Q: 教員免許をとりたいのですが、どうすればいいですか？
- Q: 資格の科目が足りず卒業となってしまいます。卒業後、科目等履修生として足りない科目の単位を修得して資格を取得することができますか？
- Q: 資格登録期間中に登録を忘れてしまいました。どうしたらいですか？
- Q: 資格の認定証や修了証はいつもらえますか？
- Q: 現在3年生なのですが、今からでも資格はとれますか？
- A: 資格登録期間に1号館1階の証明書発行機で納金し、用紙を教務課に提出してください。
- A: 1年生は、秋学期実施の教職ガイドンスに出席してください。
2年生以上は、春学期実施の教職ガイドンスに出席してください。
- A: 科目等履修生として、資格に必要な単位が充足できれば、資格を取得することができます。
- A: 今学期は登録できません。次学期の登録期間に登録してください。
- A: 卒業時に認定証・修了証を授与します。
- A: 資格登録は行えます。ただし、諸資格科目の履修は、2年次から4年次までの3年間でカリキュラムが組まれていますので、資格取得に必要な単位を卒業までに修得できるとは限りません。



その他

Q:先生が、大学にいつ来ているか教えてください。
どこにいるか教えてください。

Q:授業で配られた大正大学書式の原稿用紙・レポート用紙は自由にもらうことができますか？

Q:転学部・転学科・転コースを希望していますが、どうしたらいいですか？

A:専任教員については、各学科で確認してください。非常勤教員は、基本的に授業がある曜日・時限のみ出校しています。教員の授業時間割は、T-Poにて確認することができます。

A:窓口等では配布していません。担当教員から受け取ってください。

A:欠員が生じている学科のみが実施します。転学部・転学科・転コース試験が実施されるかどうかは、11月(予定)にT-Poで確認してください。



大正大学履修規程
／試験規程(抜粋)

／学則(抜粋)

大正大学履修規程

(目的)

第1条 この規程は、大正大学学則第2章第4節の規程に基づき、履修について必要な事項を定めるものとする。

(適用)

第2条 本履修規程は、年度により部分的に異なることがあるが、原則として入学年度の規程を適用する。ただし、編入生の場合は、この規程を適用しないことがある。

(授業科目と履修方法)

第3条 授業科目は、第Ⅰ類、第Ⅱ類及び第Ⅲ類から構成される。

第4条 前条に規定する第Ⅰ類・第Ⅲ類科目は、必修科目、選択科目、自由科目に分類され、これを各年次に配当して編成するものとする。

第5条 第Ⅰ類科目は「学びの窓口」「学びの技法」の2つの科目群で構成され、それぞれの履修については、学則別表に示す授業科目の履修方法によるものとする。ただし、卒業単位として認定できる単位数は、26単位とする。27単位以上履修した場合については、第Ⅲ類科目の単位数として認定する。

2 第Ⅱ類科目の履修については、各学科の学則別表に示す授業科目の履修方法によるものとする。

3 第Ⅲ類科目は共通選択科目とし、学則別表による各群から、各学科により定められた単位を卒業までに履修するものとする。

ただし、教職・資格等に関する科目のうち、教科に関する科目は各学科及び取得しようとする資格によって履修が指定される。

4 第Ⅲ類科目のうち、卒業単位として認定できる単位数は、30単位を上限とする。

5 本学が必要と認める場合は、他の教育・研究機関の協力を得て授業を実施することができる。

第6条 教育上有益と認めるときは、本学が実施する課外学習講座、協定・教育提携により履修した授業科目、協定・認定留学中に履修した授業科目、大学以外の教育施設における学修、入学準備学習などで修得した単位を、合計60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

第7条 卒業要件は各学科の定めるところにより、計124単位修得するものとする。

第8条 教育職員免許状を取得しようとする者は、別に定める教職に関する科目の単位を修得しなければならない。

2 社会教育主事となる資格を取得しようとする者は、別に定める社会教育に関する科目の単位を修得しなければならない。

3 学芸員となる資格を取得しようとする者は、別に定める博物館に関する科目の単位を修得しなければならない。

4 司書となる資格を取得しようとする者は、別に定める司書に関する科目の単位を修得しなければならない。

5 学校図書館司書教諭の資格を取得しようとする者は、別に定める学校図書館司書教諭に関する科目の単位を修得しなければならない。

6 社会福祉士の国家試験受験資格を取得しようとする者は、別に定める社会福祉士に関する科目の単位を修得しなければならない。

7 精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得しようとする者は、別に定める精神保健福祉士に関する科目の単位を修得しなければならない。

8 日本語教員養成講座を履修しようとする者は、別に定める日本語教員資格に関する科目の単位を修得しなければならない。

9 社会教化者養成講座を履修しようとする者は、別に定める社会教化者資格に関する科目の単位を修得しなければならない。

10 社会福祉主事となる資格を取得しようとする者は、別に定める社会福祉主事に関する科目の単位を修得しなければならない。

11 児童指導員となる資格を取得しようとする者は、別に定める児童指導員に関する科目の単位を修得しなければならない。

(授業科目的開講、受講生の抽選・選抜)

第9条 授業科目のうち、履修登録者数が5名に満たない科目については、原則として開講しない。

2 一部の授業科目については、選抜試験又は抽選等で受講生を選定することがある。

3 前項の科目及び定員については教務課で指示する。

(履修登録・確認)

第10条 学生は、履修しようとする授業科目について、学期始めの所定の期間に登録及び確認をするものとする。

2 履修登録はすべて自己の責任において行うものとする。理由なく他人の登録を代行することはできない。

3 履修登録手続きに不備や誤りがあった場合は、当該授業科目的登録は無効となり、たとえ受講しても単位は認定しない。

4 指定の期間内に履修登録をしていない科目については、履修並びに試験を受験することができない。

5 正当と認められる理由に基づき、指定期間内に履修登録ができない場合は、あらかじめその理由を付して教務課に届け出なければならない。

6 同じセメスターにおいて同一科目を重複して履修登録できない。

7 単位修得済みの科目は、再度履修登録できない。

8 同一時限に複数の授業科目を登録することはできない。

9 春学期に通年科目を登録した場合、これと同一時限に開講される秋学期の別の科目は履修できない。

10 授業科目に配当されている履修年次及び年次別に定められている登録単位の制限の規定に反して履修登録を行った場合は、全ての授業科目的履修登録を無効とする。

11 登録に際しては、先修科目的原則は厳守しなければならない。

(履修許可の取り消し)

第11条 履修を許可された後においても、本規程に違反して申請したことが判明した場合には履修の許可を取り消すことがある。

(履修登録の変更)

第12条 履修登録後に科目を変更、追加する場合は、正当な理由がある場合に限り、別に指定する期間内に所定の手続きを行うことにより、変更を許可することがある。

2 履修登録後に科目を取り消したい場合は、当該学期開始3週間以内に所定の手続きを行わなければならない。

3 履修に関する異議申し立てをする際には、履修確認表を提示しなければならない。

(再履修)

第13条 必修科目的単位の認定を受けることができなかったときは、当該科目的単位認定を得るまで再履修をしなければならない。

2 選択科目的単位の認定を受けることができなかったときは、当該科目を再履修するか、もしくは当該科目群の他の科目を履修しなければならない。

(試験)

第14条 授業科目的履修した者に対して、試験を行う。

第15条 試験は、単位試験と卒業論文・卒業研究試験の2種とする。

2 試験に合格した者には、所定の単位を与える。

大正大学履修規程

(試験時間)

第16条 試験時間は、原則として60分とする。

(受験資格)

第17条 次の各号のいずれかに該当する学生は、受験資格がないものとする。

- (1) 当該学期の履修登録をしていない者
- (2) 授業出席回数が3分の2に満たない者
- (3) 学費を指定期間内に納入していない者
- (4) 休学及び停学中の者
- (5) 学生証を携帯していない者

(不正行為)

第18条 試験場における次の行為については、学則第61条及び62条により処分を行う。

- (1) 試験場において監督者の指示に従わない場合。
- (2) 当該試験において許可されている以外の方法で解答を得たと認められる場合。
- (3) 他人の学生証又は本学の学生証以外で受験した場合。
- (4) 当該授業の履修登録者以外が履修登録者と偽って受験した場合。

2 前項(1)～(4)による不正行為を認めた場合は、直ちに当該試験の受験を中止させ、解答用紙を回収した上、退場を命ずる。

3 第1項(3)及び(4)による不正の場合は、当該受験者に不正の教唆又は学生証の貸与を行った者も処分の対象とする。

(単位の認定)

第19条 単位認定の基準は、次のとおりとする。

1 単位は標準45時間の学修をする教育内容をもって構成するものとし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 1つの授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める時間数をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究については、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合、これに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

(単位認定の時期)

第20条 単位認定の時期は、次のとおりとする。

- (1) 春学期開講科目は、9月15日とする。
- (2) 春学期以外の開講科目（通年・秋学期・夏期・冬期休業期間）は、3月15日とする。

(登録単位の制限)

第21条 各学期に登録できる単位数は、以下のとおりとする。

学年	1年次		2年次		3年次		4年次	
セメスター	第1 春	第2 秋	第3 春	第4 秋	第5 春	第6 秋	第7 春	第8 秋
制限単位 (第Ⅰ類・第Ⅱ類)	24	24	24	24	24	24	24	24

- (1) 第Ⅲ類科目は、制限単位に含めない。
- (2) 夏期休業期間中の開講科目は、秋学期の制限単位に含める。
- (3) 卒業論文・卒業研究は制限単位に含めない。
- (4) 通年開講科目の単位は、春学期・秋学期に等分して、各学期の制限単位に含める。
- (5) 集中講義科目は、開講学期に含める。

(成績の評価)

第22条 授業科目の試験の成績は、次の基準によるものとする。

評価	判定
(1) A A	合格
(2) A +	合格
(3) A	合格
(4) A -	合格
(5) B +	合格
(6) B	合格
(7) B -	合格
(8) C +	合格
(9) C	合格
(10) D	不合格
(11) Z	不合格
(12) T	合格

2 成績通知表には、前項の評語を用いる。

3 本学に入学する前に修得した単位を、本学の卒業単位として認定した場合、その科目には「T」の記号がつく。

(総合成績評価)

第23条 前条の成績の評価に以下のポイントを設定し、不合格科目を含めて、履修科目のアベレージ(GPA値)を算出し、学期毎に総合成績評価を行う。ただし、T評価の科目については、GPA値の対象外とする。

評価	ポイント	判定	基準
(1) A A	4.0点	合格(最優秀)・A A	極めて優秀な成績
(2) A +	3.5点	合格(優秀)・A	優秀な成績
(3) A	3.0点	合格(良)・B	受講生の中で平均的な成績
(4) A -	2.7点	合格(可)・C	平均より劣るが、合格に値する成績
(5) B +	2.4点	不合格(不可)・D	合格に達しない
(6) B	2.0点	不合格(否)・Z	評定不能
(7) B -	1.7点		
(8) C +	1.4点		
(9) C	1.0点		
(10) D	0.0点		
(11) Z	0.0点		
(12) T	—		本学の授業科目における合格判定(上記(1)から(9)を除く)及び他大学による単位認定・T

2 成績証明書には、前項の判定欄の評語を用いる。

3 第1項の基準により算出したアベレージ(GPA値)を以下のように総合評価する。

GPA値 総合成績評価

(1) 3.5～4.0	最優秀
(2) 3.2～3.4	優
(3) 1.6～3.1	良
(4) 1.0～1.5	可

大正大学履修規程

(進級・卒業論文登録資格)

第24条 進級及び卒業論文・卒業研究登録資格については、次のとおりとする。

(1) 第1学年から第2学年への進級基準

- ① 第1学年に1年(2学期)以上在学し、総修得単位数が20単位以上であること。ただし、同一科目、同内容の科目は除く。
- ② 総修得単位数が20単位未満の者は留年とする。ただし、第1学年の在学期間は、2か年(4学期)を限度とする。

(2) 第2学年から第3学年への進級基準

- ① 第2学年に1年(2学期)以上在学し、総修得単位数が62単位以上であること。ただし、同一科目、同内容の科目は除く。
- ② 第2学年終了時に、総修得単位数が62単位未満の者は留年とする。ただし、第2学年の在学期間は、2か年(4学期)を限度とする。

(3) 第3学年から第4学年への進級基準

- ① 第3学年の1年間(2学期)以上在学し、総修得単位数が90単位以上であること。
- ② 第3学年終了時に、総修得単位数が90単位未満の者は留年とする。ただし、第3学年の在学期間は、2か年(4学期)を限度とする。

第25条 本学に4年(8セメスター)以上在学し、所定の授業科目の124単位以上修得した者には学士の学位を授与する。

(転学部・転学科・転コース)

第26条 他の学部、学科又はコースへの移籍については、1・2年に限り選考のうえ許可することがある。ただし、欠員のある場合に限る。

2 当該学生は、学長に願い出て許可を得なければならない。

3 受験資格は、次のとおりとする。

- (1) 他の学部、学科への移籍を希望する場合は、進級基準を既に満たしている者あるいは満たす見込みの者で、受験の前学期までのGPA値が3.2以上であること。
- (2) 同一学科内の他コースへの移籍を希望する場合は、進級基準を既に満たしている者あるいは満たす見込みの者であること。

(退学)

第27条 学則第50条(2)により退学させる者とは、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 第1学年、第2学年、第3学年の各学年において、2か年(4学期)在学してもなお、次学年に進級できない者
- (2) 在学した直近3学期連続して、各学期の履修科目のGPA値1.0未満の者。ただし、第4学年に在籍している者は除く。

(改廃)

第28条 この規定の改廃は、代議員会の議を経て、学長が行う。

附則

1.この規程は、平成28年4月1日から施行する。

2.平成25年以前の入学生の進級、卒業論文登録資格は、第24条(1)~(3)の規定にかかわらず、従前の例による。

大正大学試験規程(抜粋)

(目的)

第1条 この規程は、大正大学学則第43条による単位試験の取扱いについて定める。

(試験の種類)

第2条 試験の種類は、定期試験、臨時試験、追試験、及び再試験とする。

(試験の方法)

第3条 試験の方法は、筆記試験、レポート試験、実技試験、口述試験及び当該科目の担当教員が指示する方法等によって行うものとする。

(受験資格)

第4条 次の各号の一に該当する学生は、受験資格がないものとする。

- (1) 当該学期の履修登録をしていない者
- (2) 学費を指定期間内に納入していない者
- (3) 休学及び停学中の者
- (4) 学生証を携帯しない者

(学生証の携帯)

第5条 学生は、受験に際して学生証を机上に提示しなければならない。

2 前項の学生証は、学生課が発行する仮学生証をもってこれに代えることができる。仮学生証は、試験開始前に学生課に願い出て交付を受けなければならない。

第6条 (略)

(遅刻・退場)

第7条 試験開始後20分経過後は、試験場への入場を認めない。

2 試験開始後30分以内は、退場を認めない。

(不正行為)

第8条 試験場において次の行為があった場合は、学則第61条及び62条により処分を行う。

- (1) 試験場において監督者の指示に従わないとき
- (2) 当該試験において許可されている以外の方法で解答を得たと認められるとき
- (3) 他人の学生証又は本学の学生証以外で受験したとき
- (4) 当該授業の履修登録者以外が履修登録者と偽って受験したとき

2 前項第1号から第4号による不正行為を認めたときは、直ちに当該試験の受験を中止させ、解答用紙を回収したうえ、退場を命ずる。

3 第1項第3号及び第4号による不正の場合は、当該受験者に不正の教唆または、学生証の貸与を行った者も処分の対象とする。

大正大学学則(抜粋)

第22条 学生の在学年限は、8年(16学期)を超えることができない。

2 編入学生の在学年限は、4年(8学期)を超えることができない。

第51条 学生が次の各号の一に該当するときは、これを除籍する。

- (1) 定める期間内に学費を納入しない者
- (2) 学則第22条に定める期間に卒業できない者
- (3) 学則第46条第2号に定める休学期間を超えてなお復学できない者

第61条 本学に在学する者で本学の学則及び規則に違反し、又は学生の本分にもとり、本学の名誉を毀損する行為ある者及び成業の見込みのない者は、代議員会の議を経て学長がこれを懲戒する。

第62条 懲戒は譴責、謹慎、停学及び退学とする。

あとがきに代えて

本学は大正15年に設立され、数々の分野で実績を残してきました。新しい世紀を迎えたが、本学設立の精神は、時代が移り変わってどんな社会状況となっても永久に不動のものと確信しています。ここに初代学長の建学のことばの抜粋を揚げ、その意図するところを学生のみなさんとともに探究していきたいと思います。

建学のことばより

新たに生れ出た大正大学には宗教的敬虔の心持に、大乗佛教的精神を力強く發揮させねばならぬと考えます。教授・講師は申すまでもなく、学生も知識否、智慧の熱愛者であり、謙遜真摯の態度を以て真理を求めて已まざるものであってほしい。道徳と道理の前には極めて従順であると共に、悪と非理に対しては一歩も屈せざる勇気が溢れることを望みます。必ずしも神秘とは言わない不思議とは申しませんが、何となく聖く儼かな靈的な雰囲気が学内に漂って居って、来って此学園に学ぶ者を薰化し感化するものがあればと存じます。近世世界の文明國を通して自我の覺醒を見んとするは貴ぶべきことであります、自己個人の小なる権利、それは仏祖が極力呵責し給いし、我欲我執を滔々として主張する風ある間に立ちて、あくまで利他を念として忘れないようにありたいと存じます。

率直に自己の過失罪悪を懺悔すると共に、本来具する仏性を開顯して、人格の完成に猛然と精進することを望んでおります。少なくとも善を贊美する優しい心と悪に近づかない猛き気を持ちたいと存じます。かかる願望を一步一步満足し行く所に本大学存在の意義が明らかにされるものと信じます。

大正15年11月5日 創立記念式典にて

初代学長 澤柳 政太郎

2017年度入学者用履修要項

平成29年4月1日発行
編集：大正大学 教務課
制作協力：(有)立花印刷

2017年度大学院履修要項

平成29年4月1日発行

編 集：大正大学 教務課

制作協力：(有)立花印刷